

Endeavor

AT970

ユーザーズマニュアル

ご使用
の前に

設置
・
準備

1

基本
操作

2

装置の
増設

3

BIOS
設定

4

再
インス
トール

5

困った
ときに

6

付録

Windows XP


ご使用前に


- ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために


このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。




 **警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 **注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。








障害や事故の発生を防止するための禁止事項の内容を表しています。

	製品の取り扱いにおいて、してはいけない行為（禁止行為）を示しています。
------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------

障害や事故の発生を防止するための指示事項の内容を表しています。

	必ず行う事項（指示、行為）を示しています。
	電源プラグをコンセントから必ず抜くことを示しています。
	アース端子を接地（アース）することを示しています。

⚠ 警告

	<p>交流100V以外の電源は、使用しないでください。 交流100V以外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。</p>
	<p>ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。</p>
	<p>雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。 感電の原因となります。</p>
	<p>電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。 取り扱いを誤ると、火災の原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。 ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。 ・電源プラグを長期間コンセントに差したままにしない。 <p>電源プラグは、定期的にコンセントから抜いて、刃の根元や刃と刃の間を清掃してください。</p>
	<p>電源コードのたこ足配線はしないでください。 発熱し、火災の原因となります。 家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。</p>
	<p>破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。 電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源コードを加工しない。 ・無理に曲げたり、ねじったり、引っばったりしない。 ・電源コードの上に重いものを載せない。 ・発熱器具の近くに配線しない。 <p>電源コードが破損したら、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。</p>
	<p>本機から異臭や異音がする、発煙するなど、異常状態のまま使用しないでください。 感電・火災のおそれがあります。 すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。 お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。</p>
	<p>通風孔など開口部から、本機内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。 感電・火災の原因となります。</p>

⚠ 警告

 	<p>水などの液体や異物が本機内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。感電・火災の原因となります。</p> <p>すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。カスタマーサービスセンターへの連絡方法は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。</p>
 	<p>光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアを使用しないでください。飛び散って、けがをする危険があります。</p>
 	<p>本機の分解・改造や、マニュアルで指示されている以外の増設・交換はしないでください。</p> <p>けが・感電・火災の原因となります。</p>
	<p>装置の増設・交換などをするときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。</p> <p>感電や火傷の原因となります。</p>
 	<p>小さなお子様手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。</p> <p>飲み込むと化学物質による被害の原因となります。</p> <p>万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。</p>
 	<p>小さなお子様手の届くところに、マウスボールやボールフレームを取り外したまま放置しないでください。</p> <p>口に入れたりすると窒息する危険があります。</p>
 	<p>マウスボールは、絶対に投げないでください。</p> <p>マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。</p>
	<p>電源プラグのアース端子を接地（アース）してください。</p> <p>接地しないで使用すると、感電の危険性があります。</p> <p>アースは必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に行ってください。また、アースを外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。</p>
	<p>アース端子は、絶対にガス管に接続しないでください。</p> <p>火災の原因となります。</p>
	<p>アース端子は、コンセントに挿入または接触させないでください。</p> <p>感電の危険があります。</p>

⚠ 注意

	<p>小さなお子様の手の届くところに設置、保管しないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。</p>
	<p>不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。 落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。</p>
	<p>湿気やホコリの多い場所に置かないでください。 感電・火災の危険があります。</p>
	<p>本機の通風孔をふさがないでください。 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。 設置する際は、次の点を守ってください。 ・押し入れや本箱など風通しの悪いところに設置しない。 ・じゅうたんや布団の上などに設置しない。 ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。</p>
	<p>各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。 配線を誤ると、火災の危険があります。</p>
	<p>拡張ボードやメモリの交換・増設などは本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。本機の電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから作業を行ってください。</p>
	<p>ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。 ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。</p>
	<p>光ディスクドライブのディスクトレイに手を入れ、挟まれないようにしてください。 けがの原因になります。</p>
	<p>長時間または不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。 肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となります。</p>
	<p>本機を移動する場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。</p>
	<p>連休や旅行などで本機を長期間使用しないときは、安全のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。</p>

注意

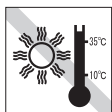


本機を廃棄する場合は、法律に従って正しい処理をしてください。

製品保護上の注意

▶使用・保管時の注意

コンピュータ（本機）は精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本機を正しく取り扱ってください。



温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。本機の誤動作が生じたり、データが破損したりすることがあります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。また、直射日光などの紫外線は、変色の原因になります。



電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎざぎざの所など）に本機を置かないでください。電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えてしまいます。



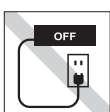
本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



本機の上には重い物を載せないでください（本機が横置きの場合は、18kgまでのディスプレイを載せることができます）。重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。



遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。



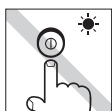
コンセントに電源プラグを接続したまま、本体カバーを外して作業しないでください。電源を切っても、本機内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。配線ケーブルはすべて取り外し、光ディスクメディアなどは取り出してください。



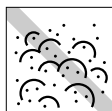
移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。内蔵の周辺機器（HDD、光ディスクドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



アクセスランプ点灯中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



他の機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



ホコリの多い所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。

▶記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破損するおそれがあります。記録メディアの種類は、次のとおりです。

FD FD

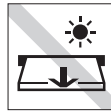
CD 光ディスクメディア

MC メモリカード

記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



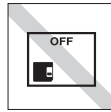
直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



アクセスランプ点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



上に物を載せないでください。



使用後は、本機にセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。専用のケースに入れて保管してください。



キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用したり保管したりしないでください。



クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



アクセスカバーを開けたり、磁性面あるいは金属端子に触れたりしないでください。

FD MC



磁性面あるいは金属端子にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。

FD MC



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

FD MC



何度も読み書きしたFDは使わないでください。磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。

FD



信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。

CD



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。

CD



レコードのように回転させて拭かないでください。内側から外側に向かって拭いてください。

CD



光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。

CD



シールを貼らないでください。

CD



信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。

CD



温度差の激しい場所に置かないでください。結露する可能性があります。

CD

▶マウス

マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。



落としたり、ぶついたりして強い衝撃を与えないでください。



マウスボールを素手で触らないでください。



持ち運びの際はマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



ゴミやホコリの多いところで使用したり、保管したりしないでください。マウスボールにゴミやホコリが付いたまま使用すると、誤動作の原因になります。

目次

製品保護上の注意	7
使用・保管時の注意	7
記録メディア	8
マウス	9

はじめに

マニュアル中の表記	14
本製品の仕様とカスタマイズ	17

使い始めるまでの準備

ご使用の前に	20
本機を使い始めるまでの手順	20
ご使用前の確認事項	21
添付されているソフトウェア	22
本機でできること	25
各部の名称と働き	26
本体前面	26
本体背面	27
FDD (オプション)	29
マルチカードリーダー (オプション)	30
コンピュータの設置	31
電源の入れ方とWindowsのセットアップ	41
Windowsが使用できるようになるまでの作業	41
電源を入れる前に	42
電源の入れ方とWindowsの起動	43
Windowsのセットアップ	44
初期設定ツール	47
セットアップ完了後の作業	48
Windows使用時の確認事項	49
Windows XPの使用法	49
2回目以降に電源を入れる	50
音量の調節	50
インフォメーションメニューを使う	51
復元ポイントを作成する	53
セキュリティ対策を行う	53
画面表示が消えたときは (省電力機能)	53
Windows CD-ROMを要求されたときは	53
コントロールパネルの表示	54
電源の切り方	55
Windowsの終了と電源の切り方	55
再起動	56
ハングアップしたときは	56

コンピュータの基本操作

キーボードを使う	58
キーの種類と役割	58
文字を入力するには	59
日本語を入力するには	59
キーロック表示ランプ	60
マウスを使う	61
マウスの操作	61
マウスの設定変更	61
FDDを使う (オプション)	62
FDのセットと取り出し	62
FDのフォーマット	64
ライトプロテクト (書き込み禁止)	65
HDDを使う	66
データのバックアップ	66
購入時のHDD領域	66
HDDを分割して使用する	67
光ディスクドライブを使う	68
使用可能な光ディスクメディア	68
光ディスクメディアのセットと取り出し	69
強制的な光ディスクメディアの取り出し	72
CDメディアの読み込み・再生	73
DVDメディアの読み込み・再生	73
光ディスクメディアへの書き込み	74
Nero 7 Essentialsの使い方	75
マルチカードリーダーを使う (オプション)	77
使用可能なメモリカード	77
マルチカードリーダー使用時の注意	79
メモリカードのセットと取り出し	80
USB機器を使う	83
USB機器の接続と取り外し	83
画面表示機能を使う	85
使用できるディスプレイ	85
表示に関する各種設定	86
解像度や表示色を変更するには	86
表示できる解像度と表示色	87
表示装置に関する設定	88
2台のディスプレイに表示する	89
サウンド機能を使う	92
外部スピーカなどの接続	92
音量の調節	94
音声の再生・録音	94
サウンドユーティリティを使う	95
録音時の音量調節	95
ネットワーク機能を使う	97

ネットワークの構築	97
インターネットへの接続	97
Wakeup On LAN	98
リモートブート	99
インターネットに接続するには	100
接続するまでの流れ	100
接続方法の選択とプロバイダとの契約 ...	100
インターネットに接続する	101
インターネットを使う上での注意	102
インターネットや電子メールを利用する ...	102
インターネットを使用する際のセキュリティ対策 ...	105
Windows Update	105
セキュリティソフトウェア	107
ファイアウォール	108
Webフィルタリングソフトウェア	109
省電力機能を使う	112
省電力機能使用時の制限	112
省電力状態の種類	113
省電力状態に移行する	115
省電力状態から復帰する	116
そのほかの機能	117
パラレルコネクタ	117
シリアルコネクタ	117
SpeedStep (スピードステップ) 機能 ...	117
セキュリティロックスロット	118

システムの拡張

拡張できる装置	120
作業時の注意	122
拡張時の準備作業	123
本体カバーの取り外し・取り付け	123
メモリの装着	126
メモリの仕様	126
メモリ装着の組み合わせ	127
メモリの取り付け・取り外し	127
メモリの増設・交換後の作業	130
拡張ボードの装着	131
拡張スロットの仕様	131
拡張ボードの取り付け・取り外し	132
拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業 ...	135

BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に	138
BIOS Setupユーティリティの操作	139

BIOS Setupユーティリティの起動	139
BIOS Setupユーティリティの操作	140
BIOS Setupユーティリティの終了	143
設定値を元に戻す	144
パスワードを設定する	145
HDDアクセス制限	147
起動 (Boot) デバイスの順番を変更する ...	148
BIOS Setupユーティリティの設定項目	150
Mainメニュー画面	150
Advancedメニュー画面	152
Power メニュー画面	154
Bootメニュー画面	156
Exitメニュー画面	158
BIOSの設定値	159

ソフトウェアの再インストール

再インストールする前に必ずお読みください	162
再インストールが必要な場合	162
重要事項	162
ソフトウェアの再インストールを行う	164
必要なメディア	164
再インストールの概要	164
インストールの順番	165
インストール作業における確認事項	166
Windows XPのインストール	168
Windows XPをインストールする	169
リカバリツールのインストール	173
本体ドライバのインストール	174
拡張ボードのドライバのインストール ...	175
Adobe Readerのインストール	176
セキュリティソフトウェアのインストール ...	177
Webフィルタリングソフトウェアのインストール ...	177
マニュアルびゅうのインストール	178
Nero 7 Essentialsのインストール	179
WinDVDのインストール	179
JWord Pluginのインストール	180
gooスティックのインストール	180
マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版の インストール	181
そのほかのインストール	182
再インストール後の作業	182

こんなときは

トラブルが発生したら	186
------------------	-----

困ったときに	187	本機のお手入れ	218
コンピュータ本体の不具合（起動時） ...	188	マウスのお手入れ	219
コンピュータ本体の不具合	196	データのバックアップ	221
メモリの不具合	199	バックアップ方法	221
記憶装置の不具合	200	バックアップCDの作成	223
入力装置の不具合	205	バックアップCDの作成方法	223
表示装置の不具合	206	バックアップCDからインストールを行うには ...	224
サウンドの不具合	208	電子マニュアルのダウンロード	225
ソフトウェアの不具合	208	ダウンロードできるそのほかのデータ ...	225
ネットワーク、インターネットの不具合 ...	211	セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化 ...	226
システム診断ツールを使う	212	HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成	227
システム診断ツールの種類	212	HDD領域を分割して使用する（概要） ...	227
システム診断を実行する	212	Cドライブを分割・変更する	228
トラブル時に役立つ機能	214	Cドライブ以外のドライブを作成・変更する ...	231
セーフモードでの起動	214	Cドライブ以外のドライブを削除する ...	235
システムの復元	214	リチウム電池の交換	236
警告メッセージが表示されたら	216	CMOS RAMの初期化	239
付録		コンピュータを廃棄するときは	242
お手入れ	218	HDDのデータを消去する	242
		機能仕様一覧	244
		索引	245

はじめに

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

「マニュアル中の表記」	14
「本製品の仕様とカスタマイズ」	17

マニュアル中の表記

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



制限事項です。
機能または操作上の制限事項を記載しています。



参考事項です。
覚えておくと便利なことを記載しています。



本書とは別のマニュアルを示します。
例) 『梱包品の確認』: 本機に添付の『梱包品の確認』を示します。




参照先を示します。




1 2



操作手順です。
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。



 で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。



 はEnterキーを表します。また、 は  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。

+の前のキーを押したまま+の後のキーを押します。
この例では、 を押したまま  を押します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CDメディア、DVDメディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称
メモリカード	メモリースティック、マルチメディアカード、 SDメモリーカード、スマートメディア、 コンパクトフラッシュの総称

オペレーティングシステム（OS）に関する記述

本書では、オペレーティングシステム（OS）の名称を次のように略して表記します。

Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional Microsoft® Windows® XP Home Edition
------------	----------------------------------------------------------------------------

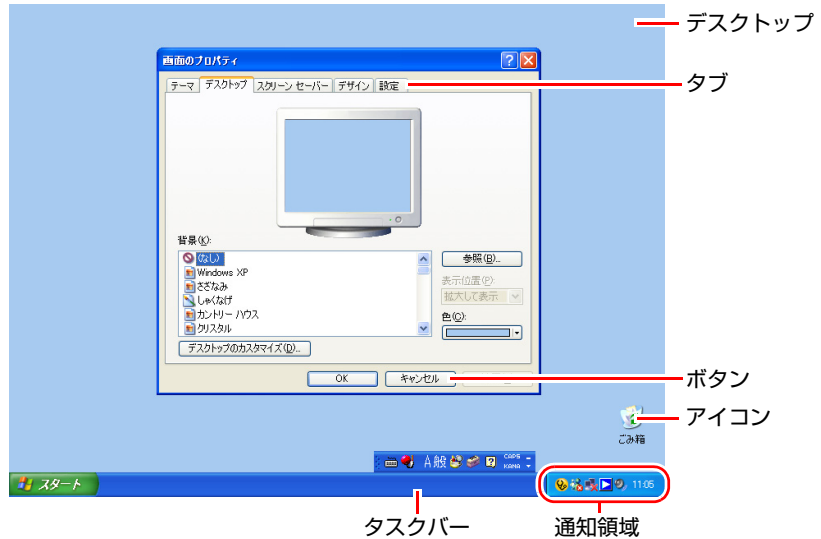
HDD 容量の記述

本書では、HDD 容量を1KB（キロバイト）=1000Byteとして記載しています。

Windowsの画面表示に関する記載方法


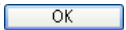
デスクトップ画面

本書では、Windows XPの画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



ボタン

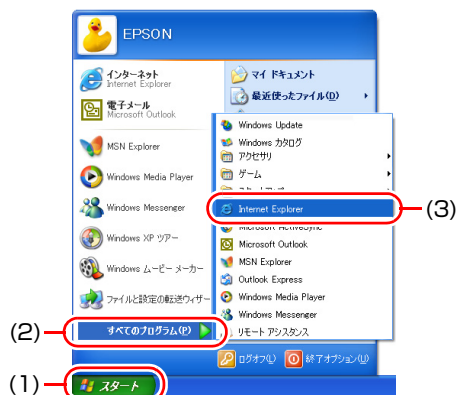
ボタンは [] で囲んで記載します。

例)  スタート : [スタート] /  OK : [OK]

画面操作

本書では、Windows XPの画面上で行う操作手順を次のように記載します。

- 記載例
[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Internet Explorer」をクリックします。
- 実際の操作
(1) [スタート] をクリックします。
(2) 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。
(3) 横に表示されるサブメニューから「Internet Explorer」をクリックします。



本製品の仕様とカスタマイズ

本製品は、ご購入時にお客様が選択されたオプションによって、仕様がカスタマイズされています。CPUの種類・メモリ容量・光ディスクドライブなど、選択した仕様に合わせて、お客様オリジナルのコンピュータとして組み立て、納品されています。

本書で記載しているコンピュータの製品仕様

本書では特に記載がない限り、下記の製品仕様で説明を行っています。お客様が購入された製品の仕様が下記と異なる場合、それらの使用方法やドライバのインストール方法などは、購入時に選択された各装置に添付のマニュアルを参照してください。

メモリ	: 1枚
HDD	: 1台
FDD/マルチカードリーダー	: なし
光ディスクドライブ	: 1台
ディスプレイ機能	: メインボードの機能を使用
ネットワーク機能	: メインボードの機能を使用
サウンド機能	: メインボードの機能を使用
FAXモデム機能	: なし
キーボード	: 109 PS/2 キーボード
マウス	: ホイール付 PS/2 マウス

仕様によって必要なマニュアル

本製品の操作に必要なマニュアルは、お客様が選択された仕様によって、『ユーザーズマニュアル』（本書）とは別に添付されます。

お使いになる仕様によって必要となるマニュアルは、下記のとおり別冊や電子マニュアルなどの形式で添付されています。ご確認ください。

- 本製品に同梱されている別冊マニュアル
- CD-ROMなどに収録されている電子マニュアル（PDFファイルなど）
- コンピュータに収録されている電子マニュアル（「マニュアルびゅーわ」から閲覧）

第1章 使い始めるまでの準備

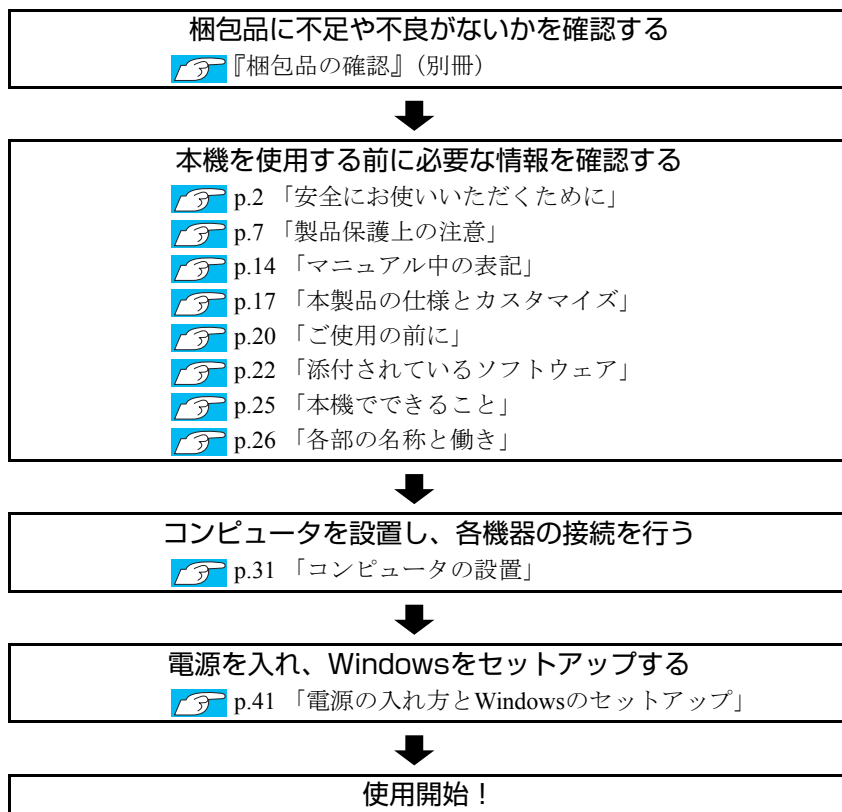
本機の接続方法、電源の入れ方や切り方、Windowsのセットアップについて説明します。

「ご使用前に」	20
「添付されているソフトウェア」	22
「本機でできること」	25
「各部の名称と働き」	26
「コンピュータの設置」	31
「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」	41
「Windows使用時の確認事項」	49
「電源の切り方」	55

ご使用前に

▶本機を使い始めるまでの手順

購入後にはじめて本機を使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。



▶ご使用前の確認事項

貼付ラベルの確認

本機には、製品情報が記載された次のラベルが貼られています。本機をご使用前の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。ラベルは絶対にはがさないでください。

- お問い合わせ情報シール

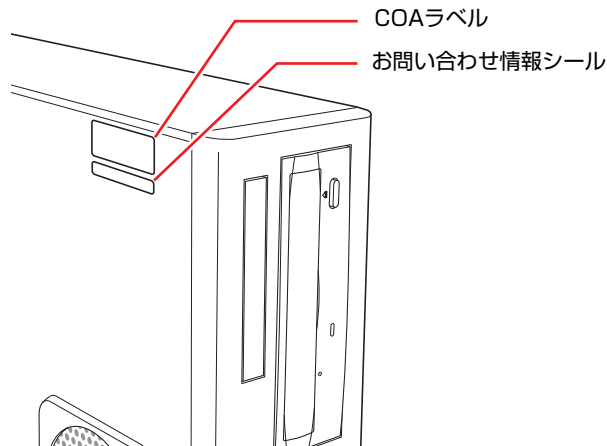
お問い合わせ情報シールには、型番や製造番号が記載されています。当社にサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

お問い合わせ情報シールに記載されている製造番号は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）の表紙に書き写しておいてください。

- COAラベル

COAラベル（Certificate of Authenticityラベル）は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。

万一、COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



サポート・サービスのご案内




『サポート・サービスのご案内』には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや、万一の場合に備えてお読みいただくことをおすすめします。

添付されているソフトウェア




購入時、本機にインストールされているソフトウェアと、購入後、必要に応じてインストールが必要なソフトウェアは次のとおりです。


表中記号の見方

	ソフトウェアは添付のCDに収録されています。
	ソフトウェアはHDDの「消去禁止領域」に収録されています。この領域を削除すると再インストールができなくなります。「消去禁止領域」は、絶対に削除しないでください。  p.67 「消去禁止領域とは」

本機にインストールされているソフトウェア

購入時、次のソフトウェアは、本機にインストールされています。

本機にインストールされているソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none">● Windows XP 本機のオペレーティングシステム (OS) です。	 Windows XPリカバリCD
<ul style="list-style-type: none">● リカバリツール HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアを再インストールするためのプログラムです。	 リカバリツールCD
<ul style="list-style-type: none">● チップセットドライバ メインボード上のデバイスを使用するためのドライバです。● ビデオドライバ メインボード上のディスプレイ機能を使用するためのドライバです。● サウンドドライバ メインボード上のサウンド機能を使用するためのドライバです。● ネットワークドライバ メインボード上のネットワーク機能を使用するためのドライバです。● セキュリティチップドライバ セキュリティチップ (TPM) を使用するためのドライバです。● マルチカードリーダードライバ (マルチカードリーダー搭載時のみ) マルチカードリーダーの各ドライブに名前とアイコンを設定するためのドライバです。● Java2 Runtime Environment Javaアプリケーションを実行するためのソフトウェアです。● インフォメーションメニュー 本機に添付のマニュアルやサポートページを閲覧するためのユーティリティです。● Microsoft .NET Framework .NET Frameworkの開発環境で作成されたアプリケーションなどを使用するためのプログラムです。● Windows Media Player 10 動画や音声を再生するためのソフトウェアです。● システム診断ツール 本機の調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。	 消去禁止領域


本機にインストールされているソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ● Adobe Reader PDF (Portable Document Format) 形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。 	 消去禁止領域
<ul style="list-style-type: none"> ● JWord Plugin Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索するためのソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● gooスティック Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するためのソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● WinDVD (DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ) DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● Nero 7 Essentials (書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時のみ) 光ディスクメディアに書き込みを行うためのソフトウェアです。 	

必要に応じてインストールが必要なソフトウェア

次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされていません。Windowsのセットアップ後に必要に応じてインストールしてください。




p.47 「初期設定ツール」

本機にインストールされていないソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ● Norton Internet Security 90日版 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能、フィッシング詐欺対策機能などを備えたセキュリティソフトウェアです。 	 消去禁止領域
<ul style="list-style-type: none"> ● i-フィルター 4 30日版 インターネット上の有害なWebページへのアクセスを防止するWebフィルタリングソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版 Webサイトの安全性評価を表示し、危険なサイトへのアクセスを防ぐWebセーフティツールです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● セキュリティチップユーティリティ セキュリティチップ (TPM) の設定を行うためのユーティリティです。 	

その他のソフトウェア

次のソフトウェアは、CDから起動して実行します。インストールは必要ありません。

 p.212 「システム診断ツールを使う」

その他のソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none">● システム診断ツール コンピュータの調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。HDD内のデータを消去することもできます。	 リカバリツールCD



消去禁止領域に収録されているソフトウェアのバックアップ

書き込み機能のある光ディスクドライブを搭載している場合、HDDの「消去禁止領域」に収録されているソフトウェアを、CDにバックアップすることができます。

 p.223 「バックアップCDの作成方法」

本機でできること

本機は、主にオフィス向けの基本機能を備えたデスクトップ型コンピュータです。
本機では、次のような操作ができます。



インターネットやメールを利用する

 p.101

光ディスクを再生する
光ディスクにデータを保存する (オプション)

 p.68

ネットワークに接続する

 p.97

USB機器を使う

 p.83

パラレル接続の機器を使う

 p.117

省電力機能を使う

 p.112

シリアル接続の機能を使う

 p.117

ディスプレイを2台接続する

 p.89

装置 (メモリ・拡張ボード) を増設・交換する

 p.119

メモリカードを使う (オプション)

 p.77

音声の入力/出力をする

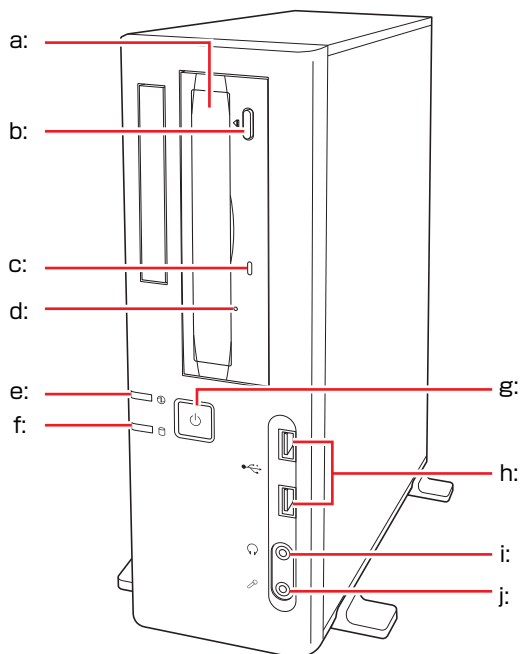
 p.92







FDを使う (オプション)

 p.62

各部の名称と働き

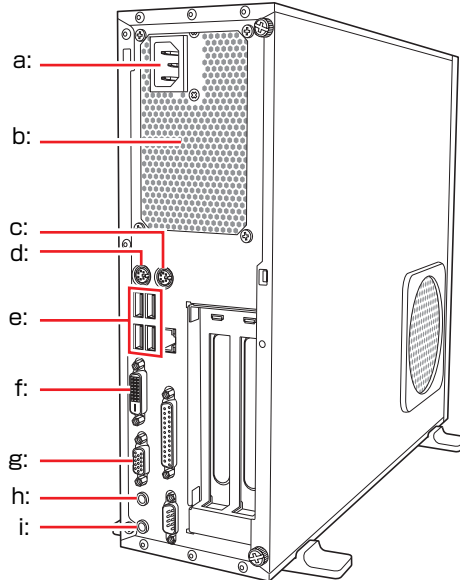
▶ 本体前面



- a: 光ディスクドライブ
CD-ROMなどの光ディスクメディアの読み込みや書き込みなどを行います（光ディスクドライブにより使用できるメディアや機能は異なります）。
- b: 光ディスクドライブイジェクトボタン
ディスクトレイの開閉を行います。
- c: 光ディスクドライブアクセスランプ
光ディスクメディアへのアクセス中に点灯・点滅します。
- d: 光ディスクドライブイジェクトホール
ディスクトレイが開閉しなくなったときに使用します。
- e: 電源ランプ 
電源を入れると緑色に点灯し、スタンバイ中はオレンジ色に点灯します（購入時の設定）。
- f: HDDアクセスランプ 
HDDへのアクセス中に、点灯・点滅します。
- g: 電源スイッチ 
本機の電源の入／切を行います。また、スタンバイや休止状態からの復帰にも使用します。
- h: USBコネクタ 
USB対応の機器を接続します。
- i: ヘッドフォン出力コネクタ 
ヘッドフォンと接続して音声を出します。
- j: マイク入力コネクタ 
マイクを接続して音声を入力します。



▶ 本体背面

**a: 電源コネクタ**

添付の電源コードを接続して電気を供給します。

b: 通風孔

本機内部で発生する熱を逃がします。

c: マウスコネクタ (PS/2)

PS/2対応のマウスを接続します。

d: キーボードコネクタ (PS/2)

キーボードを接続します。

e: USBコネクタ

USB対応の機器を接続します。

f: DVI-Dコネクタ

デジタル方式のディスプレイとDVI-D (デジタル) ケーブルで接続します。

DVI-I (アナログ・デジタル両用) ケーブルは接続できません。

g: VGAコネクタ

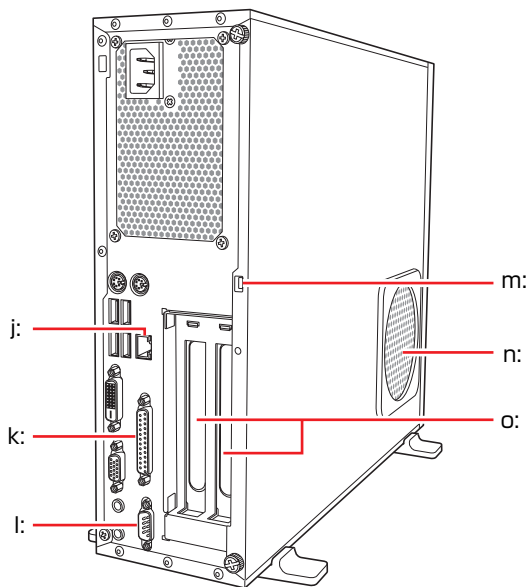
アナログ方式のディスプレイとVGA (アナログ) ケーブルで接続します。


h: ライン入力コネクタ

オーディオ機器と接続して音声を入力します。


i: ライン出力コネクタ

アンプ内蔵スピーカやヘッドフォンなどと接続して音声を出力します。




j: LANコネクタ 

LANケーブルを接続します。

k: パラレルコネクタ 

プリンタやスキャナなど、パラレルコネクタに対応した装置を接続します。

l: シリアルコネクタ 

モデムなど、RS-232Cインタフェースに対応した装置を接続します。

m: セキュリティロックスロット

市販の盗難抑止用ケーブル（ワイヤー）を取り付けます。

n: 通風孔

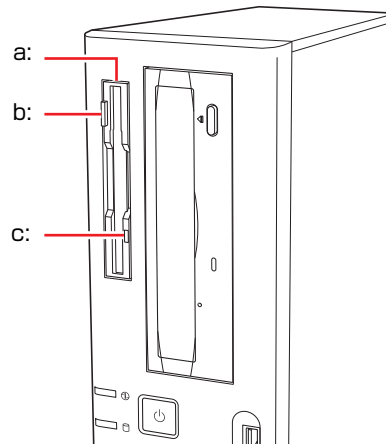
本機内部に外気を取り入れます。

o: 拡張スロット

拡張ボードを装着します。購入時のシステム構成によっては、あらかじめ拡張ボードが装着されています。

▶FDD (オプション)

本機購入時にFDDをオプション選択された場合、本機にはあらかじめFDDが装着されています。



a: 3.5型FDD

3.5型FDのデータの読み込み、書き込みを行います。

b: FDDイジェクトボタン

FDDにセットしたFDを取り出すときに押します。

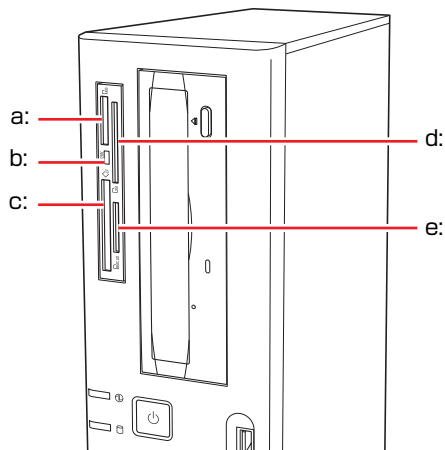
c: FDDアクセスランプ

FDに読み書きを行っているときに点灯します。

USB FDDをオプション選択された場合は、USB FDDに添付のマニュアルをご覧ください。

▶マルチカードリーダー (オプション)

本機購入時にマルチカードリーダーをオプション選択された場合、本機にはあらかじめマルチカードリーダーが装着されています。



a: メモリースティックスロット \square_{MS}
メモリースティックをセットします。

b: マルチカードリーダーアクセスランプ $\circ_{R/W}$
ランプの点灯・点滅で、状態を表示します。
点灯：メモ리카ードセット時
点滅：メモ리카ードアクセス時

c: コンパクトフラッシュスロット \triangle_{CF}
コンパクトフラッシュをセットします。

d: スマートメディアスロット \square_{SM}
スマートメディアをセットします。

e: SDカードスロット $\square_{MMC,SD}$
SDメモリーカード、またはマルチメディアカードをセットします。

コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。

ここでの説明は標準的なシステム構成で行っています。プリンタなどの周辺機器を接続する場合は、Windowsのセットアップ完了後に、周辺機器に添付のマニュアルを参照して行ってください。




1

設置における注意



- 不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置する際は、次の点を守ってください。
 - ・ 押し入れや本箱などの風通しの悪いところに設置しない。
 - ・ じゅうたんや布団の上に設置しない。
 - ・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、 p.7「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード（ケーブル）接続時の注意



- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



- 各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしてしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。
- ヘッドフォンやスピーカーを使用するときは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

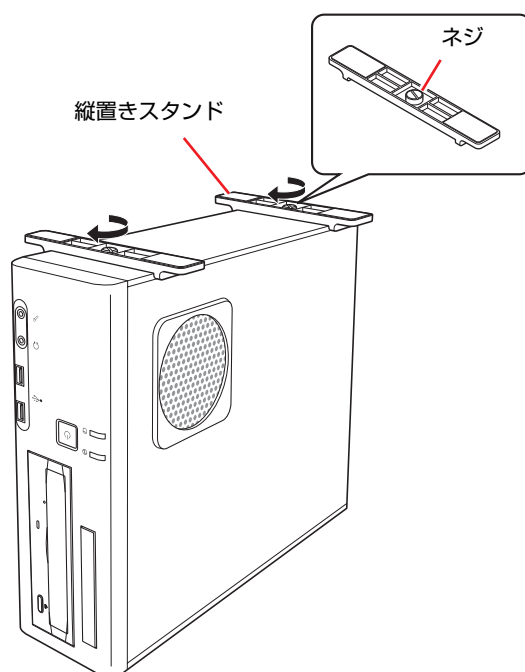
設置する

- 1 設置場所に応じて、本機を縦置きまたは横置きどちらにするか決め、設置準備を行います。

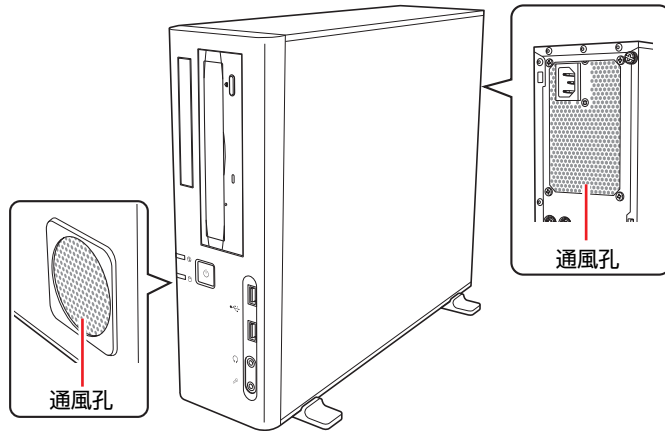
<縦置きにする場合>

転倒防止のため、必ず縦置きスタンドをセットしてください。

- (1) 光ディスクドライブ側を下にして置き、縦置きスタンド2個を、装着されているネジで留めます。

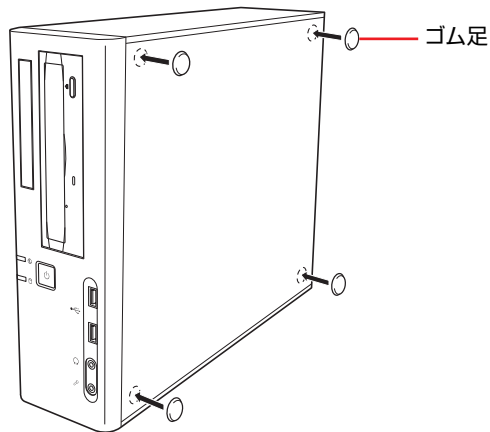


- (2) 縦置きスタンドを下にして置きます。設置した際に、通風孔をふさがないようにしてください。

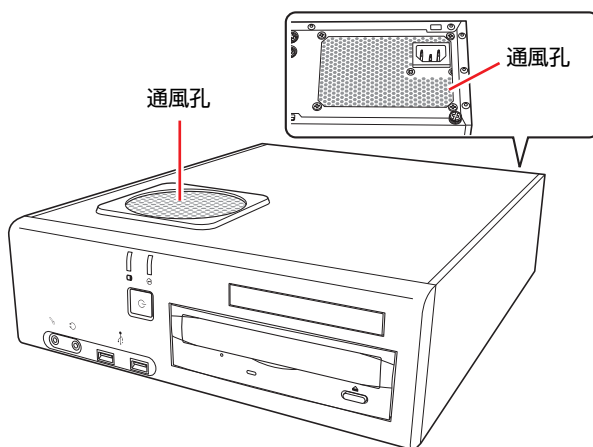


<横置きにする場合>

- (1) 添付のゴム足（4個）を通風孔のない面の4隅に付けます。

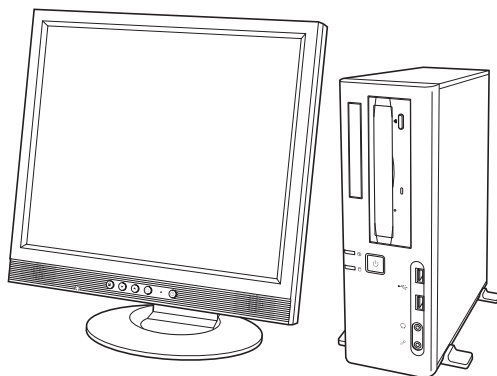


- (2) ゴム足を付けた面を底にして、横置きにします。
設置した際に、通風孔をふさがないようにしてください。



- 本機の上に乗せられるディスプレイの重さは、18kgまでです。18kgより重いディスプレイは載せないでください。
- 本機の上にディスプレイを載せるときは、通風孔をふさがないようにしてください。

- 2** 本機とディスプレイを設置場所（丈夫で水平な台の上など）に置きます。



以降の各ケーブルを接続する手順は、本機を縦置きにした状態で説明しています。本機を横置きにして使用する場合も、手順は同様です。

ディスプレイを接続する

本機には、デジタル出力とアナログ出力の2つのコネクタが搭載されています。ディスプレイ側の接続方法や注意事項などの詳細は、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

3 使用するディスプレイがデジタル接続かアナログ接続かを確認し、ディスプレイのケーブルを本機背面の該当するコネクタに接続します。

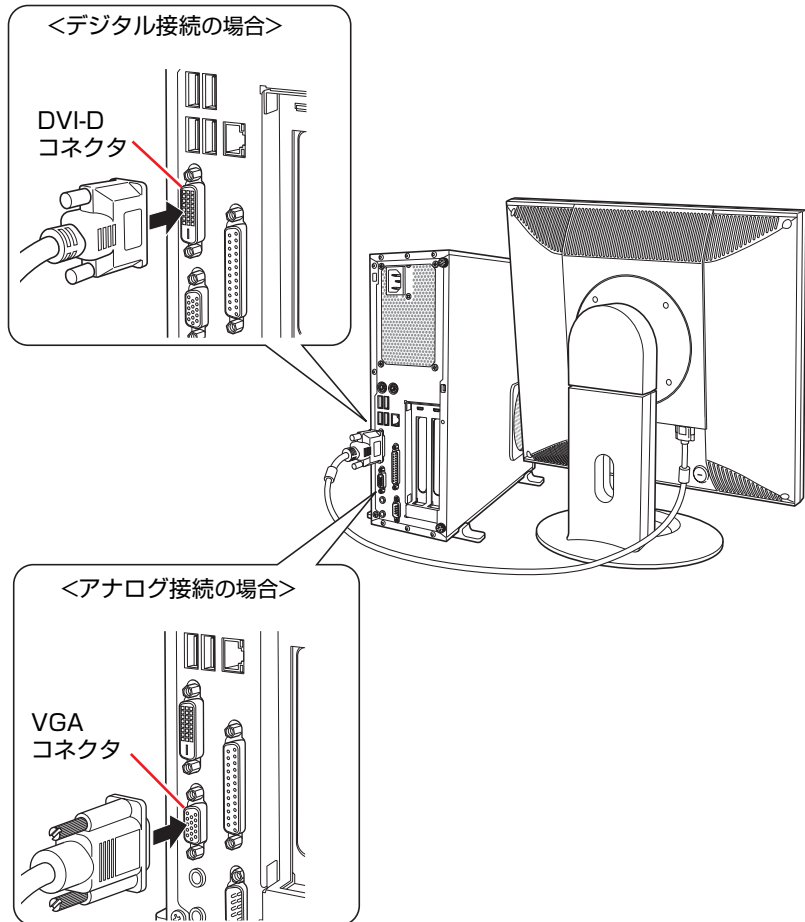
<アナログ接続の場合>

VGAケーブルをVGAコネクタに接続します。

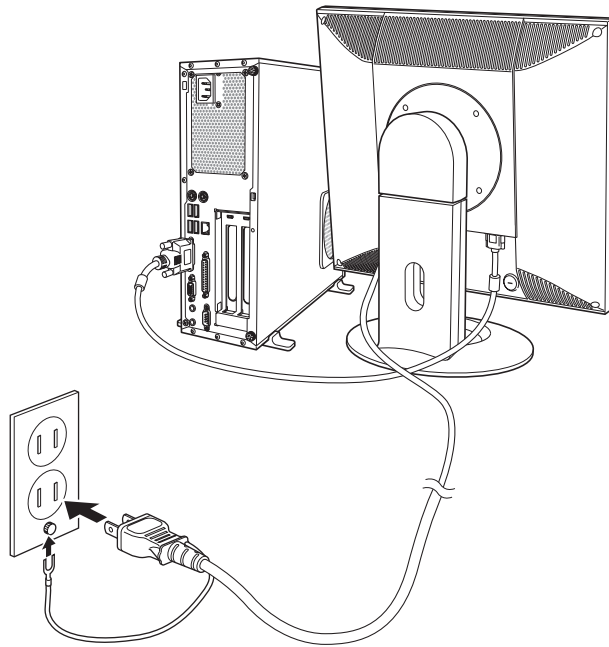
<デジタル接続の場合>

DVI-DケーブルをDVI-Dコネクタに接続します。

ディスプレイがデジタル/アナログ両用の場合は、デジタル接続で使用します。



4 ディスプレイの電源コードを家庭用電源コンセントに接続します。



キーボードを接続する


ここでは一般的な接続方法を説明しています。お使いになるキーボードにマニュアルが添付されている場合は、そちらをご覧ください。

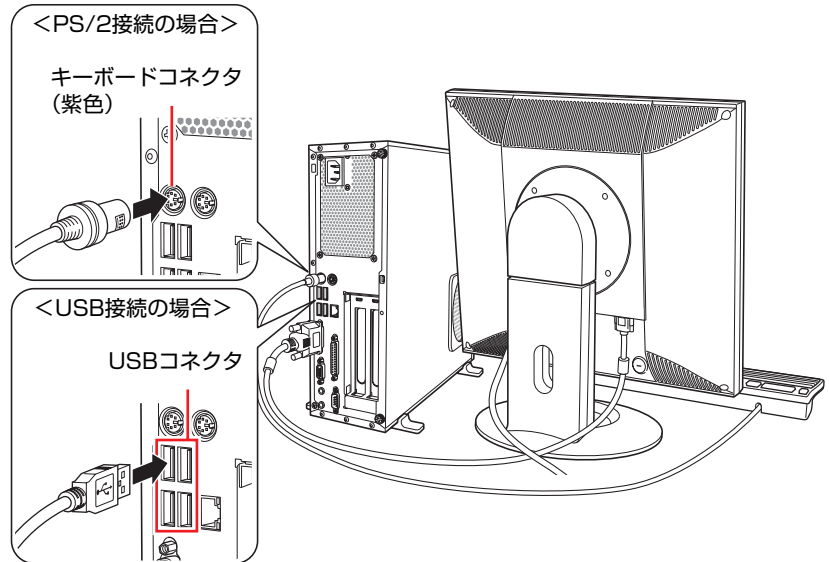
5 キーボードを接続します。

<PS/2接続の場合>

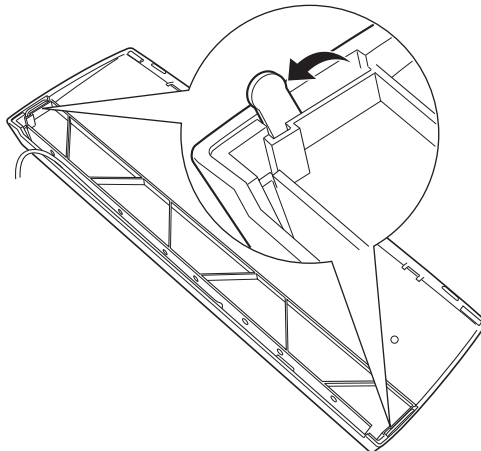
キーボードケーブルのコンネクタを本機背面のキーボードコンネクタ（紫色）に接続します。

<USB接続の場合>

キーボードケーブルのコンネクタを本体背面のUSBコンネクタ（)に接続します。4つのUSBコンネクタは同じ機能ですので、どのコンネクタを使用しても構いません。



キーボードは操作しやすい位置に置き、傾斜させるときはキーボード底面の両端の脚を起こします。



マウスを接続する


ここでは一般的な接続方法を説明しています。お使いになるマウスにマニュアルが添付されている場合は、そちらをご覧ください。

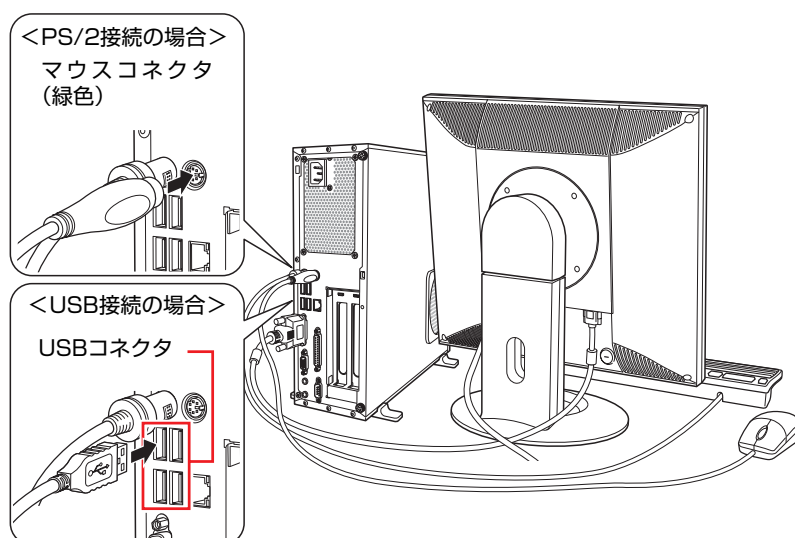
6 マウスを接続します。

<PS/2接続の場合>


マウスケーブルのコネクタを本機背面のマウスコネクタ（緑色）に接続します。

<USB接続の場合>

マウスケーブルのコネクタを本機のUSBコネクタ（)に接続します。



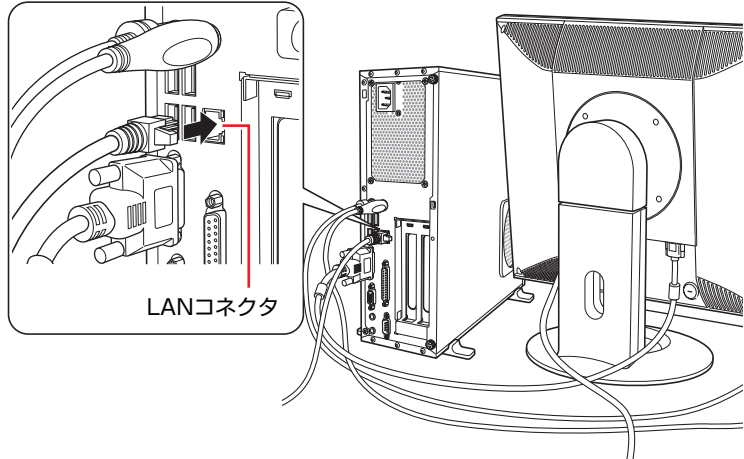
マウスを左利き用で使う場合は、Windowsのセットアップ後に設定します。

 p.61 「マウスの設定変更」

ネットワークへ接続する

- 7** ネットワークを使用する場合は、市販のLANケーブルを本機背面のLANコネクタ（品）に接続します。

インターネットへの接続作業はWindowsのセットアップ後に行います。接続方法は、通信サービス会社やプロバイダから提供されたマニュアルをご覧ください。



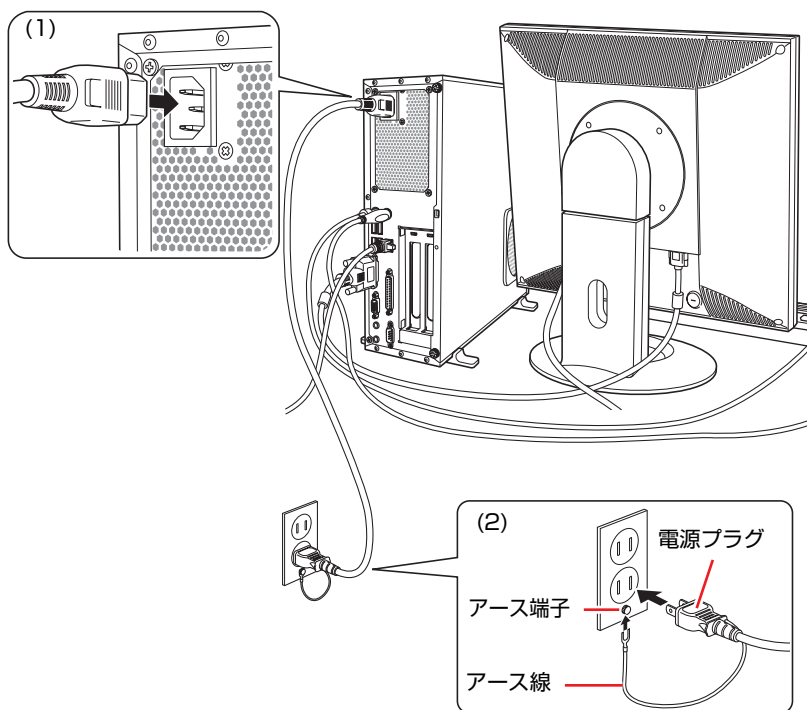
電源コードを接続する

8 電源コードを接続します。

(1) 電源コードを本機背面の電源コネクタに接続します。

(2) 電源プラグを家庭用電源コンセントに接続します。

アース線は、必ずコンセントのアース端子に接続してください。



これで本機の設置は完了です。

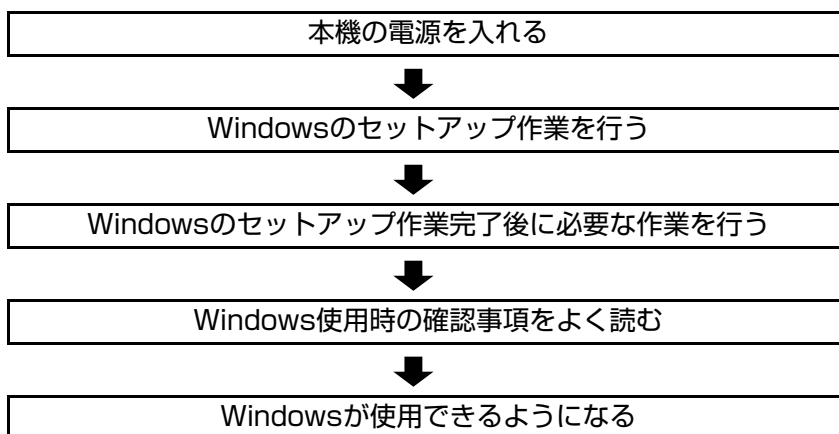
続いて、Windowsのセットアップを行います。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

ここでは、本機にはじめて電源を入れて、Windowsを使用できる状態にするまでの作業について説明します。

▶Windowsが使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。



▶電源を入れる前に

Windowsのセットアップとは

「Windowsのセットアップ」は、コンピュータが届いてから、はじめて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って、セットアップを簡単に行うことができます。

マウスの使い方

Windowsのセットアップは、マウスを使用して行います。セットアップに必要なマウスの基本操作は、次のとおりです。

● マウスポインタを動かす

マウスを前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているマウスポインタもマウスを動かした方向に動きます。

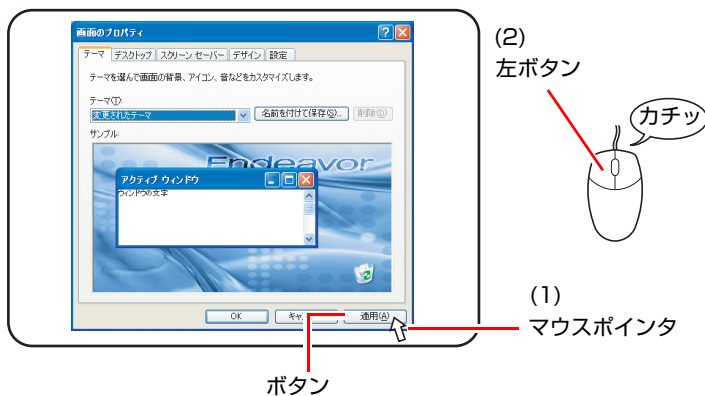


● ボタンをクリックする

- (1) マウスを動かして、マウスポインタを画面のボタンの上に重ねます。
- (2) マウスの左ボタンを、1回「カチッ」と押して離します。

この動作を「クリック」と言います。

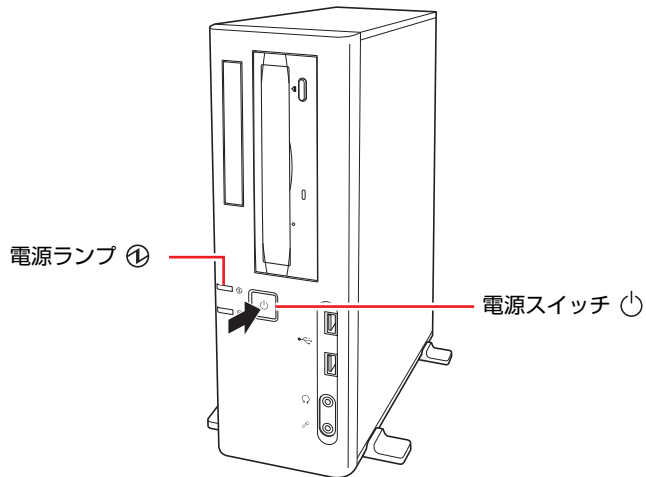
画面のボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。



▶電源の入れ方とWindowsの起動


本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

- 1** ディスプレイやスピーカなどの電源を入れます。
- 2** 本機の電源スイッチ (⏻) を押して、本機の電源を入れます。
電源ランプ (①) が緑色に点灯します。
電源を入れたときに電源ランプが点灯しない場合は、電源コードが正しく接続されているか確認してください。



- 3** 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。
画面に何も表示されない場合は、ディスプレイが正しく接続されているか、ディスプレイの電源が入っているか確認してください。

続いて、Windowsのセットアップを行います。

 p.44 「Windowsのセットアップ」

▶Windowsのセットアップ

セットアップ中に入力する項目

Windowsのセットアップ中に入力する項目の中で、特に注意が必要な内容について記載しています。入力の際に参考にしてください。

●コンピュータ名

「コンピュータ名」は、本機をネットワークに接続して使用する場合などに必要です。セットアップ時は、すでに任意のコンピュータ名が入力されています。

<ネットワークに接続しない場合>

セットアップ時にコンピュータ名を変更する必要はありません。

<ネットワークに接続する場合>

ネットワーク上にあるほかのコンピュータ名と重複しないように、コンピュータ名を変更します。

●パスワード (Windows XP Professionalのみ)

本機を個人で使用・管理する場合は、任意のパスワードを設定します（設定しなくても問題はありません）。企業などで、使用者とは別に本機を管理する方がいる場合は、管理者の指示に従って入力します。

このパスワードは、「Administrator」（アカウント）のパスワードです。「Administrator」（アカウント）でログオンする際に、このパスワードを入力しログオンします。

パスワードを設定した場合は、絶対に忘れないようにしてください。

●ユーザー名

ユーザー名は少なくとも1つ入力します。本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザー名をいくつか入力すると、Windowsをユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で 사용할ことができます。

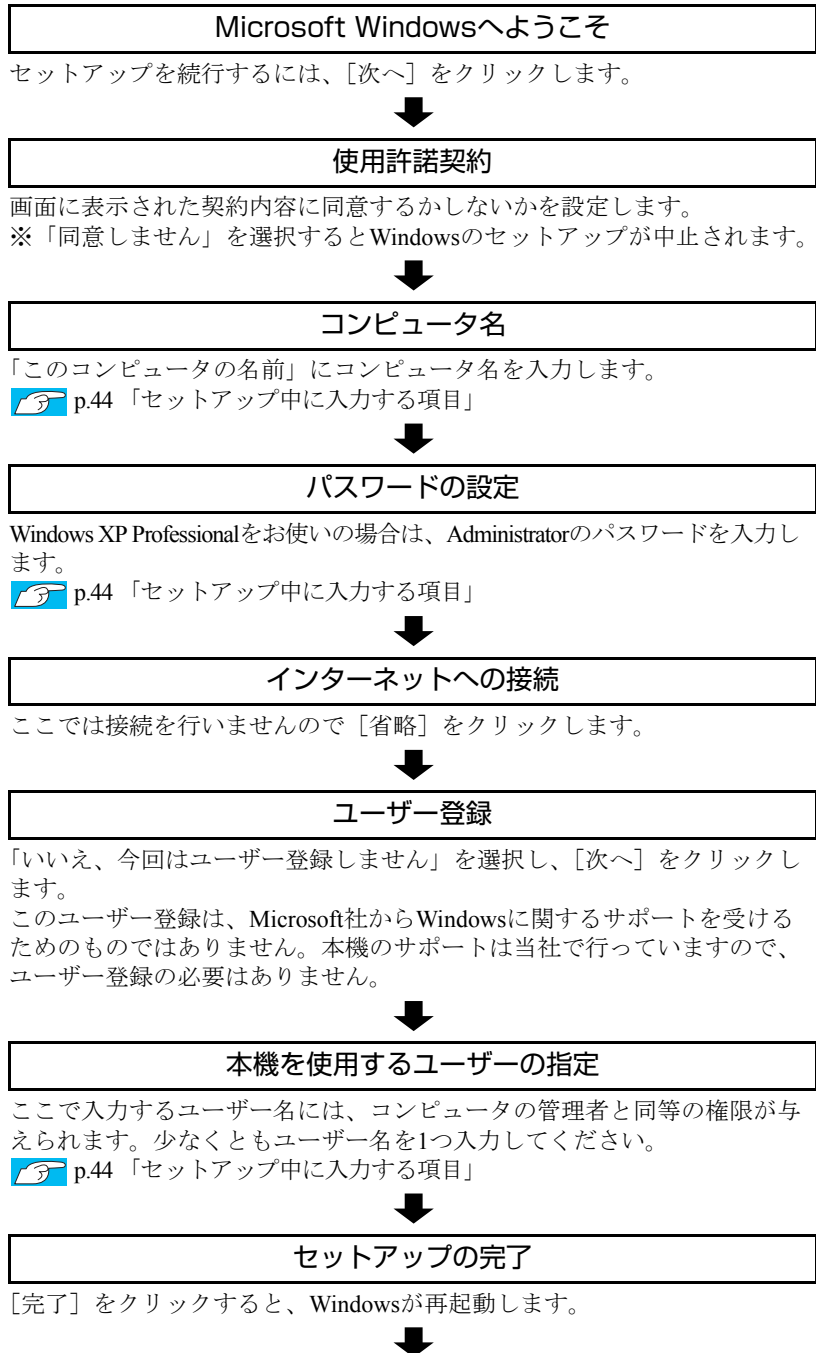


「Administrator」（アカウント）

「Administrator」（アカウント）とは、すべての機能にアクセスできるシステム管理用のユーザーアカウント権限のことです。

Windows XPのセットアップ

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows XPセットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従って、セットアップを行ってください。セットアップの流れは、次のとおりです。



デスクトップ画面の表示

Windowsが再起動すると、Windowsのデスクトップ画面が表示されます。


セットアップの際にユーザー名を2つ以上入力した場合は、Windowsの再起動後に「ようこそ」画面が表示されます。使用するユーザー名をクリックすると、デスクトップ画面が表示されます。



<壁紙は予告なく変更する場合があります>

これでWindows XPのセットアップは完了です。

続いて、初期設定ツールでソフトウェアのインストールなどを行います。

 p.47 「初期設定ツール」

参考

ユーザー登録とライセンス認証（アクティベーション）

- セットアップ中にスキップしたユーザー登録を行う場合は、[スタート] - 「ファイル名を指定して実行」 - 「REGWIZ □/R」（□はスペース）を実行します。ウィザード画面の指示に従ってください。
 - 当社より提供されたWindows XP（購入時に本機にインストールされているものや「Windows XPリカバリCD」より再インストールを行ったもの）は、ライセンス認証を行う必要はありません。
-

▶初期設定ツール


Windowsのセットアップが完了すると、「初期設定ツール」が自動的に起動します。初期設定ツールは、本機を使用する前に必要な設定を行ったり、ソフトウェアをインストールしたりするためのツールです。画面の指示に従って設定を行ってください。



<イメージ>

「有害サイト対策」画面

「有害サイト対策」画面では、本機に標準添付の「i-フィルター 30日版」をインストールします。次回Windowsを起動したときに「i-フィルター…」画面が表示されたら、セットアップを行ってください。

 p.178 「i-フィルター 30日版のセットアップ」


i-フィルター 30日版の使用方法は、 p.109 「i-フィルター 30日版を使う」をご覧ください。

本機購入時に、Webフィルタリングソフトウェアの製品版（オプション）を購入された場合は、画面の指示に従って製品版をインストールしてください。

「セキュリティ設定」画面

「セキュリティ設定」画面では、次のソフトウェアをインストールします。


● Norton Internet Security 90日版


本機に標準添付の「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。Norton Internet Security 90日版の使用方法は、 『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。

本機購入時に、セキュリティソフトウェアの製品版（オプション）を購入された場合は、画面の指示に従って製品版をインストールしてください。

- マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版

本機に標準添付の「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」をインストールします。マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版を使用するには、インストール完了後にユーザー登録を行う必要があります。

 p.181 「ユーザー登録」

「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」の使用方法は、 p.104 「Internet Explorerの便利な追加機能」をご覧ください。



初期設定ツールの起動方法

初期設定ツールが自動的に起動しない場合や、初期設定ツールを再実行したい場合などは、次の方法で起動することができます。

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「初期設定ツール」

▶ セットアップ完了後の作業

Windows のセットアップと初期設定ツールの作業が完了したら、次の作業を行います。

ネットワークに接続する

ネットワーク機能（有線LAN）を使用する場合は、ネットワークに関する情報が必要です。お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

Windows Updateを行う

はじめてインターネットに接続する場合は、はじめに手動で「Windows Update」を行います。

 p.105 「Windows Update」

Windows Updateを行うと、本機の状態を診断して、コンピュータウイルスに感染することを防ぐためのプログラムや最新の機能などがインストールされ、Windowsを快適に使用できるようになります。

そのほかの設定

購入時にFAXモデムボードなどを選択している場合は、設定や接続を行います。詳しくは各機器に添付のマニュアルをご覧ください。

Windows使用時の確認事項

「セットアップ完了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用の前に次の事項を確認してください。

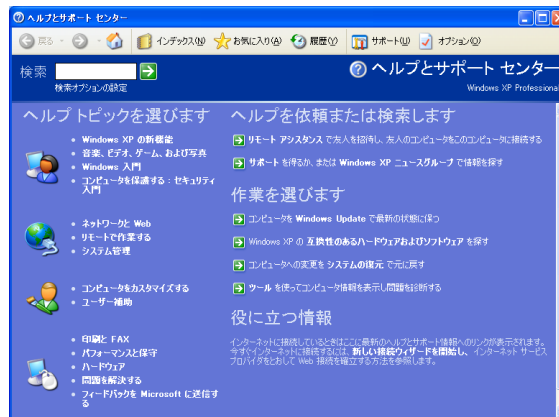
▶ Windows XPの使用方法

Windows XPの使用方法は、次をご覧ください。

● Windowsのヘルプ


「ヘルプとサポート」は次の場所から開きます。

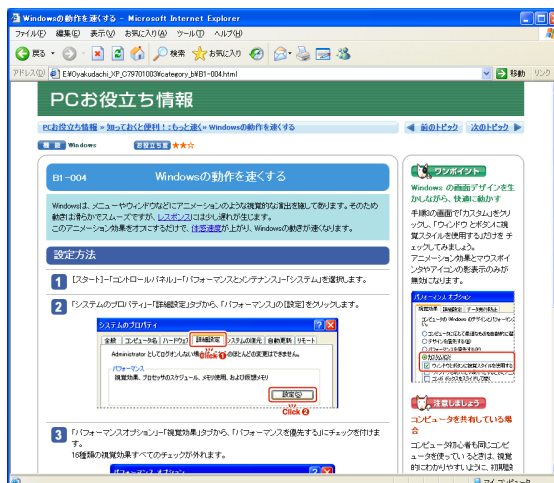
[スタート] - 「ヘルプとサポート」



● PCお役立ち情報

「PCお役立ち情報」は「インフォメーションメニュー」から開きます。


 p.51 「インフォメーションメニューを使う」




1

▶2回目以降に電源を入れる

セットアップ完了後に本機の電源を入れる際は、次の点に注意してください。

- 電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。
Windowsが省電力状態に移行すると、本機が動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまうように注意してください。
 p.112 「省電力機能を使う」
- 電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れる。
電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。
- 周辺機器の電源をいつ入れるか確認する。
電源を本機よりも先に入れるか後に入れるかは、周辺機器によって異なります。周辺機器に添付のマニュアルで確認してください。



- USBフラッシュメモリなどを接続していたり、FDDにFDがセットされている状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。USBフラッシュメモリの接続や、FDのセットは、Windows起動後に行ってください。
- USB記憶装置を接続した状態でWindowsを起動したい場合は、「BIOS Setupユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。
 p.148 「起動 (Boot) デバイスの順番を変更する」

▶音量の調節

Windows起動時に音が鳴らなかったり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合には、音量を調節します。

 p.94 「音量の調節」

▶インフォメーションメニューを使う

本機には、本機に添付されているマニュアルを見たり、サポートページに簡単にリンクしたりすることができる「インフォメーションメニュー」が搭載されています。

起動方法

インフォメーションメニューの起動方法は、次のとおりです。

- デスクトップ上の「インフォメーションメニュー」アイコンをダブルクリックする



- スタートメニューから起動する

インフォメーションメニューが起動すると次の画面が表示されます。



参考

マニュアルびゅーわをご使用の前に

はじめて「マニュアルびゅーわ」からPDFマニュアルを起動する場合には、「使用許諾契約書」画面が表示されたときは「Adobe Reader」のセットアップを行ってください。



p.176 「Adobe Readerのインストール」－「セットアップ」手順2～

インフォメーションメニューの項目

インフォメーションメニューの各項目の内容は次のとおりです。

- マニュアルびゅうわ

本機に添付されている電子マニュアルを閲覧するためのツールです。ユーザーズマニュアル（本書）のHTMLマニュアルや光ディスクドライブのPDFマニュアル、「Nero 7 Essentials」や「WinDVD」などのソフトウェアに添付されているマニュアルを見ることができます。



「警告」が表示された場合は

電子マニュアルを閲覧しようとする、情報バーと呼ばれるInternet Explorerのアドレスバーの下方に「セキュリティ保護のため、コンピュータにアクセスできるアクティブコンテンツは表示されないよう・・・」と警告が表示される場合があります。

この場合は、情報バーをクリックし、「ブロックされているコンテンツを許可」をクリックしてください。

- PCお役立ち情報

コンピュータに関する便利で役立つ情報や用語集を掲載しています。マニュアルとあわせてご覧になり、コンピュータを使用する際の参考にしてください。

- とらぶる解決ナビ

技術的な情報やトラブルの解決方法を収録しています。本機の調子が悪い場合に、本書の「困ったときに」とあわせてご覧ください。



p.186 「トラブルが発生したら」

- ユーザーサポートページ (Web)

技術的な情報やトラブルの解決方法、保証サービスなどについてご案内しています。マニュアルやドライバ、BIOSの最新バージョンもダウンロードできます。



p.225 「電子マニュアルのダウンロード」

「ユーザーサポートページ」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

- サポート情報検索 (Web)

「とらぶる解決ナビ」に収録されていない最新のサポート情報を掲載しています。とらぶる解決ナビで本機の不具合が解決できなかった場合にご覧ください。

「サポート情報検索」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。


- トラブルが解決しなかったら

技術的なご質問や修理依頼などの問い合わせ先、メールサポートの方法などを掲載しています。マニュアルや当社のユーザーサポートページを参照しても、トラブルが解決しない場合にご覧ください。

▶復元ポイントを作成する

Windowsの「システムの復元」機能で「復元ポイント」を作成しておくことで、本機の動作が不安定になった場合、システムの復元機能を使用して、作成しておいた復元ポイントまでシステムの状態に戻すことができます。


復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

 p.215 「復元ポイントを手動で作成する」

▶セキュリティ対策を行う


本機には、外部と接続することで高まる危険から本機を守るためのセキュリティ機能が搭載されています。

インターネットに接続する場合は、セキュリティ対策を行ってください。

 p.105 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」

▶画面表示が消えたときは（省電力機能）

本機は、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えるように設定されています。画面表示が消えて、本機の電源ランプがオレンジ色に点灯している場合は、スタンバイになっています（購入時の設定）。この場合は、電源スイッチを押すと元に戻ります。

 p.116 「省電力状態から復帰する」

▶Windows CD-ROMを要求されたときは

本体ドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」を要求されることがあります。このような場合は、添付の「Windows XPリカバリCD」をセットしてください。

▶コントロールパネルの表示

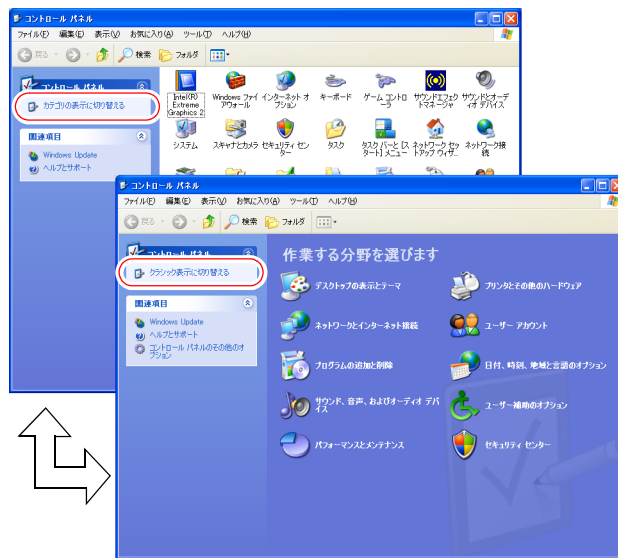
Windows XPのコントロールパネルの表示には、次の2種類があります。

- 「カテゴリーの表示」：項目をカテゴリごとにまとめて表示します（初期設定）。
- 「クラシック表示」：項目をすべて表示します。

表示の切り替えは、画面左側にある、「クラシック表示に切り替える」、「カテゴリーの表示に切り替える」をクリックして行います。

本書では、「カテゴリーの表示」形式を前提に記載しています。

<クラシック表示>



<カテゴリーの表示>

電源の切り方

ここでは、電源の切り方について説明します。



- 電源を切って、もう一度入れる場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電氣的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を空けてください。
- HDDなどのアクセスランプ点灯中に本機の電源を切ると、収録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機は、電源を切っていても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

▶ Windowsの終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindowsを終了させてから電源を切ります。
基本的なWindowsの終了方法と電源を切る手順は、次のとおりです。

- 1** [スタート] - [終了オプション] をクリックします。
- 2** 「コンピュータの電源を切る」画面で [電源を切る] をクリックします。
Windowsが終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 3** ディスプレイなど、接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows終了時の注意

Windowsを複数のユーザーが使用している状態で電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、[いいえ] をクリックし、ログオンしているすべてのユーザーの画面に切り替えて、それぞれログオフを行ってから、電源を切ってください。

▶再起動

電源が入っている状態で、本機を起動しなおすことを「再起動」といいます。

Windowsの再起動方法

Windowsの再起動方法は、次のとおりです。

1 [スタート] – 「終了オプション」 – 「再起動」をクリックします。

次のような場合には、Windowsを再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

再起動しても状態が改善されない場合は、本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れてみてください。

▶ハングアップしたときは

ソフトウェアやWindowsがキーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態を「ハングアップ」と言います。

ハングアップした場合は、ソフトウェアの強制終了を行います。ソフトウェアの強制終了をしても状態が改善されない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

ソフトウェアの強制終了

ソフトウェアの強制終了方法は、次のとおりです。

- 1 **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押し、「Windows タスクマネージャ」を起動します。
- 2 「アプリケーション」タブからハングアップしているソフトウェアを選択して【タスクの終了】をクリックします。
- 3 「プログラムの終了」画面が表示されたら、【すぐに終了】をクリックします。

強制的に電源を切る

Ctrl + **Alt** + **Delete** を押しても反応がない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

強制的に本機の電源を切る方法は、次のとおりです。

- 1 本機の電源スイッチ (⏻) を5秒以上押し続けます。
本機の電源が切れます。


第2章 コンピュータの基本操作

キーボードやマウス、光ディスクドライブの使い方など、本機の基本
的な操作方法について説明します。

「キーボードを使う」	58
「マウスを使う」	61
「FDDを使う（オプション）」	62
「HDDを使う」	66
「光ディスクドライブを使う」	68
「マルチカードリーダーを使う（オプション）」	77
「USB機器を使う」	83
「画面表示機能を使う」	85
「サウンド機能を使う」	92
「ネットワーク機能を使う」	97
「インターネットに接続するには」	100
「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」	105
「省電力機能を使う」	112
「そのほかの機能」	117

キーボードを使う

ここでは、日本語対応109 PS/2 キーボードについて説明します。

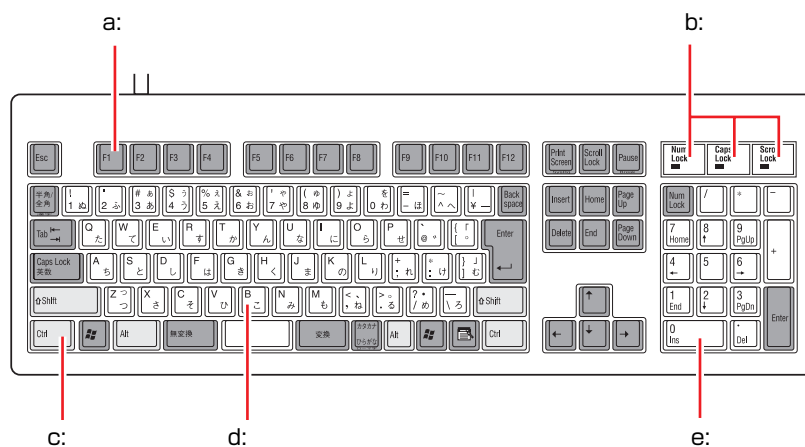
キーボードの接続方法は、 p.31 「コンピュータの設置」をご覧ください。

購入時にこのほかのキーボードを選択し、キーボードのマニュアルが添付されている場合は、本書とあわせてご確認ください。

▶キーの種類と役割

キーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。


入力キー



a: 機能キー

文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割は、ソフトウェアによって異なります。

b: キーロック表示ランプ

 p.60「キーロック表示ランプ」

c: 制御キー


文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

d: 文字キー

英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して漢字やひらがななどの日本語を入力します。

e: 数値キー

数字、演算子などを入力します。


 の状態によりキーの機能が変わります。

▶文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字された文字が入力されます。入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え

を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。

日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

▶日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。本機には日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは、次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。



a: 入力モード

入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

b: ヘルプ

MS-IMEの詳しい説明を見ることができます。

c: かなキーロック

日本語入力モードの切り替えを行います。








ボタンが押されていない状態：ローマ字入力

ボタンが押されている状態：かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。


▶キーロック表示ランプ

キーボード右上の3つのランプは、キーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割	数値キーの状態を切り替え
	切り替え	 を押します。
	点灯時	数値を入力
	消灯時	カーソルの位置を制御 数値キーの    などが使えます。
Caps Lock	役割	アルファベットの大文字/小文字の切り替え
	切り替え	 +  を押します。
	点灯時	大文字を入力
	消灯時	小文字を入力
Scroll Lock	役割	ソフトウェアによって異なります。
	切り替え	 を押します。

マウスを使う

ここでは、ホイール付PS/2マウスについて説明します。

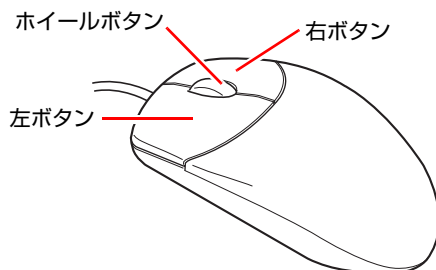
マウスの接続方法は、 p.31 「コンピュータの設置」をご覧ください。

購入時にこのほかのマウスを選択し、マウスにマニュアルが添付されている場合は、マウスに添付のマニュアルで使用方法をご確認ください。

▶マウスの操作



- でこぼこのある場所では使用しないでください。マウスボールの回転が不規則になり、マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。
- アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを1回カチッと押します。
ダブルクリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
右クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、右ボタンを1回カチッと押します。
ドラッグアンドドロップ	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを押したままの状態でもうすを移動し、離します。
スクロール	ホイールボタンを指先で前後に動かすと、縦スクロール操作を行うことができます。ホイールボタンをクリックすると、マウスを動かしてオートスクロールを行うこともできます。

▶マウスの設定変更

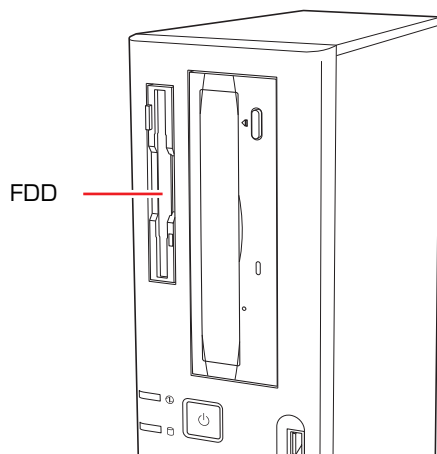
マウスボタンの設定や使用環境の変更は、次の場所で行います。

【スタート】 - 【コントロールパネル】 - 【プリンタとその他のハードウェア】 - 【マウス】

詳しくは、ヘルプをご覧ください。

FDDを使う（オプション）

FDD（フロッピーディスクドライブ）は、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。本機購入時にFDDをオプション選択された場合、本機にはあらかじめFDDが搭載されています。



本機内蔵のFDDでは、次のFDが使用できます。

- 3.5型2HD
1.44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。
- 3.5型2DD
720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。



FDは消耗品です。読み書きを繰り返すと、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

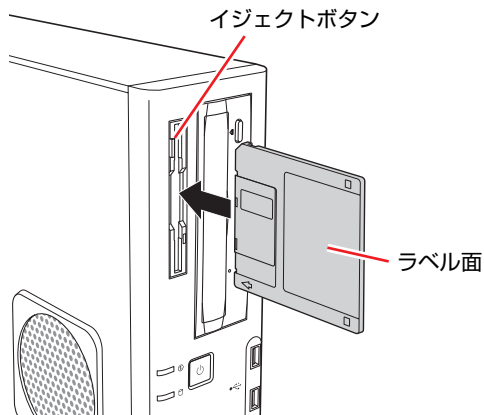
▶FDのセットと取り出し



- FDDアクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、コンピュータの電源を切ったり、再起動したりしないでください。FD内のデータが破損するおそれがあります。
- コンピュータの電源を切る場合やコンピュータを再起動する場合は、必ずFDを取り出してから行ってください。

セット方法

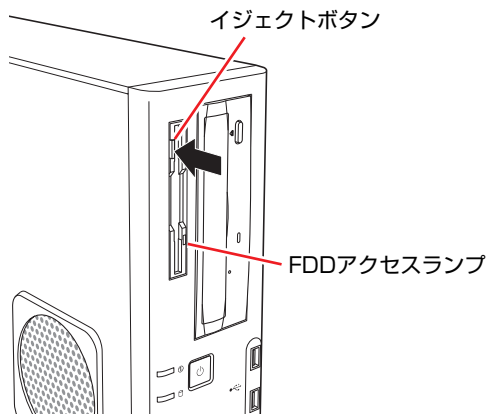
- 1 ラベル面を本体の左側に向け、FDをFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。
本機が横置きの場合は、ラベル面を上側に向けて押し込みます。



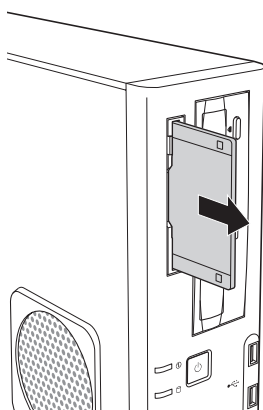
- 2 正しくセットされると、イジェクトボタンが押し出されます。

取り出し方法

- 1 FDD アクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。



- 2 FDが飛び出したら、静かに引き抜きます。



▶FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することです。新しいFDを使用する場合や、収録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットを行います。



- FDをフォーマットすると、FD内のデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが収録されていないことを確認してください。
- Windows XPでは、720KBのFDをフォーマットすることはできません。

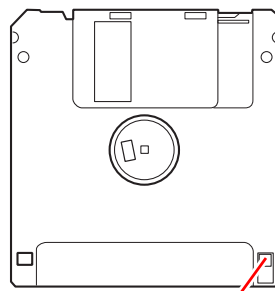
フォーマット方法

Windowsのフォーマットユーティリティを使った通常のFDのフォーマット方法は、次のとおりです。

- 1 FDDにFDをセットします。
- 2 [スタート] - 「マイコンピュータ」をクリックします。
- 3 「3.5インチFD」を右クリックし、「フォーマット」をクリックします。
- 4 [開始] をクリックします。「警告」が表示された場合は、[OK] をクリックします。
- 5 「フォーマットが完了しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順4~5を繰り返します。
- 6 [閉じる] をクリックし、フォーマットユーティリティを閉じます。これでFDのフォーマットは完了です。

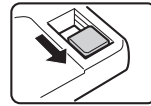
▶ライトプロテクト（書き込み禁止）

ライトプロテクトとは、データを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDは、データの書き込み、削除、フォーマットをすることができなくなります。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておくとお心です。ライトプロテクトは、FD裏面のライトプロテクトタブで行います。



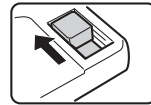
ライトプロテクトタブ

・書き込み禁止状態



窓が開いているとライトプロテクト状態です。

・書き込み可能状態



窓が閉じているとデータを書き込むことができる状態です。

HDDを使う

本機にはSerial ATA（以降S-ATA）II仕様のHDD（ハードディスクドライブ）が搭載されています。


HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。



- HDDのアクセスランプ点灯中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが故障するおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

▶データのバックアップ

HDDに記録されている重要なデータは、CDメディアや外付けHDDなどにバックアップしておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。

バックアップ方法は、 p.221 「データのバックアップ」をご覧ください。

▶購入時のHDD領域

購入時のHDDは、お客様の選択により次のように設定されています。

<通常>

HDD	ドライブ（領域）	容量
1台目	消去禁止領域	約2GB*
	Cドライブ	残り
2台目 (装着されている場合)	Dドライブ	2台目のすべて

<HDD設定変更サービスを選択された場合>

HDD	ドライブ（領域）	容量
1台目	消去禁止領域	約2GB*
	Cドライブ	購入時に選択された容量
	Dドライブ	残り
2台目 (装着されている場合)	Eドライブ	2台目のすべて

*消去禁止領域の容量は、コンピュータの製品仕様により異なります。

すべてのドライブは、NTFSファイルシステムでフォーマットされています。

参考

HDD設定変更サービス

HDD設定変更サービスとは、購入時にあらかじめHDDの領域をCドライブ、Dドライブに分割した状態でコンピュータをお届けするサービスのことです。

消去禁止領域とは

「消去禁止領域」には、本体ドライバやソフトウェアのインストール用データが収録されています。

この領域は「マイコンピュータ」では表示されませんが、Windowsのインストール時に表示されます。この領域は、絶対に削除しないでください。

削除してしまうと、本体ドライバやソフトウェアのインストールができなくなります。

「消去禁止領域」のデータは、CDにコピー（バックアップ）することもできます。

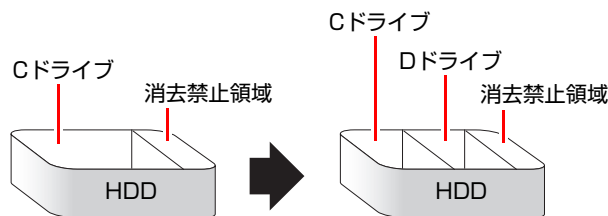
 p.223 「バックアップCDの作成方法」

▶HDDを分割して使用する


1台のHDDは、いくつかに分けてそれぞれ別々のドライブとして使用することができます。

<1台のHDDを分割する>

例：1つのHDD領域（Cドライブ）を2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割することができます。



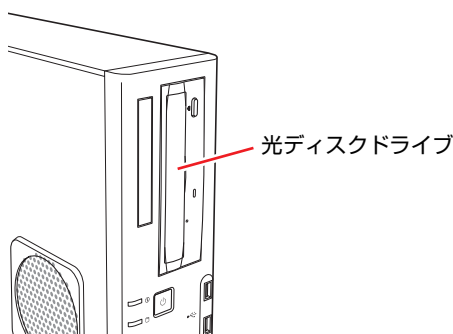
Cドライブを分割する場合はWindowsの再インストールが必要です。詳しくは、

 p.228 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

光ディスクドライブを使う

本機には購入時に選択された光ディスクドライブが搭載されています。光ディスクドライブは、CD-ROMなどの光ディスクメディアを使用するための機器です。

ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。なお、購入時の構成によっては、光ディスクドライブが搭載されていない場合もあります。



警告

光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアを使用しないでください。飛び散って、けがをする危険があります。



注意

光ディスクドライブのディスクトレイに手を入れないでください。はさまれると、けがの原因になります。



制限

本機では、CD（コンパクトディスク）の規格に準拠しない「コピーコントロールCD」などの特殊ディスクは、動作保証していません。本機で動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

▶使用可能な光ディスクメディア

光ディスクドライブの種類によって、メディアへの書き込みやDVDの再生など、使える機能が異なります。

お使いの光ディスクドライブで使える機能とメディアの種類は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅうわ」－「光ディスクドライブPDFマニュアル」

光ディスクメディアの違いについての簡単な説明は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」

▶光ディスクメディアのセットと取り出し

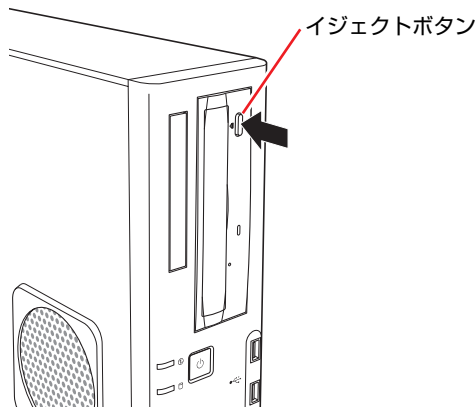
光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。



- 光ディスクドライブアクセス中にメディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。
- メディアの出し入れのとき以外は、ディスクトレイの開閉をしないでください。
- 開いているディスクトレイの上に物を置かないでください。また、上から強く押さないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 本機を縦置きで使用している場合、8cmのメディアは使用できません。また、縦置き横置きに関係なく、楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。

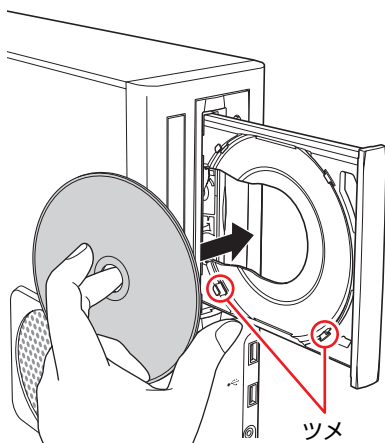
セット方法

- 1 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



- 2** メディアの印刷面を本体の左側に向け、ディスクトレイにある落下防止用のツメ（下側2箇所）にセットします。

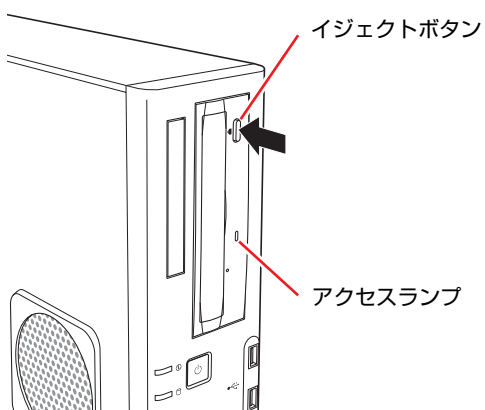
本機が横置きの場合は、メディアの印刷面を上側に向けてセットします。



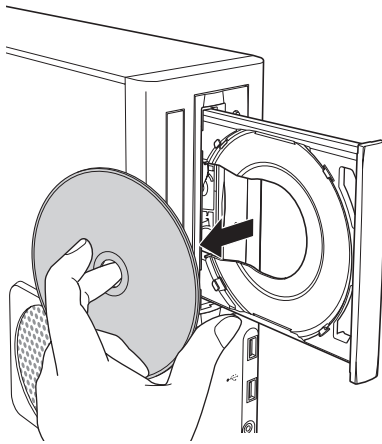
- 3** イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

取り出し方法

- 1** アクセスランプが点灯・点滅していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



2 光ディスクメディアをディスクトレイから取り出します。



3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。



イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せない場合


ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくはお使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

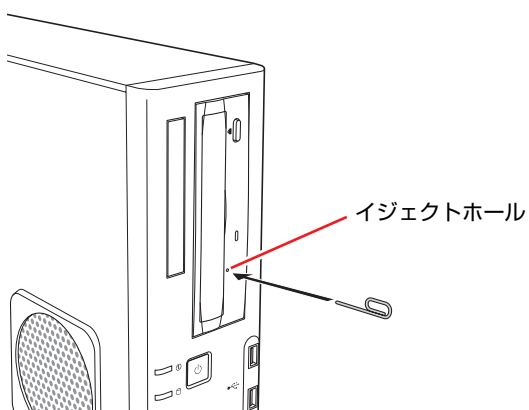
▶強制的な光ディスクメディアの取り出し

次のような場合には、強制的に光ディスクメディアを取り出すことができます。

- 光ディスクドライブの動作が不安定になったり、故障したりして、光ディスクメディアが取り出せない場合
- 光ディスクメディアをセットしたまま、本機の電源を切ってしまった場合

強制的な光ディスクメディアの取り出し方法は次のとおりです。

- 1** 本機の電源が入っている場合は、電源を切ります。
 p.55 「電源の切り方」
- 2** イジェクトホールに先の細い丈夫なもの（ゼムクリップを引きのばしたものなど）を差し込みます。
お使いの光ディスクドライブによりイジェクトホールの位置は異なります。



- 3** ディスクトレイが少し飛び出したら、ディスクトレイを引き出し、光ディスクメディアを取り出します。

▶CDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データCDを読み込めるほかに、音楽CDやビデオCD、フォトCDなどの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

▶DVDメディアの読み込み・再生

<DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時>

DVD再生機能のある光ディスクドライブでは、データが収録されたDVDメディアを読み込めるほかに、DVD VIDEOなどの再生ができます。

DVD VIDEOの再生には、専用のソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO再生ソフト

DVD VIDEOの再生には「WinDVD」を使用します。

WinDVDを起動するには、デスクトップ上の「WinDVD」アイコンをダブルクリックします。



<WinDVDアイコン>


WinDVDの詳細な使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅうわ」－「WinDVD ユーザーズマニュアル」

DVD VIDEO再生時の制限

WinDVDでDVD VIDEOの再生をする場合、解像度や色数、リフレッシュレートの設定により、DVD VIDEOの再生ができないことがあります。

DVD VIDEOの再生ができない場合は、解像度や色数、リフレッシュレートを調節してみてください。

 p.86 「解像度や表示色を変更するには」

 p.88 「リフレッシュレートの設定」

▶光ディスクメディアへの書き込み

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

書き込み機能のある光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。

書き込み可能なメディアは、お使いの光ディスクドライブにより異なります。書き込み可能なメディアについては、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」 - 「マニュアルびゅうわ」 - 「光ディスクドライブPDFマニュアル」



作成した DVD VIDEO は、一部の DVD プレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

光ディスクメディアに書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。本機にはライティングソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされています。

 p.75 「Nero 7 Essentialsの使い方」


書き込み時の注意

書き込みを行う場合は、次の点に注意してください。

- **省電力機能を無効にする**

メディアへの書き込み時にWindowsが省電力状態に切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。

書き込みを始める前に、省電力状態に移行しないように設定してください。

 p.115 「時間経過で移行させない」

- **速度に対応した光ディスクメディアを選ぶ**

書き込みを行う場合は、お使いの光ディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。

光ディスクドライブの書き込み速度は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」 - 「マニュアルびゅうわ」 - 「光ディスクドライブPDFマニュアル」

▶ Nero 7 Essentialsの使い方

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

ライティングソフト「Nero 7 Essentials」を使用すると、CDメディアやDVDメディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。

使い方

Nero 7 Essentialsの起動方法は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「Nero」アイコンをダブルクリックします。



<Neroアイコン>

- 2 Nero 7 Essentials画面が表示されます。



Nero 7 Essentialsの詳細な使用 방법은、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「Neroユーザーガイド」

InCD

メディアをパケットライトソフト「InCD」でフォーマットすると、ドラッグアンドドロップするだけでデータの書き込みを行うことができます。

InCDの詳細な使用 방법은、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「マニュアルびゅーわ」－「InCDユーザーマニュアル」



- InCDで利用できる光ディスクメディアは、CD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
- InCDでフォーマットしたメディアはNero 7 Essentialsで書き込みを行うことはできません。書き込みを行う場合は、Nero 7 Essentialsで「ディスクの消去」を行ってください。

有償アップグレードについて

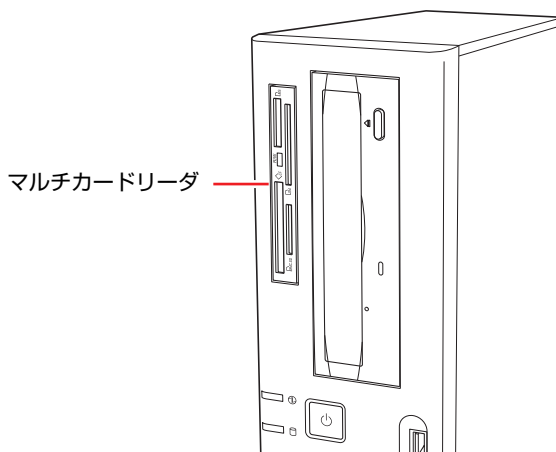
本機にインストールされているNero 7 Essentialsは、Nero製品版「Nero 7 Premium」に特別優待価格でアップグレードすることができます。アップグレードをご希望の方は、デスクトップ上の「Neroオンラインアップグレード」から申し込みを行ってください。



Neroオンライン
アップグレード

マルチカードリーダーを使う (オプション)

本機購入時にマルチカードリーダーをオプション選択された場合、本機にはあらかじめマルチカードリーダーが搭載されています。本機のマルチカードリーダーでは、5種類のメモ리카ードを使用することができます。

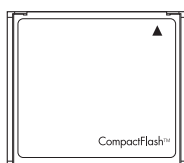


2

▶使用可能なメモ리카ード

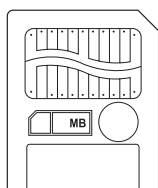
本機で使用できるメモ리카ードは次の5種類です。イラストはイメージです。

- コンパクトフラッシュ (Compact Flash)



モデム、LAN、PHS カードなどのI/Oカードは使用できません。

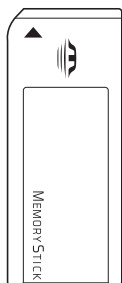
- スマートメディア (SmartMedia)



- 3.3Vタイプ (3Vと表示されているのも可) のみサポートしています。5Vタイプのカードは使用できません。
- スマートメディアの端子部が汚れていると、読み取りエラーが発生する原因になります。端子部を指で触れたりしないようにしてください。

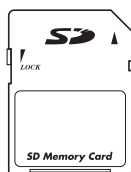
- ID付きのスマートメディアも使用できますが、ID機能には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
- ROMカードには対応していません。

●メモリースティック (Memory Stick)



- マジックゲート付きのカード (白色) も使用できますが、マジックゲート機能には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
- メモリ以外のI/Oカード (GPS用など) は使用できません。

●SDメモリーカード (SD Memory Card)



- Secure Digital 機能には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
- SD I/OカードおよびSD Comboカードは使用できません。

●マルチメディアカード (MultiMedia Card)



- Keitaide-Music対応カードも使用できますが、Keitaide-Music機能 (UDAC-MBプロトコル) には対応していません。そのため、著作権保護機能のある音楽データなどは使用できません。
- マルチメディアカードは、読み取り速度や書き込み速度が、ほかのカードに比べて遅くなります。これはカードの規格による制限です。

▶マルチカードリーダー使用時の注意

マルチカードリーダーは、次の点に注意して正しく使用してください。

- マルチカードリーダーアクセスランプ点滅中にメモリカードを取り出したり、コンピュータ本体の電源を切ったり、再起動したりしないでください。メモリカード内のデータが破損する恐れがあります。
- コンピュータの電源を切る場合やコンピュータを再起動する場合は、必ずメモリカードを取り出してから行ってください。
- 記録されているデータによっては、読み込み時に専用のソフトウェアが必要になる場合があります。詳しくは、データを作成した周辺機器またはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
- データをメモリカードに書き込み途中で、コンピュータが省電力状態に移行するなどして電源の供給が停止すると、メモリカードに不具合が発生する可能性があります。メモリカードを使用するときは、省電力機能を無効に設定してください。



p.115 「時間経過で移行させない」

メモリカードのフォーマット

メモリカードのフォーマットは必ず、メモリカードを使用するデジタルカメラなどの周辺機器側で行ってください。本機でフォーマットを行うと、周辺機器でメモリカードが認識されなくなる場合があります。

フォーマットの方法は、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。

▶メモ리카ードのセットと取り出し

メモ리카ードのセットと取り出し方法、割り当てられるドライブについて説明します。

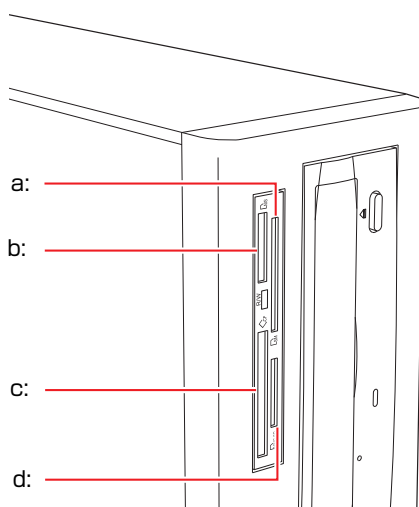


- 本機にメモ리카ードをセットした状態で電源を入れたり、再起動したりすると、Windows が起動しないことがあります。メモ리카ードはWindows 起動後にセットしてください。
- Windows が起動した状態でのメモ리카ードの取り出しは、「マイコンピュータ」から行ってください。通知領域の「取り外し」アイコンから終了処理を行うと、Windowsを再起動するまでマルチカードリーダーが認識されなくなります。

セット方法

メモ리카ードのセット方法は次のとおりです。


1 使用するメモ리카ードのロット位置を確認します。



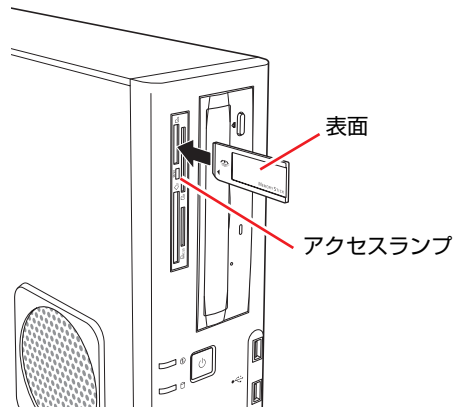
- a: スマートメディアスロット \square_{SM}
- b: メモリースティックスロット \square_{MS}
- c: コンパクトフラッシュスロット \diamond_{CF}
- d: SDカードスロット $\square_{MMC,SD}$

SDメモリーカードとマルチメディアカード用スロットです。

2 メモリカードの表面を本体の左側に向け、対応するスロットにカードが止まるまで押し込みます。

本機が横置きの場合は、メモリカードの表面を上に向けて押し込みます。メモリカードの表面は、 p.77「使用可能なメモリカード」で確認してください。


正しくセットされるとアクセスランプが点灯します。



メモリカードによっては、正しくセットされていてもスロットから数cm出たままのものもあります。

各スロットのドライブ

各スロットには、次のドライブが割り当てられます。（光ディスクドライブがDドライブの場合）

各スロットの位置は、 p.80「セット方法」手順1で確認してください。

ドライブ	メモリカード	スロット
E	コンパクトフラッシュ	c
F	スマートメディア	a
G	メモリースティック	b
H	・SDメモリーカード ・マルチメディアカード	d

「マイコンピュータ」には、次のように表示されます。

リムーバブル記憶域があるデバイス



DVD-RAM ドライブ (D:)



CF Drive (E:)



SM Drive (F:)



MS Drive (G:)

メモリカードをセットするとアイコンに色が付きます。

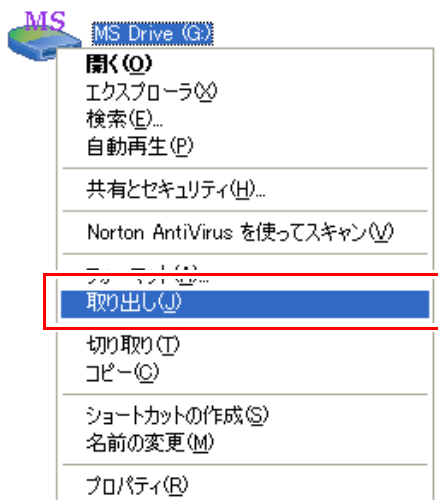


SD Drive (H:)

取り出し方法

メモ리카ードの取り出し方法は、次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「マイコンピュータ」 - 「メモ리카ードアイコン (リムーバブルディスク)」を右クリックし、「取り出し」をクリックします。



取り出し処理が完了すると、アイコンの色が消えます。

- 2 アイコンの色が消えたことを確認し、メモ리카ードを引き抜きます。
取り出したメモ리카ードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

USB機器を使う

本機にはUSB2.0に対応したUSBコネクタが、前面に2個、背面に4個、合計6個搭載されています。USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。6個のUSBコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。



USBフラッシュメモリを接続していたり、USB FDDにFDがセットされている状態で本機の電源を入れると、Windowsが起動しないことがあります。USB記憶装置は、Windows起動後に接続してください。

USB2.0の転送速度

USB2.0のデータの転送速度は、最大480Mbpsです。USB2.0コントローラは、USB2.0コネクタに接続するすべての周辺機器で共用します。そのため、転送速度は接続する周辺機器が増えると低下します。

2

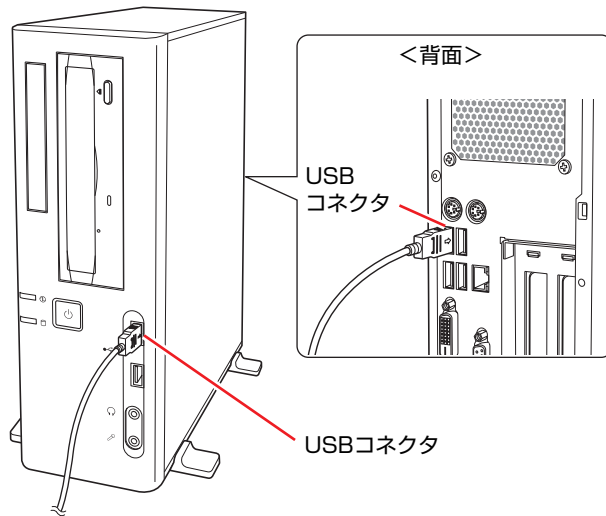
▶ USB機器の接続と取り外し

USB機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

接続

USB機器の接続方法は、次のとおりです。

- 1 USB機器のUSBコネクタを、本機前面または背面のUSBコネクタ（⇄）に接続します。



接続するUSB機器によっては、専用のデバイスドライバが必要です。詳しくはUSB機器に添付のマニュアルをご覧ください。

USB機器の取り外し

USB機器の取り外しは、コンピュータの状態を確認して、次のどちらかの方法で行います。

- 電源を切ってから取り外す

本機の電源を切るとそのまま取り外せます。

- USB機器の終了処理をして取り外す

画面右下の通知領域にある「取り外し」アイコンから終了処理を行います。



<取り外しアイコン>

USB機器の終了処理の方法は次のとおりです。

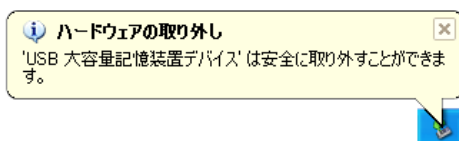
- 1 通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。
- 2 表示されたメニューから「(取り外したいUSB機器) - ... を安全に取り外します」を選択します。

USB機器のデバイス名が表示されない場合、この方法での取り外しはできません。



オプションのマルチカードリーダーをお使いの場合は、誤ってマルチカードリーダーを停止させないよう注意してください。マルチカードリーダーを停止させた場合、本機を再起動しないとマルチカードリーダーは使用できません。

- 3 「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、USB機器を本機から取り外します。




画面表示機能を使う

本機のメインボード上には画面表示機能が搭載されています。
ここでは、表示するディスプレイや解像度などの設定方法について説明します。

参考

セーフモードでの起動

接続しているディスプレイの設定が正しくない場合や、本機の画面表示機能では表示できない解像度を選択した場合、Windowsが再起動したときに画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで再起動して再設定を行ってください。


 p.214 「セーフモードでの起動」

2

▶使用できるディスプレイ

本機にはDVI-DコネクタとVGAコネクタを装備しているため、デジタル方式ディスプレイ（以降、デジタルディスプレイ）とアナログ方式ディスプレイ（以降、アナログディスプレイ）を接続することができます。
ディスプレイの接続は、次の3とおりが可能です。

- デジタルディスプレイのみ
- アナログディスプレイのみ
- デジタルディスプレイ+アナログディスプレイ


 p.89 「2台のディスプレイに表示する」

ディスプレイの接続

ディスプレイの仕様に合わせて、ディスプレイと本機をDVI-D（デジタル）ケーブル、またはVGA（アナログ）ケーブルで接続します。ディスプレイがデジタル/アナログ両用の場合は、デジタル接続で使用します。

ディスプレイの接続は、本機とディスプレイの電源を切ってから行ってください。

 p.35 「ディスプレイを接続する」

ディスプレイの表示の切り替え方法は、 p.89 「2台のディスプレイに表示する」をご覧ください。

参考

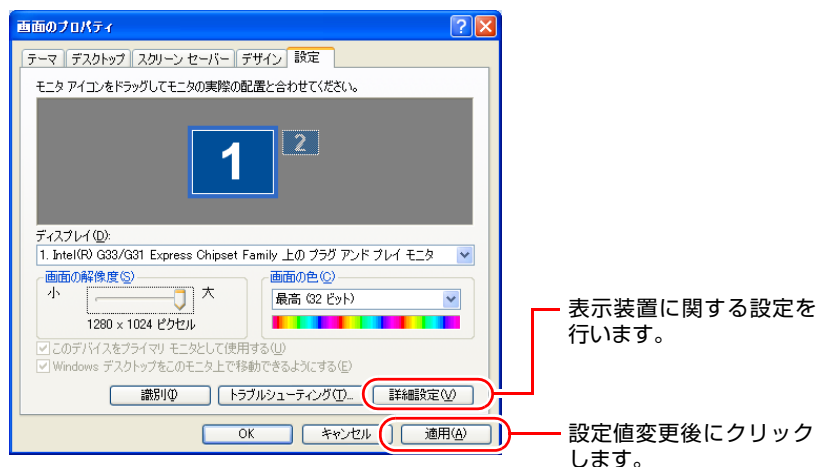
ビデオプロジェクタへの接続

ビデオプロジェクタも本機のVGAコネクタに接続できます。
詳しくはプロジェクタに添付のマニュアルをご覧ください。

▶表示に関する各種設定

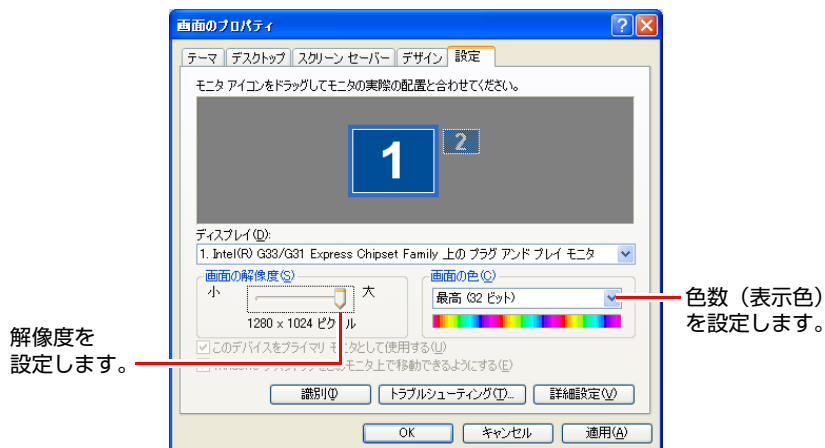
画面表示に関する設定は、「画面のプロパティ」の「設定」タブで行います。設定画面は、次の場所から表示できます。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「デスクトップの表示とテーマ」
- 「画面解像度を変更する」



▶解像度や表示色を変更するには

解像度と表示色は「設定」タブで変更します。



▶表示できる解像度と表示色



解像度や表示色が高いと、「WinDVD」で DVD VIDEO を再生するときなどに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてください。

本機の画面表示機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。実際に表示できる解像度は、接続しているディスプレイによって異なります。

●解像度 ピクセル（横×縦）

800×600

1024×768

1280×768

1280×1024

1440×900

1600×1200

1680×1050

1920×1200（アナログディスプレイ接続時のみ）

●表示色

中（16ビット） / 最高（32ビット）

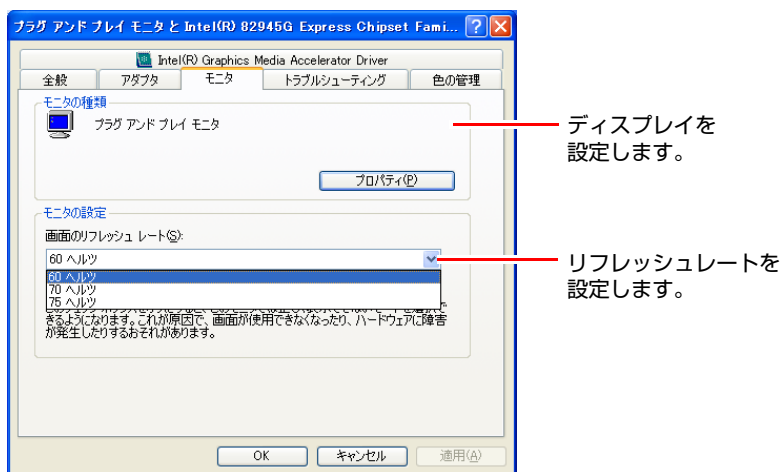


表示できる解像度

実際に表示できる最大解像度は、コンピュータ側の最大解像度と接続するディスプレイの最大解像度のうち、どちらか低い方になります。ディスプレイに添付のマニュアルで確認してください。

▶表示装置に関する設定

画面のプロパティの「設定」タブー [詳細設定] - 「モニタ」タブでは次の設定を行うことができます。



ディスプレイの設定

通常、接続しているディスプレイは自動的に検出されて設定されますが、接続しているディスプレイによっては正しく設定されない場合があります。その場合は [プロパティ] をクリックして設定を行ってください。詳しくは、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

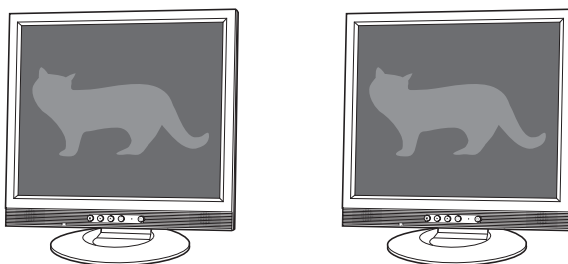
リフレッシュレートの設定

画面がちらつく、文字がにじむといった現象が起こるときは、リフレッシュレートを変更すると問題が解決することがあります。ディスプレイによっては、リフレッシュレートの変更ができない場合もあります。

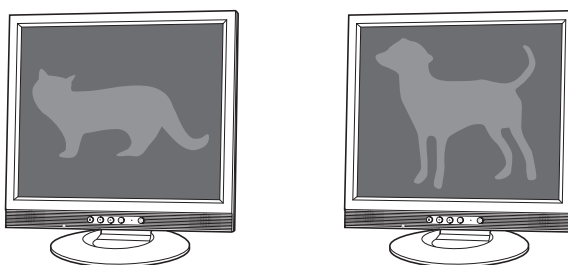
▶2台のディスプレイに表示する

本機に2台のディスプレイを接続した場合、次のデスクトップモードで表示ができます。

- 1台のディスプレイに表示（シングルディスプレイモード）
1つのディスプレイ（アナログディスプレイまたはデジタルディスプレイどちらかに）に表示します。
- 2台のディスプレイに同じ画面を表示（クローンモード）
2台のディスプレイに同じ画面を表示します。プレゼンテーションを行う場合などに便利です。



- 2台のディスプレイに個別に表示（拡張デスクトップモード）
2台のディスプレイに対して、個別に設定することができます。複数の画面をコンピュータ上に表示する場合に便利です。



表示の切り替え方法


ディスプレイの表示を切り替える方法は、次のとおりです。

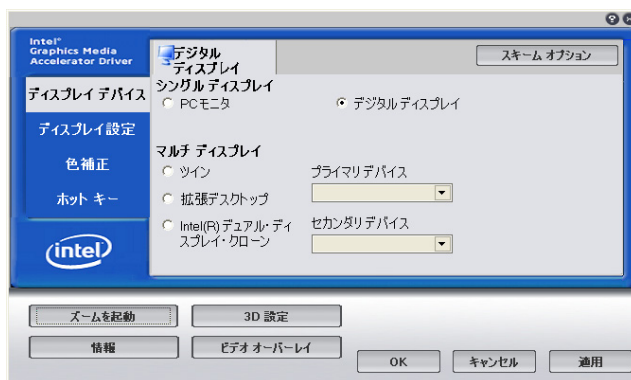
- 1 通知領域の「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver」アイコンをクリックし、「グラフィックプロパティ」を選択します。



<Intel(R) Graphics Media Accelerator Driverアイコン>

- 2 「Intel Graphics Media Accelerator Driver」画面が表示されたら、出力先の表示装置を選択します。

 p.89 「2台のディスプレイに表示する」



● シングルディスプレイ

- PCモニタ

アナログディスプレイのみに表示します。

- デジタルディスプレイ

デジタルディスプレイのみに表示します。

● マルチディスプレイ

- ツイン

2台で同じリフレッシュレートを 사용합니다。

- 拡張デスクトップ

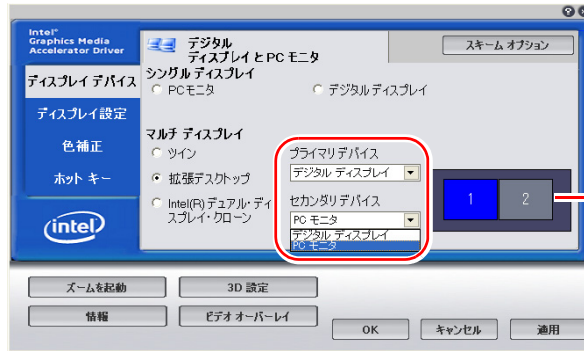
拡張デスクトップモードで表示します。

- Intel(R) デュアル・ディスプレイ・クローン

クローンモードで表示します。リフレッシュレートを個別に設定できます。プロジェクト使用などの場合に便利です。

シングルディスプレイを選択した場合は、手順4へ進みます。

- 3** 手順2でマルチディスプレイを選択した場合は、「プライマリデバイス」または「セカンダリデバイス」でディスプレイの設定を行います。
「拡張デスクトップ」を選択した場合「プライマリデバイス」側のディスプレイには、[スタート]メニューやタスクバーが表示されます。



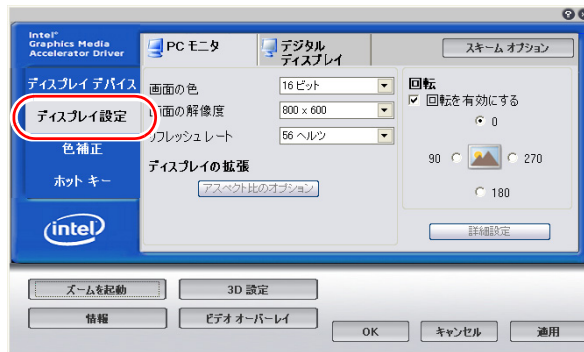
分割した画面を表示するディスプレイの位置関係を示しています。「1」がプライマリ、「2」がセカンダリです。「1」または「2」をドラッグして位置を変更します。

2

<拡張デスクトップ選択時の画面>

- 4** デスクトップの設定をします。

「ディスプレイ設定」をクリックし、「PCモニタ」タブまたは「デジタルディスプレイ」タブで解像度などを設定します。



<拡張デスクトップ選択時の画面>

- 5** [OK] をクリックします。
- 6** 「デスクトップの変更を確認」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。
これで画面の切り替えは完了です。



グラフィックオプションから設定する

ディスプレイの表示の切り替えは、次の場所からも行えます。

通知領域の「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver」アイコンをクリック - 「グラフィックオプション」 - 「出力先」

サウンド機能を使う

本機のメインボード上には、サウンド機能が搭載されています。



ヘッドフォンやスピーカーを使用する場合は、ボリュームを最小にしてから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。

内蔵モノラルスピーカ

本機には、モノラルスピーカが内蔵されています。このため、外部スピーカなどを接続しなくても、音源からの音声を出力することができます。



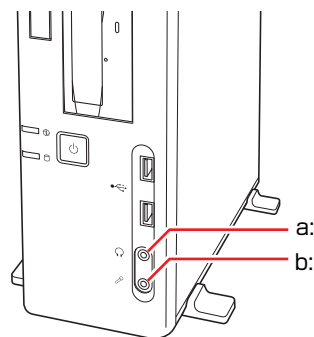
スピーカやヘッドフォンの接続

スピーカやヘッドフォンなどを接続すると、本機の内蔵モノラルスピーカは自動的に無効になります。

▶外部スピーカなどの接続

本機の前面と背面には、オーディオ機器や外部スピーカ、マイクなどを接続するためのコネクタが標準で装備されています。
各コネクタの位置と使い方は、次のとおりです。

前面側



a: ヘッドフォン出力コネクタ

スピーカやヘッドフォンと接続して、本機からの音声をステレオで出力します。

b: マイク入力コネクタ

マイクと接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能を使って、録音や再生を行うことができます。

参考

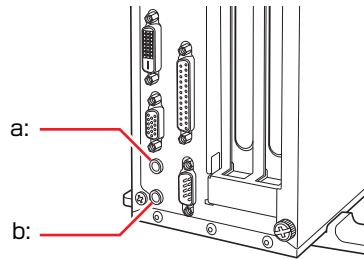
使用できるマイク

マイク入力コネクタに接続して使用できるマイクは、電源を必要とするコンデンサーマイクです。

コンデンサーマイクには、次の2種類があります。

- コンセントなどから、電源供給するタイプ
- 乾電池やコンピュータから、電源供給するタイプ

背面側

a: ライン入力コネクタ \leftarrow

カセットデッキなどのオーディオ機器の音声出力端子と接続して、音声を本機に入力するためのコネクタです。入力した音声は、本機のサウンド機能を使って、録音や再生を行うことができます。

b: ライン出力コネクタ \leftarrow

外部接続用のアンプ内蔵スピーカーなどを接続して、音声を出力するためのコネクタです。

参考

スピーカーやヘッドフォンの接続

スピーカーやヘッドフォンなどを接続すると、本機の内蔵モノラルスピーカーは自動的に無効になります。

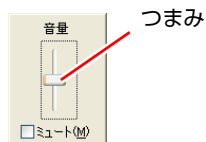
▶音量の調節

Windows使用時に音が鳴らなかつたり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合は、音量を調節します。

画面右下の通知領域に表示されている「スピーカー」アイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。



<スピーカーアイコン>



<ボリュームコントロール>

▶音声の再生・録音

Windows標準のサウンドユーティリティを使うと、音声の再生・録音をすることができます。

音声の再生

音声の再生は「Windows Media Player」を使用します。Windows Media Playerは次の場所から起動します。

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Windows Media Player」

音声の録音

音声の録音は「サウンドレコーダー」を使用します。サウンドレコーダーは次の場所から起動します。

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「エンターテイメント」 - 「サウンドレコーダー」



サウンドレコーダーでは、最長 60 秒しか録音することができません。長時間の録音を行うには、別途アプリケーションが必要です。

▶サウンドユーティリティを使う

サウンドユーティリティを使用すると、音響効果などの設定ができます。サウンドユーティリティを起動するには、通知領域の「サウンドユーティリティ」アイコンをダブルクリックします。



<サウンドユーティリティアイコン>

次の画面が表示されます。



設定項目を選択します。

▶録音時の音量調節

本機では、録音の音量調節はサウンドユーティリティで行います。ここでは、本機に接続したマイクから録音する場合の音量調節方法を説明します。


- 1 通知領域の「サウンドユーティリティ」アイコンをダブルクリックします。
- 2 サウンドユーティリティ画面が表示されたら、「ミキサー」タブをクリックします。

3 音量を調節します。



(2)録音時の
音量を調節

(1)ミュートでないことを
確認する

- (1) 「録音」項目の「マイク ボリューム」がミュートになっていないことを確認します。
- (2) 録音ボリュームで音量調節します。
- (3) 音量を調節しても音が小さい場合は、 をクリックし、「トーン調整」画面で「マイク ブースト」にチェックを付けて [OK] をクリックします。

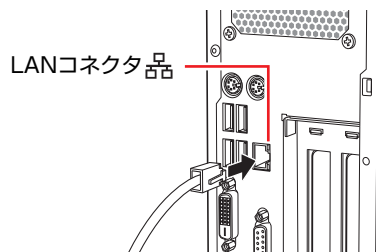
これで音量の調節は完了です。

ネットワーク機能を使う

本機のメインボード上には、1000 Base-T/100 Base-TX/10 Base-Tに対応したネットワーク機能（LAN機能）が搭載されています。

ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。

ネットワーク機能を使用する場合は、本機背面のLANコネクタに市販のLANケーブルを接続します。



2


▶ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するために、LANケーブルやハブ（サーバ）などが必要です。そのほかに、Windows上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定などが必要になります。

ネットワークの構築方法は、ネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。



制限

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。
このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
 - ・ 再起動する。
 - ・ 省電力状態に移行しないように設定する。
 p.115 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態へ復帰できない場合があります。
- 本機のネットワーク機能では、リピータ・ハブを使用できません。

▶インターネットへの接続


インターネットへ接続する場合は、 p.100 「インターネットに接続するには」をご覧ください。

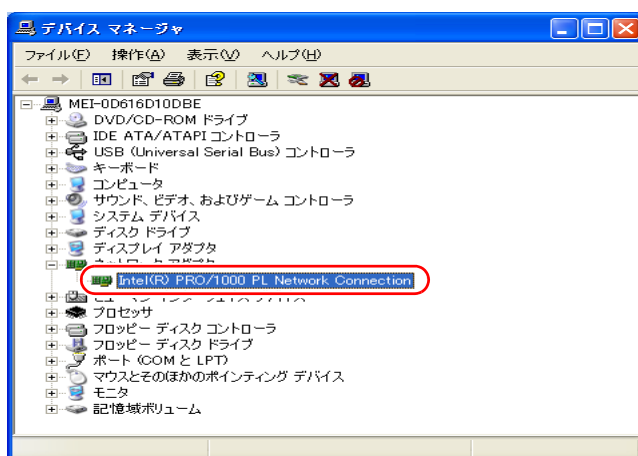
▶ Wakeup On LAN

Wakeup On LANとは、電源切断時やスタンバイ、休止状態のときにネットワークからの信号により本機を復帰させることができる機能です。シャットダウンからの復帰はWindowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。

Wakeup On LANを有効に設定する

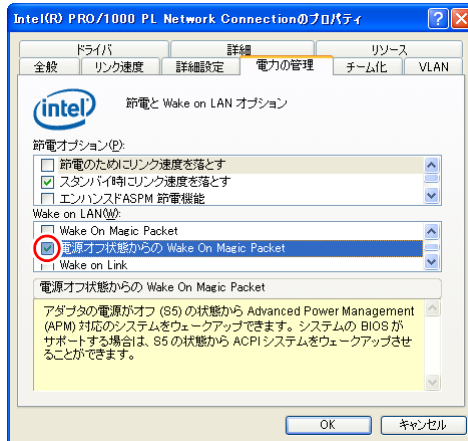
シャットダウン時の「Wakeup On LAN」を有効にする場合は、次の設定が必要です。


- 1 「BIOS Setupユーティリティ」－「Power」メニュー画面－「APM Configurations」－「Power On by PME#」を「Enabled」に設定します。
 p.139 「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 2 [スタート]－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「システム」をクリックします。
- 3 表示された「システムのプロパティ」画面の「ハードウェア」タブをクリックし、[デバイスマネージャ] をクリックします。
- 4 表示された「デバイスマネージャ」画面の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、「Intel(R) PRO/1000・・・」をダブルクリックします。



- 5 表示された「Intel(R) PRO/1000・・・」画面の「電力の管理」タブをクリックします。

- 6 「Wake on LAN」の「電源オフ状態からのWake On Magic Packet」にチェックを入れて [OK] をクリックします。



- 7  をクリックし、開いている画面をすべて閉じます。
これで設定は完了です。



Wakeup On LANを設定している場合

BIOSの設定で、Wakeup On LAN (Power On by PME#) が有効に設定されているときに、電源コードを抜き、再び接続するとコンピュータが一瞬起動する場合があります。これは、不具合ではありません。

▶リモートブート

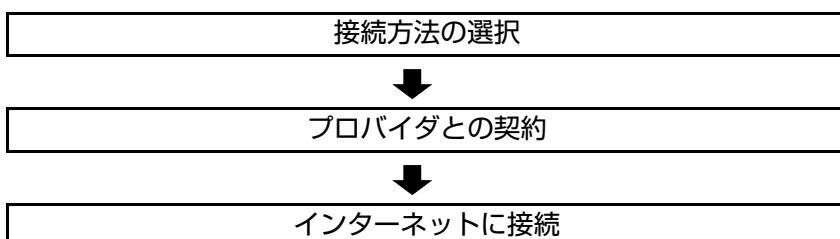
リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバ上からWindowsなどのOSをインストールすることができます。

インターネットに接続するには

ホームページを見たり、電子メールをやり取りしたりするためには、インターネットへの接続が必要です。ここではインターネットへの接続の概要や、インターネットを利用するためのソフトウェアについて説明します。

▶接続するまでの流れ

インターネット接続までの流れは次のとおりです。



▶接続方法の選択とプロバイダとの契約

インターネットへ接続するには、接続方法を決め、その接続方法でサービスを提供しているプロバイダ（インターネットサービスプロバイダ、ISP）と契約します。

接続方法は、目的や使い方に合わせて選択しましょう。また、同じ接続方法でも、通信速度や料金、サポート内容はプロバイダによって異なります。詳しい内容はプロバイダにお問い合わせください。

接続方法の種類

高速なインターネット接続をブロードバンドと言い、光ファイバー、ADSL、CATVなどを利用した接続がそれにあたります。また、アナログ電話回線、ISDNなどでの低速な接続をナローバンドと言います。

接続方法	接続環境	インターネットでの通信速度イメージ
光ファイバー	ブロードバンド	（最速）
ADSL		（速）
CATV		（速）
ISDN	ナローバンド	（遅）
PHS		（遅）
携帯		（遅）
アナログ		（遅）

遅い 速い

インターネット接続の方法には、主に次のようなものがあります。

- 光ファイバー (FTTH)

ほかのブロードバンド接続と比べても、数段に速く安定しているため、映像などの大量のデータ転送も無理なくできます。また、インターネットと合わせてテレビや電話も利用することができます。

ただし、接続料金が高く、非対応の地域があります。

- ADSL

電話回線を利用します。インターネットをストレスなく使えます。通信速度は、プロバイダのプランから使い方に合わせて選ぶことができます。

利用電話局からの距離が遠くなるにつれ速度が遅くなってしまいますので、事前に速さの確認をする必要があります。

- CATV

ケーブルテレビのケーブルを利用します。インターネットをストレスなく使えます。

- そのほかの接続方法 (ナローバンド)

アナログ電話回線やISDN回線などを使った低速な接続方法があります。



参考

ダイヤルアップ接続

ブロードバンドは常時接続が一般的ですが、ナローバンドでは、必要時に電話回線を通じてインターネットに接続します。この作業をダイヤルアップ接続と言います。

必要な機器

インターネット接続に必要な機器は接続方法によって異なります。詳しくは各プロバイダにお問い合わせください。

▶ インターネットに接続する

プロバイダと契約すると、メールアドレスやパスワードなどインターネットへの接続に必要な情報と、接続手順が記載された説明書がプロバイダより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。



参考

再インストール後のインターネット接続

Windowsを再インストールした場合は、インターネットに接続するための設定作業が再度必要になります。プロバイダからの説明書はなくさないように大切に保管してください。


▶インターネットを使う上での注意

インターネットを使用すると、簡単に情報を得ることができたり、手軽にメッセージを送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないことがあります。次の点に気を付けてインターネットを使用してください。

- 電子メールは途中経路の障害などにより、届かない場合もあります。
- 電子メールは世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、第三者に内容を見られる可能性があります。
- インターネット上の情報は、必ずしも正しいとは限りません。正しい情報であるかどうかを十分に見極めて、有効に活用する必要があります。
- 安易に個人情報をホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると、悪用されることがあります。また、他人の個人情報を断りなくホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると法律で罰せられます。
- ホームページからダウンロードするデータによっては、本機が障害を被る可能性があります。
- コンピュータウイルスに感染すると、本機が障害を被る可能性があります。また、無許可のユーザーにインターネットを介して本機にアクセスされる可能性もあります。

ウイルスに感染する主な原因は次のとおりです。

- ・ ウイルスが添付されたメールを受信する
- ・ 悪質なプログラムが起動するホームページを閲覧する

これらの危険から本機を守る方法は、 p.105 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」をご覧ください。

▶インターネットや電子メールを利用する

本機では、次のソフトウェアを使用してインターネットや、電子メールを利用します。

- ホームページの閲覧：Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）
- 電子メールの利用：Outlook Express（アウトルックエクスプレス）

各ソフトウェアの使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」 - 「PCお役立ち情報」

Outlook Expressの初期設定

Outlook Expressをはじめて起動した際に「インターネット接続ウィザード」画面が表示された場合は、初期設定を行います。

初期設定では、メールアドレスなどの接続に必要な情報を入力します。これらの情報は、プロバイダから提供された説明書をご覧ください。

初期設定方法は次のとおりです。

- 1** 「スタート」－「すべてのプログラム」－「Outlook Express」をクリックします。
- 2** 「インターネット接続ウィザード」画面で「名前」と表示されたら、名前を入力して【次へ】をクリックします。
- 3** 「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得したメールアドレスを入力して【次へ】をクリックします。
- 4** 「電子メールサーバー名」と表示されたら、プロバイダから指定されている受信メールサーバと送信メールサーバを入力して【次へ】をクリックします。
- 5** 「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているメールアカウントとメールパスワードを入力して【次へ】をクリックします。
- 6** 「設定完了」と表示されたら、【完了】をクリックします。



参考

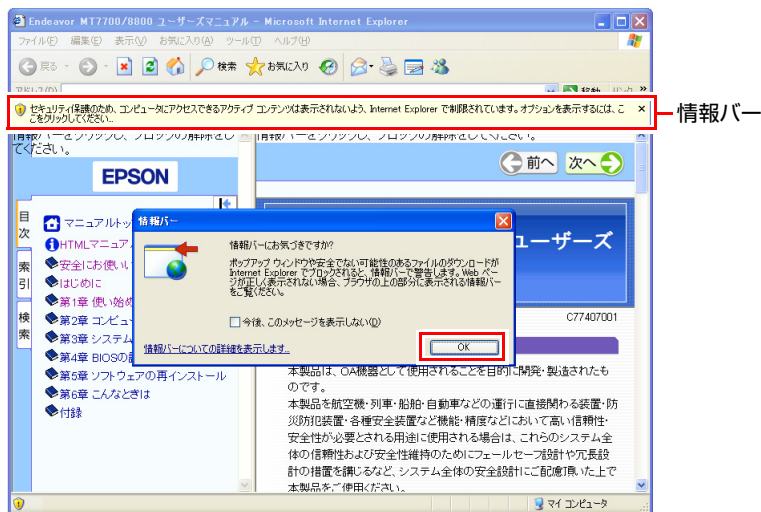
初期設定をあとから行う

「Outlook Express」の次の場所から設定を行うことができます。

「ツール」メニュー－「アカウント」－【追加】－「メール」

Internet Explorerで情報バーが表示されたら

購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時に「警告」画面が表示されたら、[OK] をクリックして画面を閉じ、「情報バー」をクリックして、表示された項目から適切な対処をしてください。



Internet Explorerの便利な追加機能

本機にはInternet Explorerの便利な機能として、次のソフトウェアが添付されています。

- JWord

「JWord」を使うと、アドレスバーを利用して、簡単に検索ができます。

JWordの詳しい使い方は、デスクトップ上にある「JWord」アイコンからマニュアルを開いてご覧ください。



<JWordアイコン>

- gooスティック

Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスが設定されています。「gooスティック」を使うと、検索機能や辞書機能をいつでも利用することができます。

- マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版

Internet Explorerのツールバーに、「McAfee SiteAdvisor」ボタンが設定され、Webサイトの安全性評価を確認できます。マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版の詳しい使い方は、ボタンから「ヘルプ」をご覧ください。

インターネットを使用する際のセキュリティ対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうるコンピュータウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対するセキュリティ機能が備えられています。ここでは、このセキュリティ機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピュータの安全を守るため、必ずセキュリティ対策を行ってください。

▶ Windows Update

「Windows Update」は、本機のWindowsの状態を診断し、Windowsの更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。Windowsを最新の状態にするため、Windows Updateを行ってください。

はじめてインターネットに接続したときは

はじめてインターネットに接続したときや、Windowsの再インストールをした場合は、手動でWindows Updateを行ってください。
手動でWindows Updateを行う方法は、次のとおりです。

- 1 「スタート」 - 「すべてのプログラム」 - 「Windows Update」をクリックします。
- 2 Windows Updateのホームページが表示されたら、ホームページの記載に従って更新プログラムをダウンロード、インストールします。

自動更新の設定

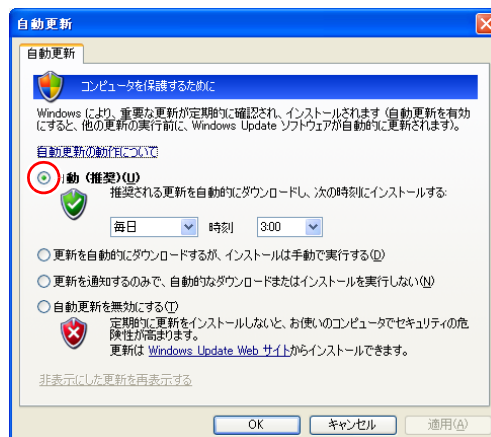
本機は、自動でWindows Updateが行われるよう、自動更新の設定がされています。そのままお使いください。

自動更新の設定がされていると、インターネットに接続時、更新プログラムが自動的にダウンロードされ、設定時刻に自動でインストールされます。

設定時刻に本機が起動していない場合は、次回起動時に自動でインストールされます。

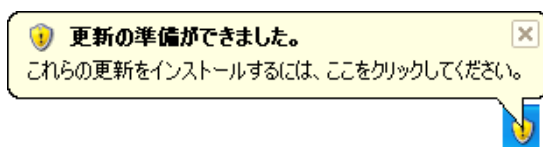
自動更新は次の場所で設定されています。

「スタート」 - 「コントロールパネル」 - 「セキュリティセンター」 - 「自動更新」



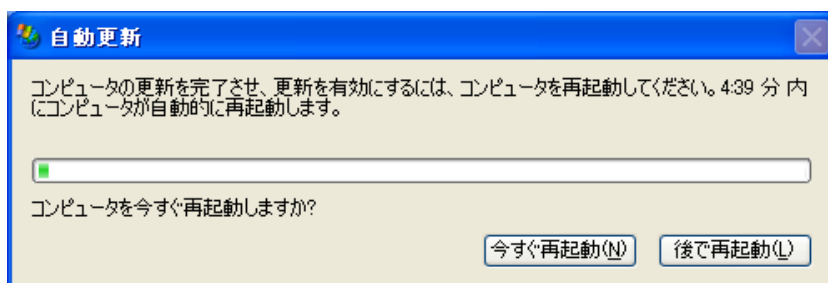
「更新の準備ができました。」と表示されたら

インターネットに接続時、更新プログラムが自動的にダウンロードされると、画面右下に「更新の準備ができました。」と表示されます。インストールの設定時刻になる前に更新プログラムをインストールしたい場合は、通知アイコンをクリックし、インストールをしてください。



「自動更新」画面が表示されたら

インストールの設定時刻（または次回起動時）に更新プログラムの自動インストールが行われると、「自動更新」画面が表示されます。作業中の場合はデータを保存してください。本機が再起動したら、インストールは完了です。



▶セキュリティソフトウェア

コンピュータウイルスは、インターネット上やメールの添付ファイルなどから感染する悪意のあるプログラムです。

コンピュータウイルスに感染すると、本機の動作が不安定になったり、保存してあるファイルが破壊されるなどの被害が発生します。

ウイルス感染を防ぐために、必ずウイルス対策を行ってください。

Norton Internet Security 90日版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能、フィッシング詐欺検出機能を備えた「Norton Internet Security 90日版」が添付されています。購入時にNorton Internet Security 90日版はインストールされていませんので、必要に応じてインストールを行ってください。詳しくは、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。



更新サービスの有効期限

本機に添付のNorton Internet Security 90日版は、製品版ではありません。更新サービスの有効期限は、セットアップ後90日間です。90日経過後は、更新サービスの延長キー（有償）を購入すると、1年間使用可能です。更新サービスの詳細は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

市販のセキュリティソフトウェアを使う

市販のセキュリティソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、Norton Internet Security 90日版はインストールしないでください。インストールしていた場合は、アンインストール（削除）してください。アンインストール方法は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

▶ファイアウォール

インターネットに接続していると、不正なアクセスにより、本機のデータやプログラムを勝手に見られたり、改ざんされたり、破壊されたりする可能性があります。「ファイアウォール」は、これらの不正アクセスを検出し、遮断する機能です。

不正アクセスを遮断するため、必ずファイアウォール機能を使用してください。

Norton Internet Security 90日版のファイアウォール機能

本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」には、ファイアウォール機能が備えられています。Norton Internet Security 90日版のセットアップを行うと、自動的にファイアウォール機能が有効になりますので、そのままお使いください。

Windowsファイアウォールの設定

本機には、Windowsのファイアウォール機能が備えられています。

本機の状態によって、Windowsファイアウォールを次のように設定してください。

<ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用している場合>

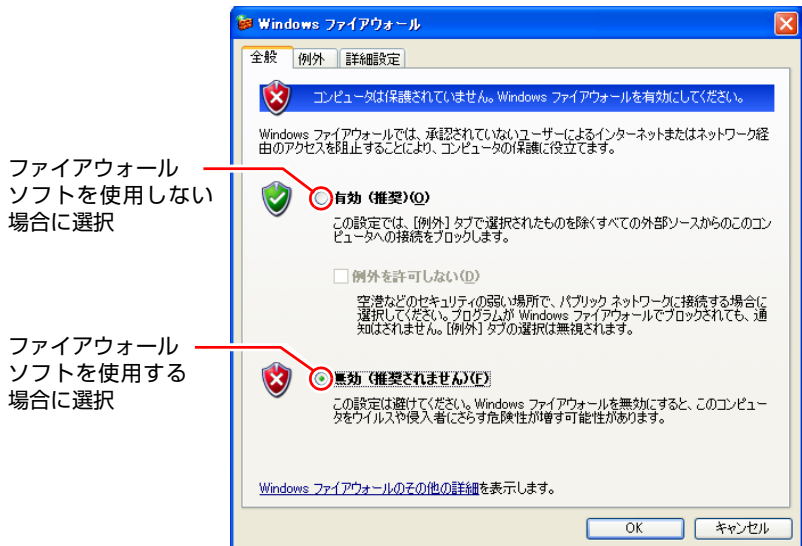
ファイアウォール同士の競合を防ぐため、Windowsファイアウォールを「無効」に設定してください。ソフトウェアによっては、Windowsファイアウォールが自動で「無効」に設定される場合があります。

<ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用しない場合>

Windowsファイアウォールを「有効」に設定してください。

Windowsファイアウォールの有効/無効の設定は、次の場所から行います。

【スタート】－「コントロールパネル」－「セキュリティセンター」－
「Windowsファイアウォール」




▶ Webフィルタリングソフトウェア

Webフィルタリングとは、インターネット上の有害なサイトを見せないようにするための技術です。Webフィルタリングは万全ではありません。ただし、有害サイトへのアクセスを自動的に制限することができます。

i-フィルター 30日版を使う

本機には、「Webフィルタリング」機能を持つ「i-フィルター 30日版」が添付されています。家庭内でお子様がコンピュータを使用する際に、有害なサイトへのアクセスを制限したいときなどは、i-フィルター 30日版を使用することをおすすめします。

i-フィルター 30日版のインストール

購入時、本機にはi-フィルター 30日版はインストールされていません。インストール方法は、 p.177 「i-フィルター 30日版のインストール」をご覧ください。

市販のWebフィルタリングソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、i-フィルター 30日版はインストールしないでください。

i-フィルター 30日版の使用方法

i-フィルター 30日版をインストールすると、フィルター設定が有効になり、有害サイトにアクセスしようとする、自動的にブロックされます。

初期設定では、フィルター強度は中学生向けです。フィルター強度は利用者別に設定できます。必要に応じて、「設定メニュー」画面で設定を変更してください。

「設定メニュー」画面の表示方法は、次のとおりです。

1 通知領域の「i-フィルター」アイコンをクリックします。



<i-フィルターアイコン>

2 「パスワード確認」画面が表示されたら、管理パスワードを入力して [OK] をクリックします。

「設定メニュー」画面が表示されます。

i-フィルター 30日版の詳しい使用方法は、ヘルプをご覧ください。



ファイアウォール機能による警告画面が表示された場合はセキュリティソフトウェアのファイアウォール機能を有効にしている場合、インターネット閲覧時に「i-フィルター 30日版」でのインターネットアクセスに関する警告が表示されることがあります。


この場合は、「i-フィルター 30日版」の使用を許可してください。

i-フィルター 30日版の利用期限

i-フィルター 30日版の利用期限は、セットアップ後30日間です。利用期限が過ぎると、フィルター機能が停止します。

<継続して利用する場合>

継続利用の手続き（有償）をオンラインで行ってください。

 p.111 「i-フィルター 30日版のサポート」




制限

本機に添付のi-フィルター 30日版は、「i-フィルター更新パック」で継続利用手続きを行うことはできません。

<継続して利用しない場合>

i-フィルター 30日版のアンインストールを行ってください。

i-フィルター 30日版のアンインストール方法は、デジタルアーツ社のホームページの「よくある質問」をご覧ください。

 p.111 「i-フィルター 30日版のサポート」

i-フィルター 30日版のサポート

i-フィルター 30日版のサポートは、デジタルアーツ社で行います。

よくあるご質問と回答・サポート窓口・継続利用手続き・サービスページなどについては、デジタルアーツ社の次のホームページをご覧ください。

http://www.daj.jp/cs/ifpe/sup_dl.htm


なお、このサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

省電力機能を使う

省電力機能を利用すると、本機を使用していない間、本機が省電力状態に移行して消費電力を抑えることができます。

▶省電力機能使用時の制限

省電力機能を使用する際には、次のような制限事項があります。使用する前に確認して、正しくお使いください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は省電力状態に移行しないことがあります。
 - ・ 周辺機器を接続している
 - ・ ソフトウェアを起動している
- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。
 -  p.115 「時間経過で移行させない」
 - ・ 光ディスクメディアへの書き込み時：書き込みに失敗する可能性
 - ・ サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
 - ・ メモリカードや外部接続記憶装置（USB FDDなど）へのデータ書き込み時：データ破損の可能性
 - ・ ネットワーク機能などを使っての通信時：通信が切断される可能性
 - ・ 動画再生時：コマ落ちしたりソフトウェアの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性
- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
 - ・ 省電力状態で、周辺機器の抜き差しを行った場合。
 - ・ ネットワーク上のファイルなどを開いたまま、省電力状態に移行した場合。
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。

▶省電力状態の種類

省電力状態には、主に次のようなものがあります。

- HDD/ディスプレイの電源を切る

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果はスタンバイより低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。

- スタンバイ

作業内容をメモリに保存した状態で本機の動作を中断します。メモリ以外の電源が切れるため、電力消費はほとんどありません。

参考


スタンバイが正常に動作しない場合

相性の良くない周辺機器などを使用している可能性があります。その場合、「BIOS Setupユーティリティ」の設定を次のように変更してください。設定を変更した場合の電力消費は、通常より若干抑えられる程度になります。

「Power」メニュー画面


Suspend Mode : S1 (POS) only

購入時は「S3 only」に設定されています。

 p.140 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 休止状態

作業内容をHDDに保存して電源を切ります。本機の電源を切った状態と同様に電力を消費しません。通常の状態への復帰には多少時間がかかります。休止状態を有効にするためには設定が必要です。

 p.114 「休止状態を有効にする」



制限

スタンバイを実行しているときに電源コードが抜けたりすると、メモリへの電源供給が切れてしまい、次に本機の電源を入れたときに正常に起動しません。この場合は、本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れてみてください。

電源ランプの表示

省電力状態は、電源ランプ (①) の表示により確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常	点灯 (緑色)
HDD/ディスプレイの電源切断	点灯 (緑色)
スタンバイ*	点灯 (オレンジ色)
休止状態	消灯
電源切断時	消灯

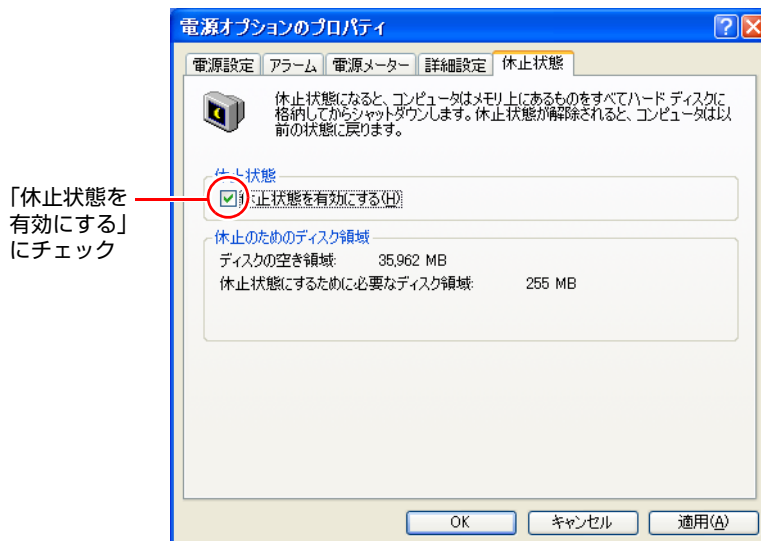
* : BIOS Setupユーティリティの「Power」メニュー画面－「Suspend Mode」を「S1 (POS) only」に設定した場合、電源ランプの表示は緑色になります。

休止状態を有効にする

「休止状態」を有効にすると、本機の電源を切った状態と同様に、電力の消費を抑えることができます。

休止状態の設定は、次の場所から行います。

【スタート】－【コントロールパネル】－【パフォーマンスとメンテナンス】
－【電源オプション】－【休止状態】タブ－【休止状態を有効にする】



<イメージ>

▶ 省電力状態に移行する

省電力状態に移行する方法には、次の2つがあります。

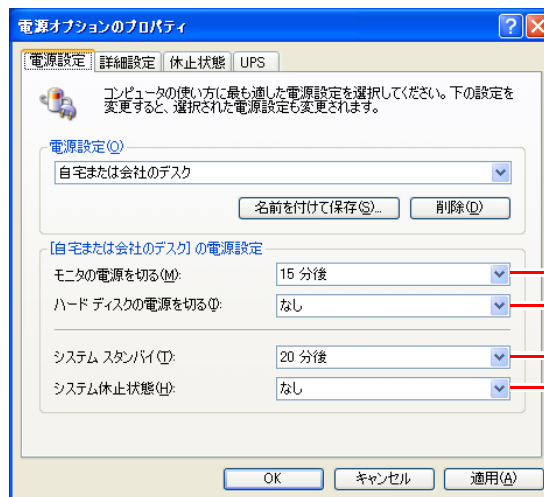
- 時間経過で移行する
設定した時間を超えて本機を操作しないと、省電力状態に移行します。
- 直ちに移行する
席を外すときなどに、手動で省電力状態に移行します。

省電力状態に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」
- 「電源オプション」

時間経過で移行する

省電力状態に移行する時間の設定は、「電源設定」タブの画面で行います。



設定した時間を超えて本機を操作しないと、各状態に移行します。

時間経過で移行させない

光ディスクメディアへ書き込みを行う場合などは、時間経過による省電力状態への移行を無効に設定します。

時間経過による省電力状態への移行を無効にするには、すべての項目の時間設定を「なし」に設定します。

直ちに移行する

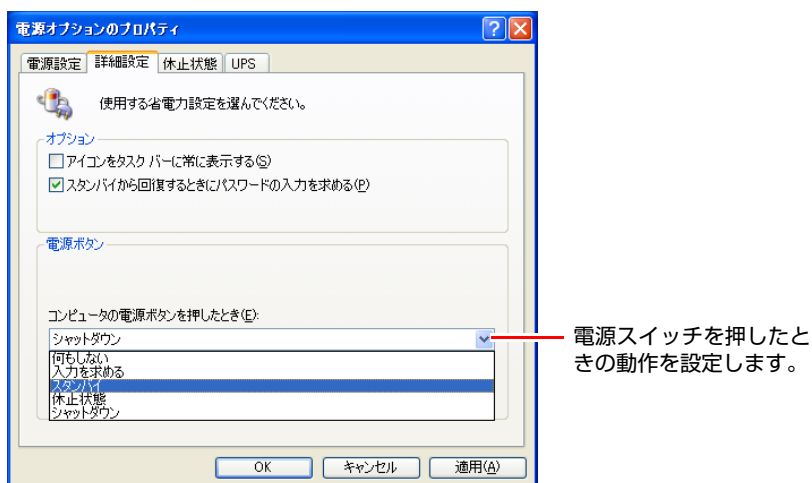
手動で「スタンバイ」または「休止状態」に移行する方法は、次のとおりです。

- [スタート] – 「終了オプション」 から選択し、移行する

「コンピュータの電源を切る」画面で **[Shift]** を押し、スタンバイではなく休止状態を選択できるようになります。

- 電源スイッチを押して移行する

電源スイッチを押したときにどの状態に入るかを、あらかじめ「詳細設定」タブの画面で設定しておきます。



▶ 省電力状態から復帰する

本機を省電力状態から通常の状態に戻す方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプ	復帰方法
HDD/ディスプレイの電源が切れている状態	点灯 (緑色)	キーボードやマウスを操作します。
スタンバイ*	点灯 (オレンジ色)	電源スイッチを押します。
休止状態	消灯	電源スイッチを押します。

* : BIOS Setupユーティリティの「Power」メニュー画面 – 「Suspend Mode」を「S1 (POS) only」に設定した場合、電源ランプの表示は緑色になります。復帰するときは、キーボードやマウスを操作します。


そのほかの機能

▶パラレルコネクタ

本機背面にはパラレルコネクタが1個搭載されています。パラレルコネクタには、パラレルコネクタに対応した機器（プリンタやスキャナなど）を接続します。

本機ではパラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

「Advanced」メニュー画面 – 「Onboard Devices Configuration」 – 「Parallel Port Address」


 p.140 「BIOS Setupユーティリティの操作」

▶シリアルコネクタ

本機背面にはシリアルコネクタが1個搭載されています。シリアルコネクタには、シリアルコネクタに対応した機器（マウスやFAXモデム、ターミナルアダプタなど）を接続します。

本機のシリアルポートはCOM2に設定されています。本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常はシリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を変更してください。

「Advanced」メニュー画面 – 「Onboard Devices Configuration」 – 「Serial Port2 Address」

 p.140 「BIOS Setupユーティリティの操作」

▶SpeedStep（スピードステップ）機能

＜スピードステップ機能を持つプロセッサ搭載時＞

本機では、スピードステップ機能を使用することができます。

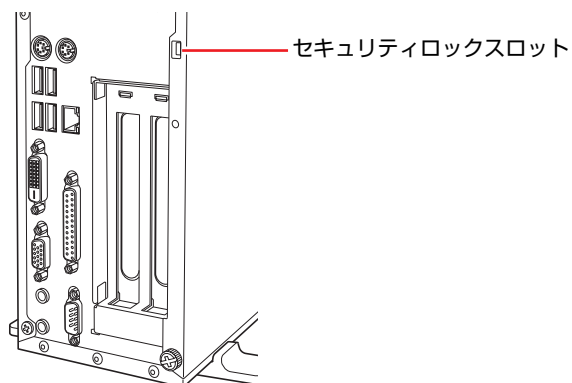
スピードステップ機能とは、使用時のCPUの使用率にあわせて自動的にCPUの処理速度を調整し、本機を省電力で動作させる機能です。

スピードステップ機能を有効にする方法は次のとおりです。

- 1 「スタート」 – 「コントロールパネル」 – 「パフォーマンスとメンテナンス」 – 「電源オプション」をクリックします。
- 2 「電源オプションのプロパティ」画面が表示されたら、「電源設定」タブの「電源設定」を「最小の電源管理」に設定し、[OK]をクリックします。
これでスピードステップ機能が有効になります。

▶セキュリティロックスロット

本機背面には、「セキュリティロックスロット」が搭載されています。ここには、専用の盗難抑止ワイヤーを取り付けます。



当社では、専用の盗難抑止ワイヤーを取り扱っています。詳しくは当社のホームページをご覧ください。

ホームページのアドレスは、次のとおりです。

<http://shop.epson.jp/>

第3章 システムの拡張

装置の増設・交換方法について説明します。

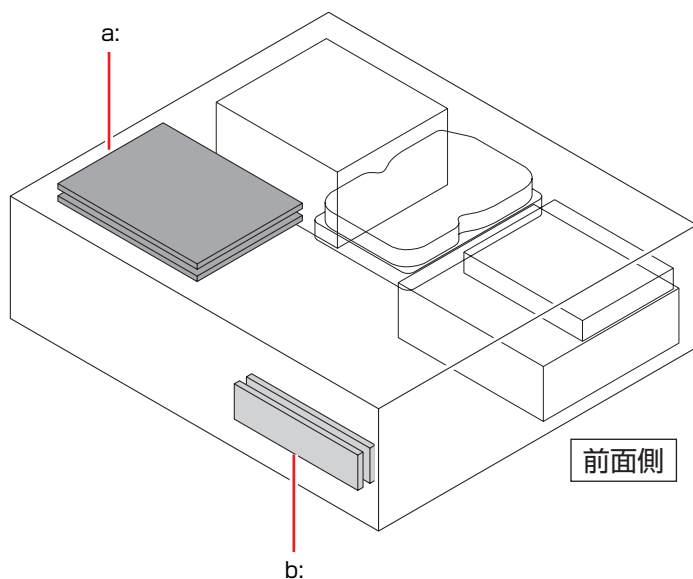
「拡張できる装置」	120
「作業時の注意」	122
「拡張時の準備作業」	123
「メモリの装着」	126
「拡張ボードの装着」	131

拡張できる装置

本機では、次の各部に装置を増設・交換して機能を拡張することができます。ただし、購入時にいくつかの装置がすでに装着されているため、実際に拡張できる装置の数は異なります。




メモリと拡張ボード以外の装置をご自身で増設・交換することはできません。




a: 拡張スロット

拡張スロットには、PCI仕様の拡張ボードを2枚装着できます。

 p.131 「拡張ボードの装着」

b: メモリスロット

メモリスロットには、メモリを2枚（最大2GBまで）装着できます。

 p.126 「メモリの装着」

アップグレードサービスについて

当社では、次の装置のアップグレードサービス（増設・交換）を有償で行っています。購入時のシステム構成により、増設できる装置は異なります。

- メモリ : 増設・交換
- HDD : 増設・交換
- 光ディスクドライブ : 交換
- FDD : 増設
- マルチカードリーダー : 増設

アップグレードサービスをご希望の場合は、カスタマーサービスセンターにご相談ください。連絡先は、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

ご自身での装置の増設・交換（メモリ、拡張ボードを除く）は、故障の原因となりますので行わないでください。

作業時の注意

本機内部に装置を装着する場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。



- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや感電・火災の原因となります。



- 装置の増設・交換は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



- 本機から周辺機器を必ず取り外してください。
- 取り付けを行う際は、取り付ける装置に添付されているマニュアルを必ず参照してください。
- 本機内部のケースや基板には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。メモリや本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリや拡張ボードを持つときは、端子部や素子に触れないでください。破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装着する方向を間違えないでください。メモリが抜けなくなるなど故障の原因になります。
- 装置は落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリや拡張ボードの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

拡張時の準備作業

装置の拡張作業を行う場合は次の準備作業が必要です。各装置の拡張手順に従って、必要に応じて作業を行ってください。



作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。
電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。

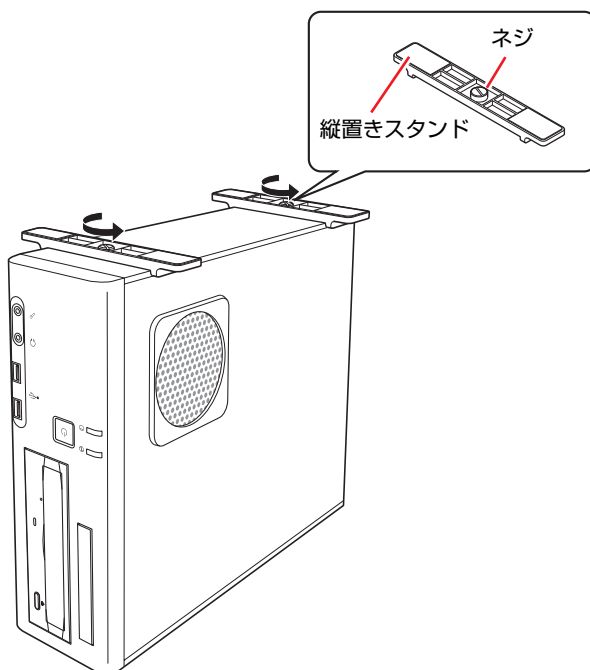
▶本体カバーの取り外し・取り付け

本機の内部に装置を装着する場合は、本体カバーを外してください。

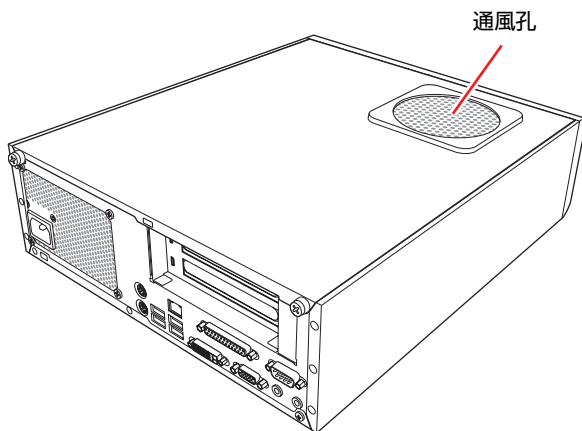
取り外し

本体カバーの取り外し方法は次のとおりです。

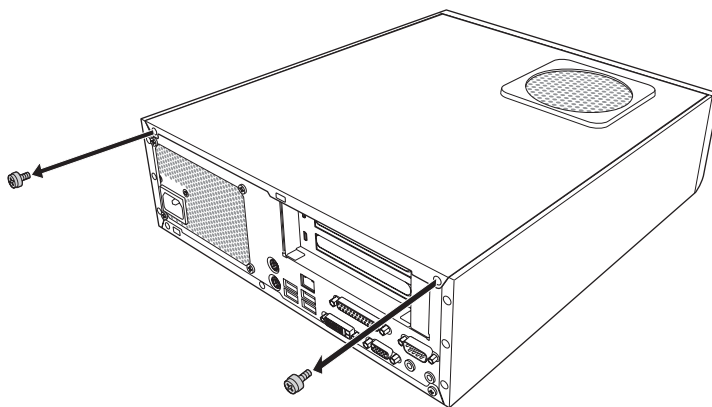
- 1** コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本機を縦置きで使用している場合、縦置きスタンドを上にして置き、ネジをゆるめてから縦置きスタンドを取り外します。



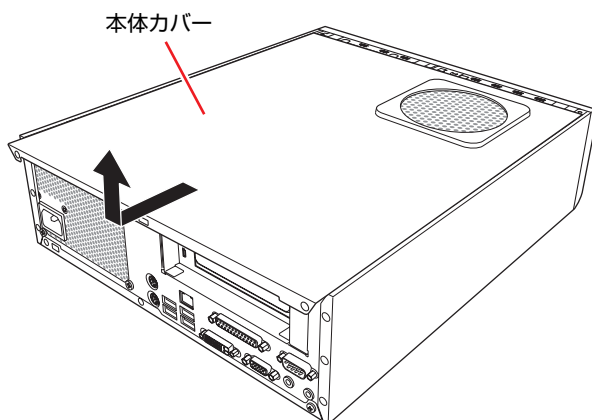
- 4** 通風孔がある側面が上になるように、本体を横置きします。



- 5** 本機背面のネジ（2本）を外します。



- 6** 本体カバーを背面側へスライドさせ、上へ持ち上げて取り外します。

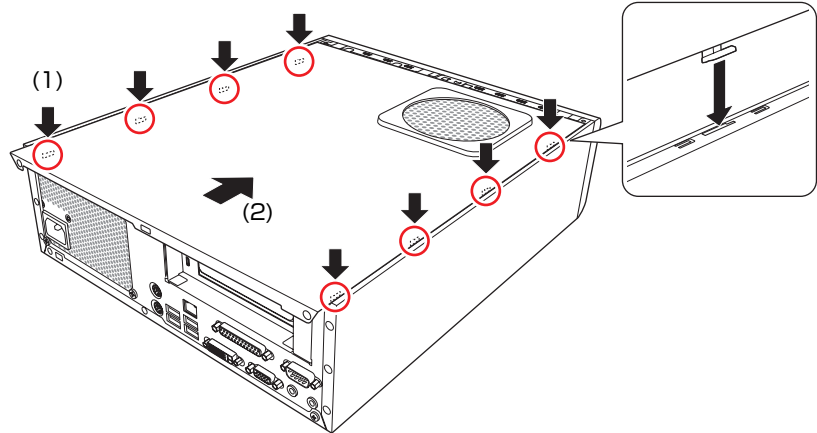


取り付け

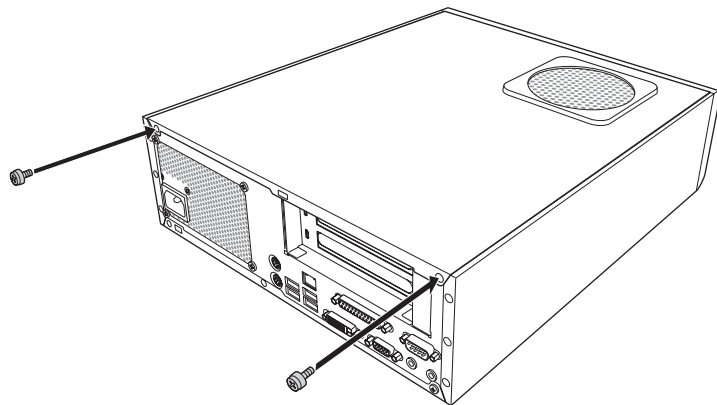
本体カバーの取り付け方法は次のとおりです。

1 本体カバーを取り付けます。

- (1) 本体側面の穴（8個）とカバーの突起（8個）の位置を合わせて、本体カバーを上からかぶせます。
- (2) 本体カバーを本体前面側にスライドさせます。



2 ネジ（2本）で本機背面と本体カバーを固定します。



3 縦置きで使用する場合は、光ディスクドライブを下にして、縦置きスタンドを取り付けます。

縦置きスタンドを取り付けたら、スタンドを下にして置きます。

4 コンピュータを使用できるように取り外したケーブル類（電源コードなど）を本機に接続します。

これで本体カバーの取り付けは完了です。

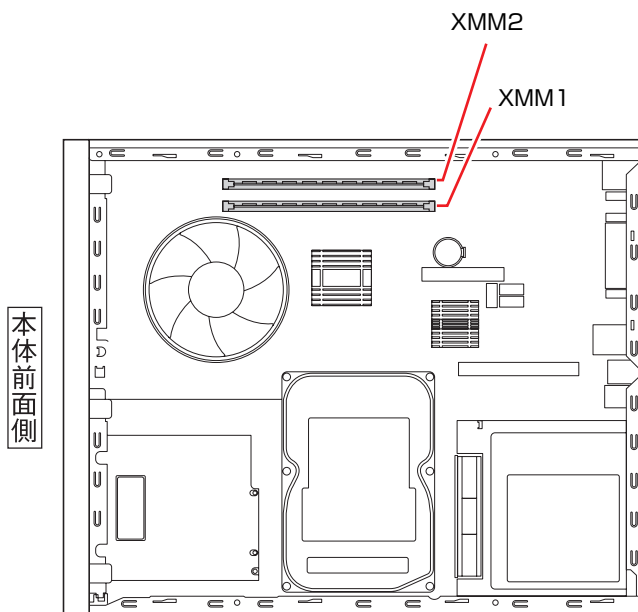
メモリの装着

本機で使用可能なメモリの仕様と、メモリの取り付け・取り外し方法について説明します。

▶メモリの仕様

本機にはメモリスロットが2つあり、メモリを増設・交換することにより最大2GB（1024MB×2）まで拡張できます。

メモリはXMM1スロットから取り付けます。購入時、XMM1スロットにはあらかじめメモリが取り付けられています（購入時の選択により、メモリの容量と枚数は異なります）。



本機で使用可能なメモリは、次のとおりです。

- PC2-5300（DDR2-667 SDRAM使用）
- メモリ容量 512MB、1GB
- Non ECC
- 240ピン
- CL=5

最新メモリ情報

今後、新しいメモリを取り扱う場合があります。

本機で使用可能な最新のメモリは、当社ホームページでご確認ください。

ホームページのアドレスは、次のとおりです。


<http://shop.epson.jp/>

▶メモリ装着の組み合わせ

本機はデュアルチャネルに対応しているため、同一容量のメモリを2枚1組で装着すると、データ転送速度のパフォーマンスが最大になります。
メモリ装着の組み合わせとメモリの動作は、次のとおりです。



メモリ装着の組み合わせ	メモリの動作
同一容量のメモリ2枚	デュアルチャネルで動作。転送速度最大。
メモリ1枚	通常の転送速度で動作（シングルチャネル）。

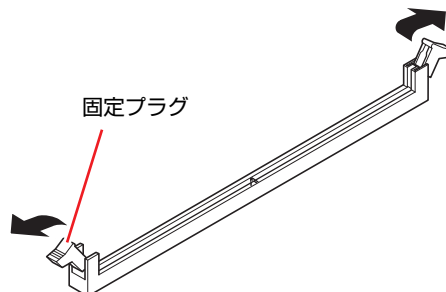
▶メモリの取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.122 「作業時の注意」を必ずお読みください。
作業は、本機を横置きにして行ってください。

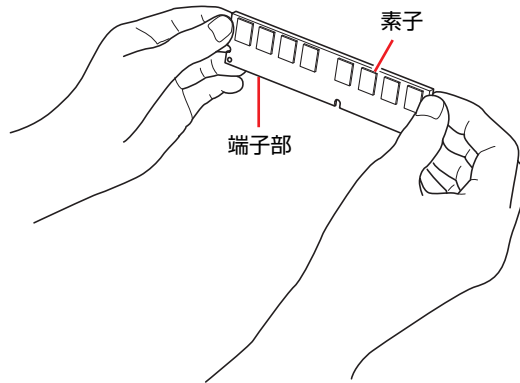
取り付け

メモリの取り付け方法は次のとおりです。

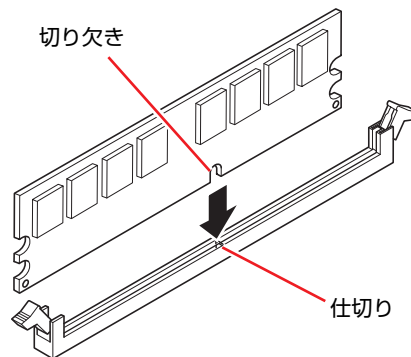
- 1** コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.123 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** 拡張ボードを装着している場合は、リンクバーを取り外します。
 p.132 「拡張ボードの取り付け・取り外し」－「取り付け」手順4
- 5** メモリスロットの固定プラグを開きます。



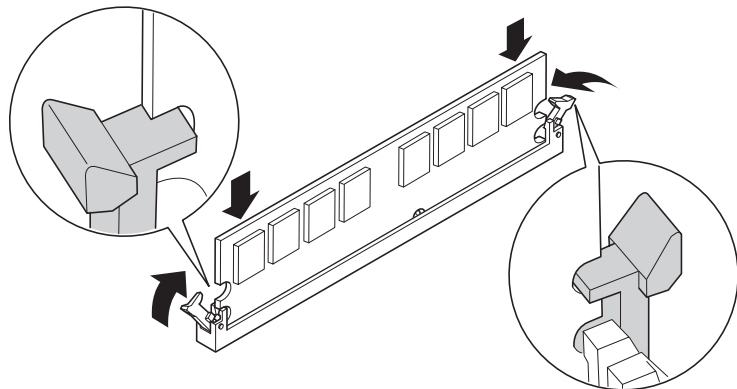
- 6** メモリを静電防止袋から取り出します。
メモリの端子部や素子に触れないように注意します。






- 7** メモリスロットにメモリを差し込みます。
(1) メモリの切り欠きをメモリスロット内の仕切りに合わせます。




- (2) メモリを押し込むと、カチッと音がして自動的に固定プラグが閉じ、メモリが固定されます。
メモリが固定されたことを必ず確認してください。

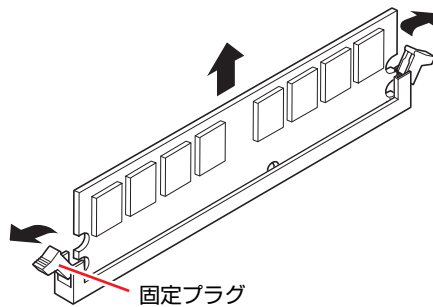


- 8 手順4でリンクバーを外した場合は、もとどおりに装着します。
 p.132 「拡張ボードの取り付け・取り外し」－「取り付け」手順8
- 9 本体カバーを取り付けます。
 p.123 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 10 コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。
- 11 コンピュータの電源を入れて、メモリの容量を確認します。
 p.130 「メモリの増設・交換後の作業」

取り外し

メモリの取り外しは、 p.127 「取り付け」の手順5～7を次の手順に読み替えて行ってください。

- 1 メモリの両端を固定している固定プラグを開きます。




- 2 メモリが外れたら静かに取り外します。
静電気防止袋に入れて保管してください。
- 3 固定プラグを閉じておきます。

▶メモリの増設・交換後の作業

メモリの増設・交換をしたら、メモリが正しく取り付けられているかどうか、必ずメモリ容量を確認します。


メモリ容量の確認方法は次のとおりです。

- 1 コンピュータの電源を入れたら、**Delete** を押して「BIOS Setupユーティリティ」を実行します。

 p.140 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 2 「Main」メニュー画面－「System Information」－「System Memory」－「Size」に表示されているメモリ容量を確認します。

- 3 **F10** を押してBIOS Setupユーティリティを終了します。

 p.143 「BIOS Setupユーティリティの終了」

手順2で総メモリ容量が正しく表示されない場合は、メモリが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、メモリを正しく取り付けなおしてください。



参考

メモリ容量の表示

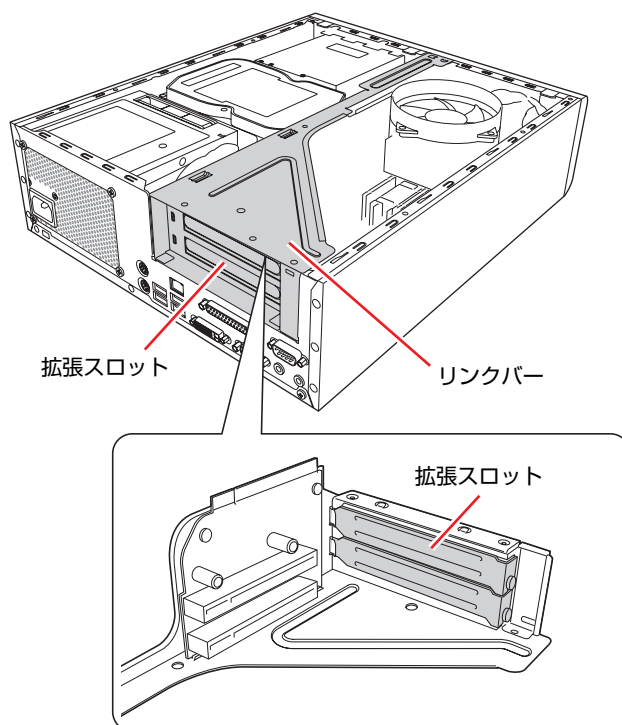
本機では、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。そのため、メモリ容量は、メインメモリからビデオメモリ（約8MB）を引いた値が表示されます。

拡張ボードの装着

拡張スロットの仕様と、拡張ボードの取り付け・取り外し方法について説明します。


▶ 拡張スロットの仕様

本機のリンクバーには拡張スロットが2つあります。各スロットの仕様は次のとおりです。



コネクタ仕様	装着可能な拡張ボードサイズ
PCI	ボード長：178mm×ボード幅：108mmまで

▶ 拡張ボードの取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.122 「作業時の注意」と拡張ボードに添付のマニュアルを必ずお読みください。


作業は、本機を横置きにして行います。

取り付け

拡張ボードの取り付け方法は次のとおりです。

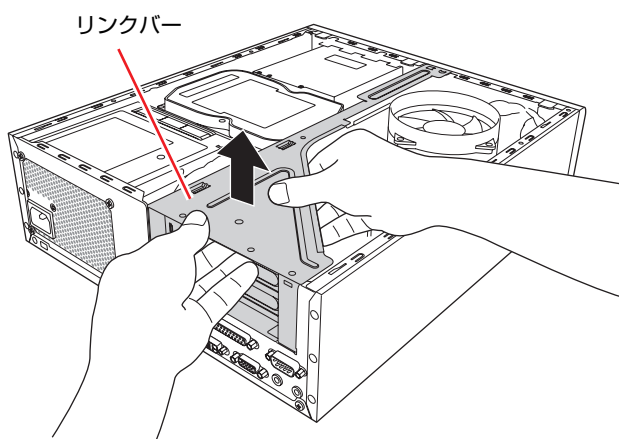
- 1** コンピュータ本体および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。

- 3** 本体カバーを取り外します。

 p.123 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り外し」

- 4** リンクバーを取り外します。

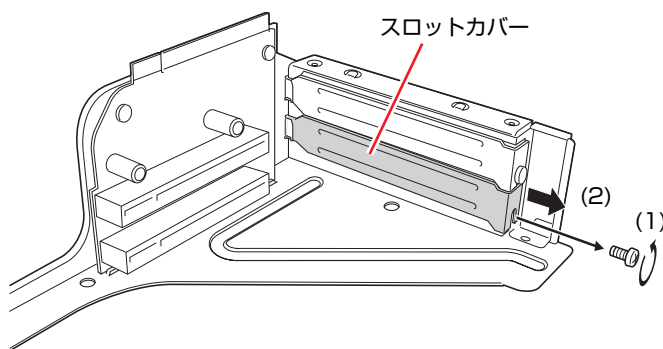
下図のとおりに手をかけて、リンクバーを持ち上げます。このとき、周辺の部品やケースの角など、とがった部分で手などを切らないよう注意してください。



5 リンクバーを裏返して置き、装着するスロットのロットカバーを外します。

(1) スロットカバーを固定しているネジを外します。

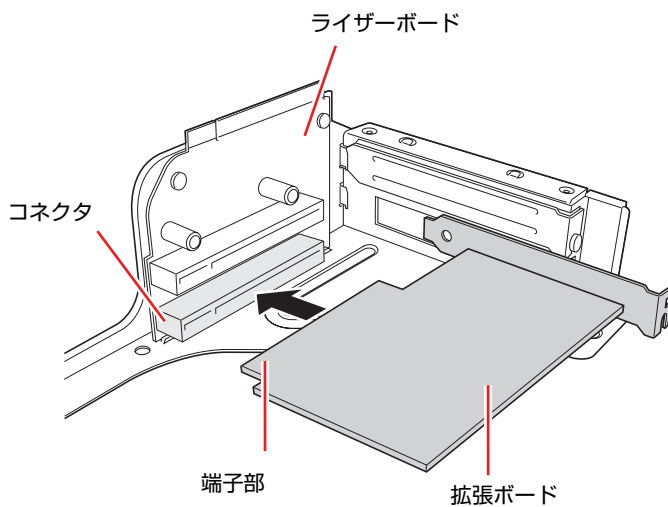
(2) スロットカバーを矢印の方向に引き抜きます。



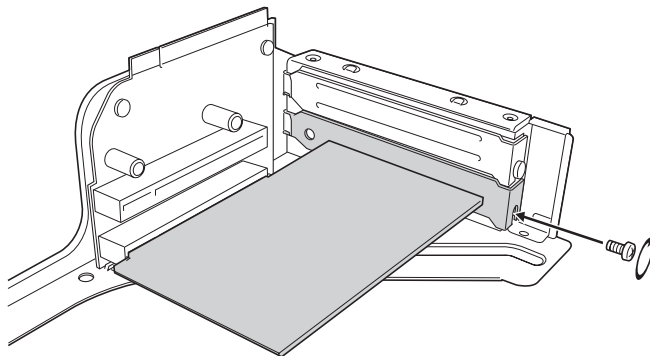
外したスロットカバーは、大切に保管してください。拡張ボードを外したあと、別の拡張ボードを装着しない場合は、本体内部にホコリなどが入らないように、再びスロットカバーを装着します。

6 拡張ボードを拡張スロットに差し込みます。

拡張ボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認し、ライザーボードを手で軽く押さえながら拡張ボードをゆっくり押し込みます。

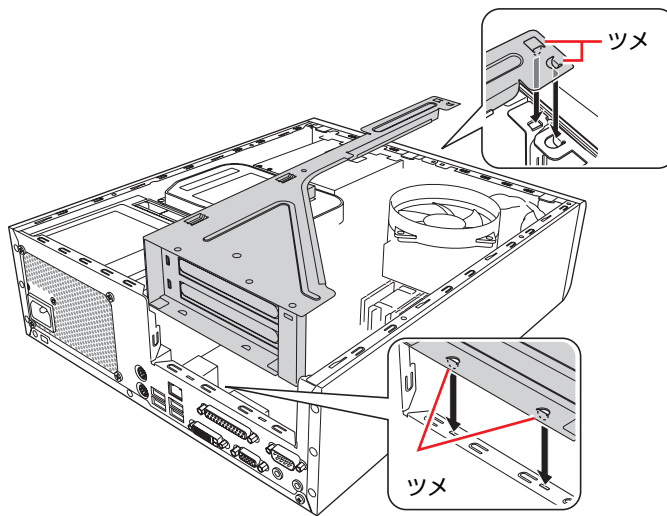


7 拡張ボードをネジで固定します。

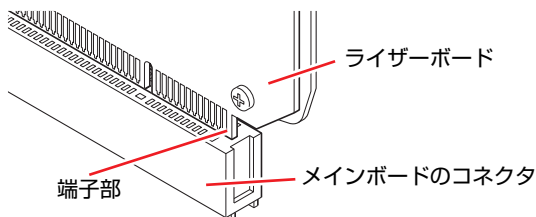


8 リンクバーを元の位置に取り付けます。

- (1) 下図のとおりリンクバーと本体の位置を合わせます。
- (2) リンクバーのツメ（細い方に2箇所、太い方に2箇所）をそれぞれ本体側の穴に合わせます。



- (3) ライザーボードの端子部分が、メインボードのコネクタの位置にあるか確認します。



- (4) カチッと音がするまでリンクバーを押し込みます。

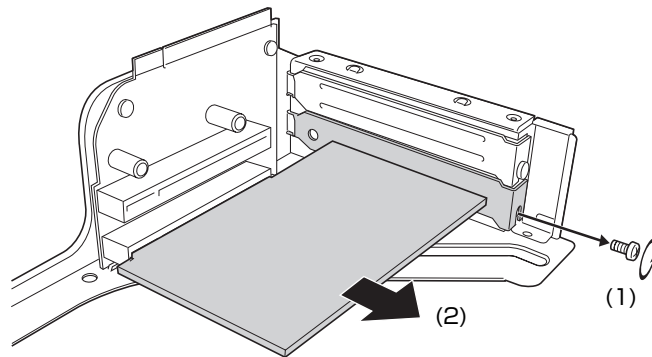
- 9** 本体カバーを取り付けます。
👉 p.123 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り付け」
- 10** コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

続いて、👉 p.135 「拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業」を行います。

取り外し

拡張ボードの取り外しは、👉 p.132 「取り付け」の手順5～7を次の手順に読み替えて行ってください。

- 1** リンクバーを裏返して置き、拡張ボードを取り外します。
(1) 拡張ボードを固定しているネジを外します。
(2) 拡張ボードを引き抜きます。



- 2** 拡張ボードを取り外したスロットに別の拡張ボードを装着しないときは、スロットカバーを取り付けておきます。

▶ 拡張ボードの取り付け・取り外し後の作業

拡張ボードによっては、取り付け・取り外しのあとに作業が必要な場合があります。詳しくはボードに添付のマニュアルをご覧ください。

第4章 BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

「BIOSの設定を始める前に」	138
「BIOS Setupユーティリティの操作」	139
「BIOS Setupユーティリティの設定項目」	150

BIOSの設定を始める前に



制限

当社製以外の BIOS を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- メインボード上の機能を有効/無効にする場合


BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。

BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。

参考



リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。本機の使用状況によって異なりますが、本機のリチウム電池の寿命は約3年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

 p.236 「リチウム電池の交換」

動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す。
万一に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。
 p.150 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」
- 初期値や、前回保存した設定値に戻す。
 p.144 「設定値を元に戻す」

BIOS Setupユーティリティの操作

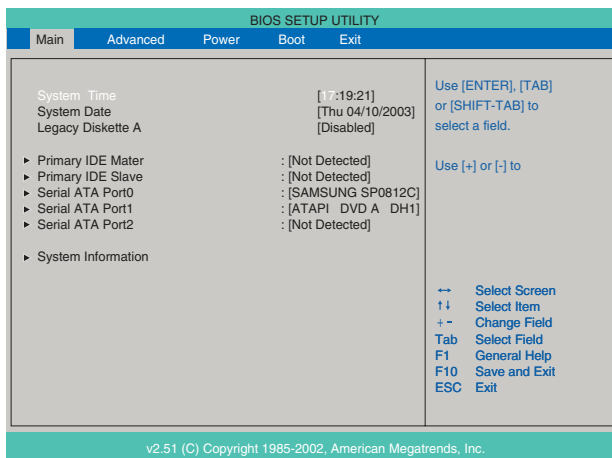
ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値を元に戻す
- パスワードを設定する
- HDDアクセス制限
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

▶ BIOS Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの **[Delete]** の位置を確認してください。
手順2ではすばやく **[Delete]** を押す必要があります。

- 1 本機の電源を入れます。**
すでにWindowsが起動している場合は再起動します。
- 2 本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの **[Delete]** を押します。**
Windowsが起動してしまった場合は、再起動して手順2をもう1度実行してください。
- 3 「BIOS Setupユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。**




<BIOS Setupユーティリティ画面（イメージ）>

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合は、本機の電源を入れたときに、次のメッセージが表示されることがあります。

CMOS Checksum BadまたはCMOS Setting Wrong
Press F1 to run SETUP

このメッセージが表示されたら **[F1]** を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常は、そのまま「Exit & Save Changes」を実行してBIOS Setupユーティリティを終了します。

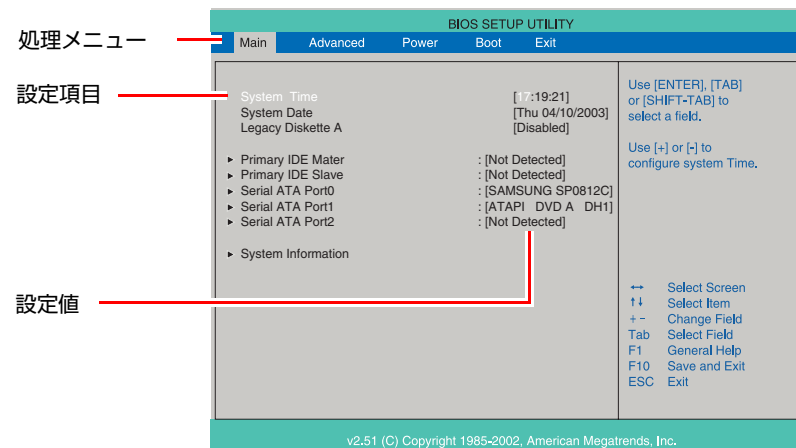
 p.143 「BIOS Setupユーティリティの終了」

▶ BIOS Setupユーティリティの操作


「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

画面の構成

BIOS Setupユーティリティを起動すると次の画面が表示されます。
この画面で設定値を変更することができます。



<メニュー画面>

ここで説明している画面は、イメージです。実際の設定項目とは異なります。各メニュー画面と設定項目の説明は、 p.150 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

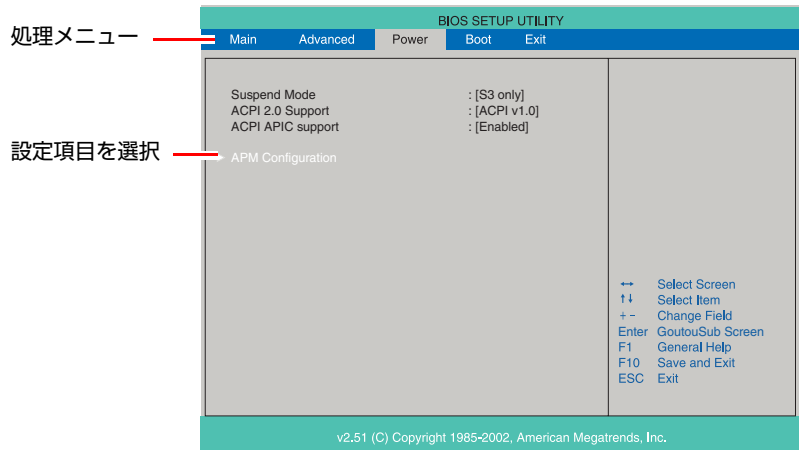
操作方法

BIOS Setupユーティリティの操作方法是次のとおりです。

- 1 処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

→ ← でメニュー間を移動します。

↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。

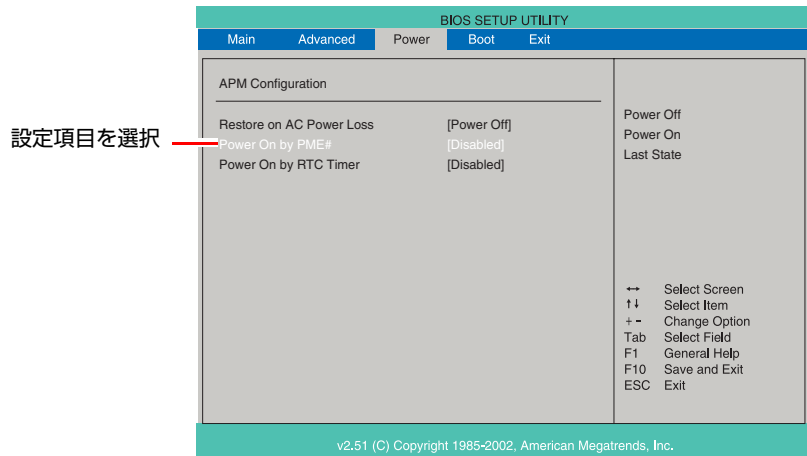


<メニュー画面>

<▶のある項目の場合>

▶のある項目の場合、↵を押すとサブメニュー画面が表示されます。

↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。

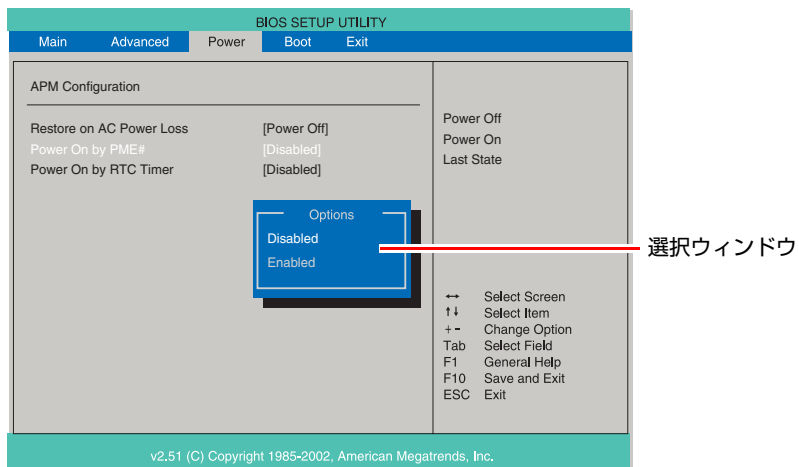


<サブメニュー画面>

サブメニュー画面から戻するには **Esc** を押します。

2 設定値を変更します。

◀ を押して選択ウィンドウを表示し、↑ ↓ で値を選択し ◀ で決定します。



キー操作

BIOSの画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
Esc	<ul style="list-style-type: none"> ● 変更した内容を破棄し、終了します。 ● サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
↑, ↓	設定を変更する項目を選択します。
←, →	処理メニューを選択します。
-, +	項目の値を変更します。
◀	<ul style="list-style-type: none"> ● メニュー画面中の▶のある項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ● 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ● 設定値を選択します。
F5	全設定項目の値を、初期値に変更します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。

▶ BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setupユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

Exit & Save Changes (変更した内容を保存し終了する)

変更した設定値を保存して、BIOS Setupユーティリティを終了します。

- 1 **F10** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit now?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 [OK] を選択し、**↵** を押します。

Exit & Discard Changes (変更した内容を破棄し終了する)

変更した設定値を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。

- 1 **Esc** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard configuration changes and exit now?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 [OK] を選択し、**↵** を押します。

▶設定値を元に戻す

「BIOS Setupユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一、本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Setup Defaults（初期値に戻す）

BIOS Setupユーティリティの設定を初期値に戻す方法は、次のとおりです。

- 1 **F5** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Load Setup Defaults ?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 **[Ok]** を選択して、**↵** を押します。

Load Setup Defaults実行後の作業

次の場合は、Load Setup Defaultsを実行したあとに、BIOSの設定値を設定しなおしてください。

<セキュリティチップのセキュリティ機能をお使いの場合>

「Boot」メニュー画面－「Security」－「Trusted Computing」－「Execute TPM Command」を「Enabled」に設定します。

メインボード上のセキュリティチップの機能を有効にします。


<FDDを搭載していないモデルをお使いの場合>

コンピュータを正常に起動させるため、次の設定を行います。

「Main」メニュー画面－「Legacy Diskette A」を「Disabled」に設定します。

「Disabled」に設定しないと、コンピュータが正常に起動しません。

設定を行ったら、変更した内容を保存して終了します。

 p.143 「Exit & Save Changes（変更した内容を保存し終了する）」

Discard Changes（前回保存した設定値に戻す）

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

- 1 「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard Changes ?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 **[Ok]** を選択して、**↵** を押します。

▶パスワードを設定する

「Boot」メニューの「Security」画面でBIOSのパスワードを設定すると、BIOSやWindowsの起動時にパスワードを要求されるようになります。

パスワードの設定は、次のような場合に行います。

- 本機を使用するユーザーを制限したいとき
- パスワードを設定しないと使用できない機能を使いたいとき
(HDDアクセス制限など)

パスワードの種類

パスワードには次の2種類があります。


- Supervisor Password (管理者パスワード)
コンピュータの管理者用のパスワードです。管理者パスワードでBIOSにログオンした場合は、すべての項目の閲覧と変更が可能です。
- User Password (ユーザーパスワード)
一般ユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードでBIOSにログオンした場合は、項目の閲覧や変更が制限されます(権限は、設定変更することができません)。




p.146 「ユーザーパスワードの権限設定」

パスワードの設定方法

パスワードの設定方法は、次のとおりです。


- 1 「Change Supervisor Password」または「Change User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:


- 2 パスワードを入力し、 を押します。


「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。パスワードとして使用できるのは英数字だけです。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。

パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

- 3** 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、を押します。

Confirm Password:

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not match !」というメッセージが表示されます。[Ok] が選択された状態で  を押し、BIOSのメニュー画面に戻ります。この場合、手順1からやりなおしてください。

- 4** 「Password installed.」というメッセージが表示されたら、[Ok] が選択された状態で  を押します。

パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。




設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOSの設定変更や、設定によってはWindowsの起動ができなくなります。万一、パスワードを忘れた場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

続いて、「ユーザーパスワードの権限」や、「どこでパスワードを要求するか」を決めて設定します。


ユーザーパスワードの権限設定

ユーザーパスワードを設定した場合は、ユーザーパスワードでBIOSにログオンしたときの権限（項目の閲覧や変更に関する制限）を設定します。管理者パスワードが設定されていないと権限変更はできません。権限を変更するときは、あらかじめ管理者パスワードを設定しておいてください。

 p.156 「Bootメニュー画面」－「Security」－「User Access Level」


パスワード入力タイミングの設定

BIOS Setupユーティリティ起動時や、Windows起動時など、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。


 p.156 「Bootメニュー画面」－「Security」－「Password Check」

管理者パスワードの削除方法


管理者パスワードの削除方法は、次のとおりです。管理者パスワードを削除する場合は、管理者パスワードでBIOSにログオンしてください。

- 1 「Change Supervisor Password」を選択して、を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:


- 2 何も入力せずに を押すと、次のメッセージが表示されます。

Password uninstalled.
[Ok]


- 3 「Ok」が選択された状態で を押します。
「Supervisor Password」の表示が「Not Installed」に変わります。
これで管理者パスワードが削除されました。

ユーザーパスワードの削除方法

ユーザーパスワードの削除方法は、次のとおりです。

- 1 「Clear User Password」を選択して、を押すと、次の画面が表示されます。

Clear User Password ?
[Ok] [Cancel]

- 2 [Ok] を選択して、を押します。
「User Password」項目の表示が「Not Installed」に変わります。
これでユーザーパスワードが削除されました。

▶HDDアクセス制限

HDDアクセス制限の設定をすると、次の状態になります。


- BIOS や Windows 起動時、休止状態からの復帰時に管理者パスワードを要求されるようになる
- HDDをほかのコンピュータに接続した場合、認識されないようになる

HDDへの無断アクセスや、万が一HDDが盗難された場合の情報流出を防ぎたいときは、HDDアクセス制限の設定をします。


HDDアクセス制限の設定方法

HDDアクセス制限の設定方法は次のとおりです。

1 管理者パスワードを設定します。

 p.145 「パスワードの設定方法」

2 HDDアクセス制限の設定をします。

 p.156 「Bootメニュー画面」－「Security」－「Hard Disk Protection」



パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定した HDD は使用できなくなります。
登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。

▶起動 (Boot) デバイスの順番を変更する

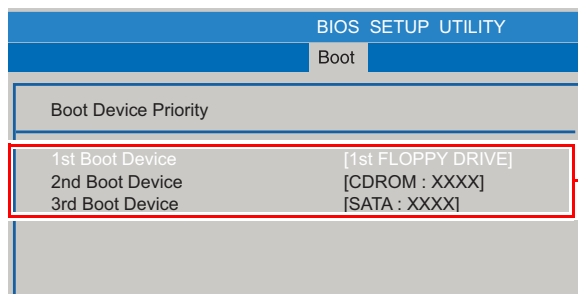
本機の電源を入れて起動しようとしたときに、リムーバブルディスク (USBフラッシュメモリなど) を接続していたり、FDやメモリカードがセットされていると、Windowsが起動しないことがあります。

このような場合、「BIOS Setupユーティリティ」で設定されている起動 (Boot) デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

起動 (Boot) デバイスの順番とは

電源を入れると、コンピュータは起動デバイスの順番に従ってデバイスを確認し、最初に見つけたシステム (WindowsやOS) から起動します。

起動デバイスの順番の設定は、「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で行います。



この順番に
デバイスを
検出して
起動します。

<イメージ>








「Boot Device Priority」に表示されるデバイスは次のとおりです。表示されるデバイスは、システム構成によって異なります。

- 1st FLOPPY DRIVE (FDD)
- USB:XXXX (マルチカードリーダー、USB FDDやUSBフラッシュメモリなどの型番)
- SATA:XXXX (接続されているHDDの型番)
- CDROM:XXXX (接続されている光ディスクドライブの型番)
- Network:XXXX (ネットワーク)
- Disabled (検出するデバイスを割り当てないときに設定します)

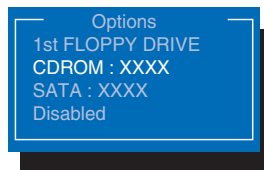
購入時は、FDD、マルチカードリーダーやリムーバブルディスクの順番がHDDより前に設定されているため、USB機器などのリムーバブルディスクを接続しているとHDD内のWindowsから起動できません。

起動 (Boot) デバイスの順番の変更方法

起動デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここではリムーバブルディスクを接続した状態でWindowsを起動できるように、1番目に起動するドライブを光ディスクドライブ、2番目に起動するドライブをHDDに設定する方法を説明します。

- 1 「Boot」メニュー画面で「Boot Device Priority」を選択して  を押します。
- 2 サブメニュー画面が表示されたら、現在の起動の順番を確認します。
- 3 光ディスクドライブの順番を1番目に設定します。
 - (1)   で「1st Boot Device」(1番目)を選択し、 を押します。
 - (2) 「選択」ウィンドウが表示されたら、  で「CDROM:XXXX」を選択し、 を押します。

光ディスクドライブの順番が1番目になります。



<選択ウィンドウ画面>

- 4 同様の方法で、HDDの順番を2番目に設定します。
「2nd Boot Device」(2番目)を「SATA:XXXX」に設定します。
- 5  を押してBIOS Setupユーティリティを終了します。
 p.143 「BIOS Setupユーティリティの終了」
これで、起動デバイスの変更は完了です。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

ここでは、「BIOS Setupユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面
日付、時間、HDDなどの設定を行います。
- Advancedメニュー画面
CPUに関する設定、メインボード上の機能やデバイスの設定などを行います。
- Power メニュー画面
省電力機能や起動に関する設定を行います。
- Bootメニュー画面
システムを起動するドライブの設定や本機の動作状態の設定などを行います。
- Exitメニュー画面
BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻したりします。

▶Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間、HDDなどの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

System Time (hh:mm:ss) 時間の設定	時刻を設定します。(時間：分：秒)の順で表示されます。
System Date (mm:dd:yy) 日付の設定	日付を設定します。(曜日 月/日/年)の順で表示されます。
Legacy Diskette A (FDDの設定)	接続しているFDDのタイプを選択します。BIOSの設定値を初期値に戻すと、「1.44M, 3.5 in.」に設定されます。FDDを搭載していないモデルをお使いの場合は、設定値を「Disabled」に変更してください。 Disabled : 3.5型FDD未搭載の場合 (またはUSB FDDをお使いの場合) 1.44M, 3.5 in. : 3.5型FDD (オプション) 搭載の場合

Primary IDE Master Primary IDE Slave Serial ATA Port0 Serial ATA Port1 Serial ATA Port2 各ドライブの仕様を設定します。 ※表示される詳細項目は、選択するHDDや光ディスクドライブにより異なります。	* Device	ドライブの名称を表示します。
	* Vendor	ドライブの型番を表示します。
	* Size	HDDの容量を表示します。
	* LBA Mode	LBA (Logical Block Addressing) をサポートしているかどうかを表示します。
	* Block Mode	一度に何セクタ転送できるかを表示します。
	* PIO Mode	ドライブの転送モードを表示します。
	* Async DMA	ドライブのDMA 転送モードとチャンネルを表示します。
	* Ultra DMA	ドライブの転送モードとチャンネルを表示します。
	* SMART Monitoring	S.M.A.R.T (Self Monitoring Analysis and Reporting Technology) をサポートしているかどうかを表示します。
	Type	ドライブの仕様を設定します。初期値 [Auto] のまま使用します。 <u>Auto</u> : BIOSが自動的にドライブの仕様を設定します。
	LBA / Large Mode	LBA (Logical Block Addressing) を使用するかどうかを表示します。 Disabled: 使用しません。 <u>Auto</u> : LBAを使用します。
	Block (Multi-Sector Transfer) M	一度に何セクタ転送できるかを表示します。 Disabled: 使用しません。 <u>Auto</u> : BIOSが自動的に最適な速度に設定します。
	PIO Mode	ドライブの転送モード (PIO) を設定します。 <u>Auto</u> : BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 0/1/2/3/4: 転送モードを設定します。
	DMA Mode	ドライブのDMA転送モードを設定します。 <u>Auto</u> : BIOSが自動的に最適な転送モードを設定します。 SWDMA0/SWDMA1/SWDMA2/MWDMA0/MWDMA1/MWDMA2/UDMA0/UDMA1/UDMA2/UDMA3/UDMA4/UDMA5/
SMART Monitoring	初期値 [Disabled] のまま使用します。	
32Bit Data Transfer	初期値 [Disabled] のまま使用します。	
System Information 本機の仕様を表示します。	AMI BIOS	BIOSの情報を表示します。
	* Version	BIOS のバージョンを表示します。
	* Build Date	BIOS のバージョンの制定日を表示します。
	Processor	CPUの情報を表示します。
	* Brand String	CPUのタイプを表示します。
	* Speed	CPUの周波数を表示します。
	* Count	CPUコアの数を表示します。
	System Memory	本機に搭載されているメモリ容量の情報を表示します。
	* Size	本機で使用可能なメモリ容量を、起動時に自動的に計算して表示します。表示される容量は、搭載されたメモリ容量から、あらかじめビデオメモリ専用割り当てられている容量 (約8MB) を引いた値です。

▶Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、CPUに関する設定、メインボード上の機能やデバイスの設定などを行います。

設定項目は、次のとおりです。

____は初期値

*は項目表示のみ

CPU Configuration 本機に搭載されているCPUに関する情報を表示します。	* Manufacturer	メーカーを表示します。
	* Brand String	型番を表示します。
	* Frequency	周波数を表示します。
	* FSB Speed	バス・スピードを表示します。
	* Cache L1	CPUのL1キャッシュ容量を表示します。
	* Cache L2	CPUのL2キャッシュ容量を表示します。
	* Ratio Actual Value	ベースクロックに対する倍率を表示します。
	Virtualization Technology	Intel Virtualization Technology機能の設定をします。 Virtualization Technology機能をもつプロセッサが搭載されたモデルで表示します。 <u>Disabled</u> : 無効にします。 Enabled : 有効にします。

Onboard Devices Configuration メインボード上のデバイスに関する設定をします。	Serial Port2 Address	シリアルポートのアドレスとIRQ信号を設定します。 Disabled: シリアルポートを使用しません。 3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3
	Parallel Port Address	パラレルポートが使用するアドレスを設定します。 Disabled: パラレルポートを使用しません。 378, 278, 3BC
	Parallel Port Mode	パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。 Normal : 標準の設定です。 Bi-Directional: EPP+ECPモードまたは双方向モードに設定します。 ECP : ECPモードに設定します。 EPP : EPPモードに設定します。
	EPP Version	「Parallel Port Mode」で[EPP]を選択すると表示されます。 初期値 [1.9] のまま使用します。
	ECP Mode DMA Channel	「Parallel Port Mode」で[ECP]を選択すると表示されます。 初期値 [DMA3] のまま使用します。
	Parallel Port IRQ	パラレルポートが使用するIRQを設定します。 IRQ5, IRQ7
	HD Audio Azalia Device	メインボード上のサウンド機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled: 使用します。 Disabled: 使用しません。
	Onboard LAN	メインボード上のネットワーク機能を使用するかどうかを設定します。 Enabled: 使用します。 Disabled: 使用しません。
	Onboard LAN Boot ROM	リモートブート機能の有効/無効を設定します。 Disabled: リモートブート機能を無効にします。 Enabled: リモートブート機能を有効にします。
USB Configuration USBコントローラの設定をします。	* Module Version	BIOSに実装しているモジュールのバージョンを表示します。
	* USB Devices Enabled	接続されているUSB機器を表示します。
	USB Functions	初期値 [Enabled] のまま使用します。
	USB Mass Storage Device Configuration	外付けUSB機器を接続したり、オプションのマルチカードリーダーにメモ리카ードをセットしたりすると表示されます。各機器の型番を表示します。初期値のまま使用します。

▶Power メニュー画面

「Power」メニュー画面では、省電力機能や再起動に関する設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

___は初期値


*は項目表示のみ

Suspend Mode		スタンバイモードの設定をします。スタンバイが正常に動作しない場合は「S1 (POS) only」に設定してみてください。 S1 (POS) only : モニタなどの電源が切れます。電力消費は通常より若干抑えられる程度です。 S3 only : メモリ以外の電源を切ります。
ACPI 2.0 Support		初期値 [ACPI v1.0] のまま使用します。
ACPI APIC support		初期値 [Enabled] のまま使用します。
APM Configuration (起動方法の設定) 起動する方法や条件を設定します。	Restore on AC Power Loss	電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかどうかを設定します。 分電盤などによる複数のコンピュータの同時起動を行うと、コンピュータの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。 Power Off : 電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 Power On : 電源オフ時に、電源が供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。 Last State : コンピュータの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断された後に電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピュータが起動します。コンピュータを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピュータは起動しません。
	Power On by PME#	電源切断時、ネットワークからの信号により、起動するかどうかを設定します。この機能は、Windowsを正常に終了した状態でのみ使用可能です。この機能を有効にしている場合、電源コードを抜き再び接続するとコンピュータが一瞬起動することがあります。これは不具合ではありません。 Disabled : 設定しません。 Enabled : 設定します。

<p>APM Configuration (起動方法の設定)</p> <p>起動する方法や条件を設定します。</p>	<p>Power On by RTC Timer</p>	<p>セットした日時に、自動的に起動するかどうかを設定します。この機能を有効にしている場合、電源コードを抜き再び接続するとコンピュータが一瞬起動することがあります。これは不具合ではありません。 Disabled : 設定しません。 Enabled : 設定します。</p> <p>「Power On by RTC Timer」を「Enabled」にすると表示されます。 RTC Alarm Date (Days): 自動的に起動する日にちを設定します。「Every Day」(毎日)を設定することもできます。</p> <p>「Power On by RTC Timer」を「Enabled」にすると表示されます。 RTC Alarm Time : 自動的に起動する時間 (時 : 分 : 秒) を設定します。</p>
----------------------------------------------------------------	----------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

▶ Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）やセキュリティに関する設定を行います。


Bootの順番の変更方法については、 p.148 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」をご覧ください。

___は初期値

*は項目表示のみ

Boot Device Priority システムを起動するドライブの順番を設定します。  p.148 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」	1st Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。搭載、あるいは接続している機器によって、初期値は次のように表示されます。 1st FLOPPY DRIVE : FDD搭載時 USB機器の型番 : USB FDDなどの外付けUSB機器接続時
	2nd Boot Device	2番目に起動するドライブを設定します。初期値は光ディスクドライブで、搭載している光ディスクドライブの型番が表示されます。
	3rd Boot Device	3番目に起動するドライブを設定します。初期値はHDDで、搭載しているHDDの型番が表示されます。
	4th Boot Device ※リモートブート機能を有効にすると表示されます。	ネットワークから起動する場合に使用します。 （リモートブート機能を有効にするには、「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」の「Onboard LAN Boot ROM」を「Enabled」に設定し、再起動します。）
Hard Disk Drives	1st Drive 2nd Drive	HDDを2台装着した場合、HDDの型番を自動的に検出して表示します。初期値のまま使用します。
Removable Drives	1st Drive 2nd Drive	オプションのFDDや外付けの記憶装置（USB FDDなど）を接続したり、オプションのマルチカードリーダーにメモ리카ードをセットすると型番を自動的に検出して表示します。優先的に起動するデバイスを設定します。
CDROM Drives	1st Drive	搭載している光ディスクドライブの型番が表示されます。初期値のまま使用します。
Boot Settings Configuration システム起動時の設定をします。	Full Screen Logo	コンピュータの起動時に、EPSONロゴを表示するかどうかを設定します。 Disabled : ロゴを表示しません。 Enabled : ロゴを表示します。
	Bootup Num-Lock	起動時のNumLockの状態を設定します。 Off : NumLock が押されていない状態にします。 On : NumLock が押された状態にします。

Security システム起動時や「BIOS Setup ユーティリティ」起動時などのパスワードを設定します。	*Supervisor Password/User Password	Supervisor Password (管理者パスワード) と User Password (ユーザーパスワード) が設定されているかどうかを表示します。 Installed : パスワードが設定されています。 Not Installed : パスワードが設定されていません。
	Change Supervisor Password	管理者パスワードの設定や変更を行います。設定を行うと、「BIOS Setup ユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求されます。 [←] を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
	User Access Level ※管理者パスワードを設定すると表示されます。	「User Password」(ユーザーパスワード) で「BIOS Setup ユーティリティ」にアクセスするときのアクセス制限レベルを4段階で設定します。 No Access : ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setup ユーティリティ」を起動することができません。 View Only : ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setup ユーティリティ」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Limited : 「BIOS Setup ユーティリティ」を閲覧できるほかに、ユーザーパスワードなど一部の設定項目を変更できます。 Full Access : ユーザーパスワード使用者に管理者と同一の権利を許可します。「BIOS セットアップ ユーティリティ」のすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。ただし、管理者パスワードの変更はできません。
	Change User Password	ユーザーパスワードの設定や変更を行います。「BIOS Setup ユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。 [←] を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
	Clear User Password ※ユーザーパスワードを設定すると表示されます。	ユーザーパスワードを削除します。 [←] を押すと、ユーザーパスワードの削除ウィンドウが表示されます。
	Password Check ※管理者パスワードやユーザーパスワードを設定すると表示されます。	管理者パスワード、ユーザーパスワードを設定している場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup : 「BIOS Setup ユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。 Always : 「BIOS Setup ユーティリティ」起動時、システム起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。

Security システム起動時や「BIOS Setup ユーティリティ」起動時などのパスワードを設定します。	Trusted Computing	Execute TPM Command セキュリティチップ (TPM) を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
		Clearing the TPM 「Execute TPM Command」を「Enabled」にして保存、終了すると次のBIOS起動時に表示されます。 セキュリティチップに保存されている情報を初期化します。 * 初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用できなくなります。また、Windows VistaのHDD暗号化機能「BitLocker」を使用している状態で初期化を行うと、Windowsが起動できなくなり、暗号化しているHDD内のデータも使用できなくなります。セキュリティチップの初期化を行う場合は、お客様の責任において十分に注意して行ってください。 初期化する場合は、  を押し、確認画面が表示されたら [Ok] を選択します。情報が初期化され、コンピュータが再起動します。再起動後、「Execute TPM Command」は「Disabled」に設定されます。
	Hard Disk Protection HDDへのアクセス制限の有効/無効を設定します。アクセス制限を有効に設定したHDDは、ほかのコンピュータに接続しても認識されなくなります。 有効に設定すると、BIOS、システムへのアクセスが制限され、BIOS起動時とシステム起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力を要求します。 Disabled : HDDへのアクセスを制限しません。 Enabled : HDDへのアクセスを制限します。	
※管理者パスワードを設定すると設定可能になります。		

▶Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。設定項目は、次のとおりです。

Exit & Save Changes	変更した内容 (設定値) を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit & Discard Changes	変更した内容 (設定値) を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。

▶ BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくると便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Advanced メニュー画面

項 目		購入時の設定			変更内容		
Onboard Devices Configuration	Serial Port2 Address	Disabled	3F8/IRQ4	2F8/IRQ3	Disabled	3F8/IRQ4	2F8/IRQ3
			3E8/IRQ4	2E8/IRQ3		3E8/IRQ4	2E8/IRQ3
	Parallel Port Address	Disabled			Disabled		
		378	278	3BC	378	278	3BC
	Parallel Port Mode	Normal ECP	Bi-Directional EPP		Normal ECP	Bi-Directional EPP	
	Parallel Port IRQ	IRQ5		IRQ7	IRQ5		IRQ7
	HD Audio Azalia Device	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
Onboard LAN	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled		
Onboard LAN Boot ROM	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled		

Power メニュー画面

項 目		購入時の設定			変更内容		
Suspend Mode		S1 (POS) only		S3 only	S1 (POS) only		S3 only
APM Config- uration	Restore on AC Power Loss	Power Off	Power On	Last State	Power Off	Power On	Last State
	Power On by PME#	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
	Power On by RTC Timer	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	

Boot メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容		
Boot Device Priority	1st Boot Device	Disabled	()	Disabled	()	
	2nd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()	
	3rd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()	
	4th Boot Device	Disabled	()	Disabled	()	
Boot Settings Configuration	Full Screen Logo	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled	
	Bootup Num-Lock	Off	On	Off	On	
Security	Supervisor password	Installed	Not Installed	Installed	Not Installed	
	User password	Installed	Not Installed	Installed	Not Installed	
	User Access Level *1	No Access Limited	View Only Full Access	No Access Limited	View Only Full Access	
	Password Check *2	Setup	Always	Setup	Always	
	Trusted Computing	Execute TPM Command	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Hard Disk Protection *1		Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

*1 管理者パスワードを設定すると表示されます。

*2 管理者パスワードまたはユーザーパスワードを設定すると表示されます。

第5章 ソフトウェアの 再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

「再インストールする前に必ずお読みください」	162
「ソフトウェアの再インストールを行う」	164

再インストールする前に必ずお読みください

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。

HDDをフォーマットして、Windowsや本体ドライバなどをインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。

再インストールは「リカバリ」とも言います。

▶再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなり、修復できない場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

▶重要事項


再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外のBIOSへのアップデート禁止

当社製以外のBIOSへのアップデートは絶対にしないでください。当社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

セキュリティソフトウェアの更新サービス

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」で、90日経過後に更新サービスの延長キーを購入して更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新サービスの延長が無効になります。更新サービスの延長が無効になってしまった場合は、シマンテックストアまでお問い合わせください。

 『セキュリティソフトウェアをご使用前の前に』（別冊）

Webフィルタリングソフトウェアの継続利用

本機に添付のWebフィルタリングソフトウェア「i-フィルター 30日版」で継続利用手続きを行っている場合、Windowsを再インストールすると利用期限が30日に設定されてしまいます。

この場合は、デジタルアーツ社のホームページから最新版を入手し、契約済みのシリアルIDを利用してインストールを行ってください。

詳細は、デジタルアーツ社にお問い合わせください。

http://www.daj.jp/cs/ifpe/sup_dl.htm

消去禁止領域

Windowsのインストール中に、「消去禁止領域」は絶対に削除しないでください。消去禁止領域には、本体ドライバやソフトウェアなどが収録されているため、削除すると再インストールができなくなります。

最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業をすすめてください。

ソフトウェアの再インストールを行う


ここでは、ソフトウェアの再インストール方法について記載しています。

▶必要なメディア

再インストールには、次のメディアが必要です。

- Windows XPリカバリCD
Windows XPが収録されているCD-ROMです。
- リカバリツールCD
本体ドライバやソフトウェアを、HDDの「消去禁止領域」からインストールするためのプログラムが収録されているCD-ROMです。
- そのほか必要なメディア
お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

本体ドライバやソフトウェアはHDDの消去禁止領域に収録されています。
専用のメディアは添付されていません。

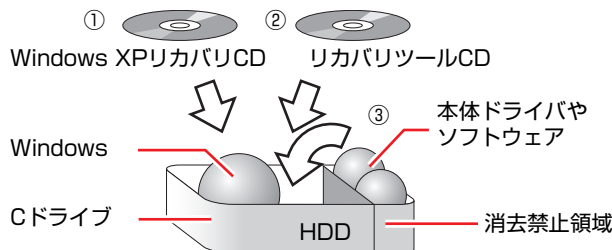
 p.22 「添付されているソフトウェア」

光ディスクドライブを装着していないモデルをお使いの場合

光ディスクドライブを装着していないモデルで、ソフトウェアの再インストールを行う際は、外付けの光ディスクドライブが必要です。

▶再インストールの概要

ソフトウェアの再インストールの概要は、次のとおりです。



- ① Windows XPリカバリCDから、Windowsをインストールします。
- ② リカバリツールCDから、リカバリツールをインストールします。
HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアのインストールは、リカバリツールを使用して行います。
- ③ リカバリツールを使用して、本体ドライバやソフトウェアをインストールします。

消去禁止領域

「消去禁止領域」は、Windows上では表示されませんが、Windowsのインストール中には表示されます。消去禁止領域を削除してしまうと、本体ドライバやソフトウェアのインストールができなくなりますので、絶対に削除しないでください。


「消去禁止領域」のデータは、CDにバックアップすることもできます。

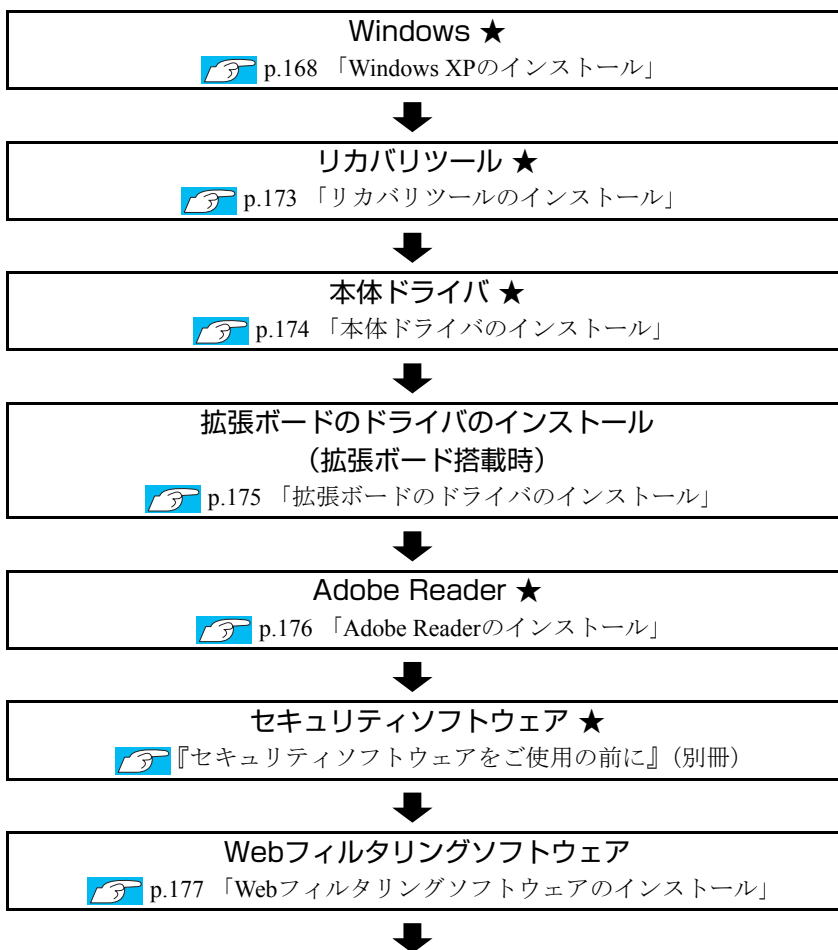
 p.223 「バックアップCDの作成方法」

▶インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。

★印が付いているソフトウェアは必ずインストールを行ってください。

購入時のインストール状態は、 p.22 「添付されているソフトウェア」で確認してください。





▶インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点を確認してください。

コンピュータの管理者 (Administrator) 権限でログオン

インストール作業は、「コンピュータの管理者」権限（または同等の権限を持つユーザーアカウント）でログオンして行ってください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

HDDのファイルシステム

購入時のHDDは、NTFSファイルシステムを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしています。Windowsのインストールでパーティションをフォーマットする際は、必ずNTFSファイルシステムを使用してください。


ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。実際の光ディスクドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ : FDD (オプション)
Cドライブ : HDD
Dドライブ : 光ディスクドライブ

各種設定やデータのバックアップ

再インストールを行うと、設定した事項が初期値に戻ってしまったり、データが消えてしまったりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。


 p.169 「バックアップを取る」

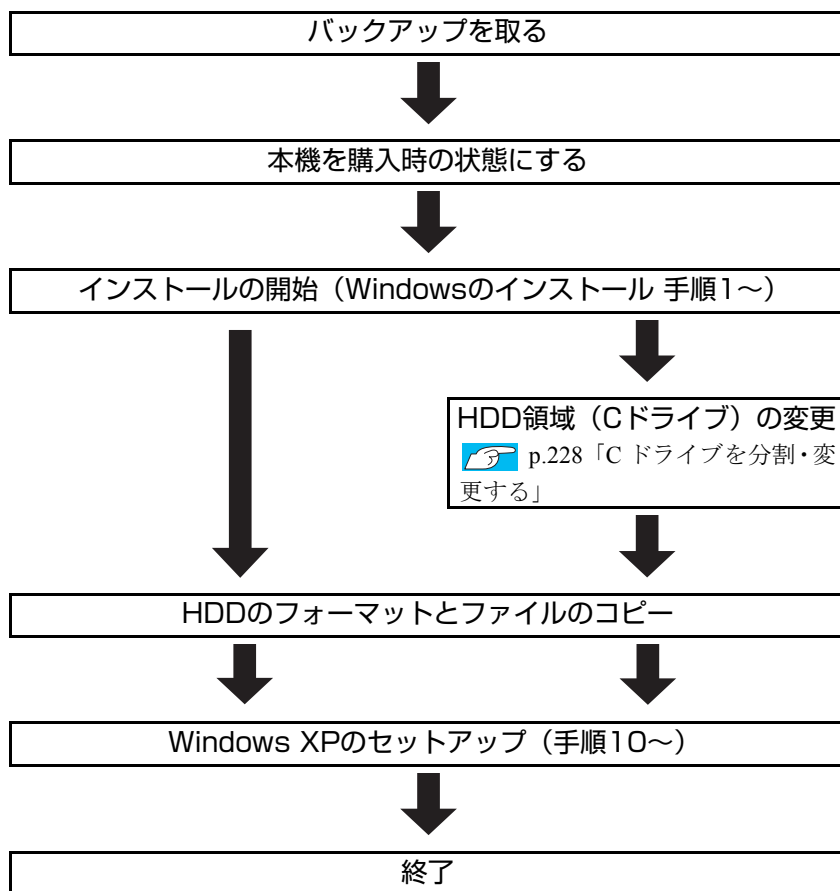
初期設定ツール

初期設定ツールは、Windowsを再インストールすると消去されます。初期設定ツールでインストールした「セキュリティソフトウェア」などのソフトウェアは、以降で説明する手順に従ってインストールを行ってください。

▶Windows XPのインストール


インストールの流れ

Windows XPのインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は、 p.169 「Windows XPをインストールする」以降の手順に従って行ってください。



HDD領域 (Cドライブ) を変更するには

Windowsのインストール中にCドライブ (Windowsがインストールされている領域) のサイズを変更したり、分割したりすることができます。

HDD領域の変更や、分割の詳細な説明は、 p.227 「HDD領域 (ドライブ) の分割・変更・作成」をご覧ください。

▶Windows XPをインストールする


バックアップを取る

次の設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消えてしまいます。必要に応じてバックアップを行ってください。

- **モデムやネットワークの設定**

接続に関する設定を書き写しておいてください。


- **Internet Explorerの「お気に入り」、Outlook Expressの「アドレス帳」「メールデータ」**

 p.221 「データのバックアップ」

このほかのWeb閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

- **セキュリティチップユーティリティの設定**


セキュリティチップユーティリティを使用している場合は、設定のバックアップを行ってください。

 『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）－「Windowsを再インストールする前に」

- **重要なデータ**

ほかのメディアなどにコピーしておいてください。

HDD領域の変更を行わない場合でも、Cドライブ以外のドライブ（HDD領域）のデータをバックアップすることをおすすめします。

 p.221 「データのバックアップ」

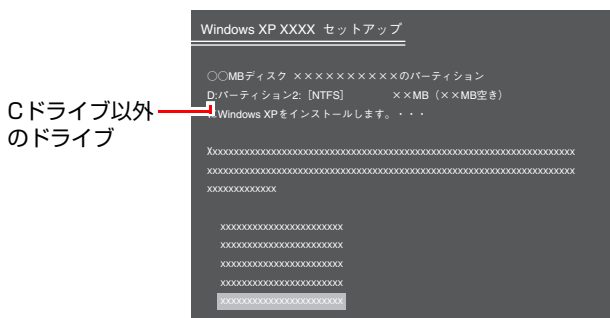
コンピュータを購入時の状態にする

周辺機器が接続されていたり、BIOSの設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。本機を購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

Windows XPのインストール

Windows XPのインストール方法は、次のとおりです。


- 1** Windowsが起動した状態で、「Windows XP リカバリ CD」を光ディスクドライブにセットします。
「実行する操作の選択」画面が表示されたら、画面左下の「終了」をクリックし、画面を閉じてください。ここからはインストールを行いません。
- 2** 「スタート」－「終了オプション」－「再起動」をクリックして、コンピュータを再起動します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。
一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。Windowsが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。
手順4の画面が表示されるまでしばらく時間がかかります。
- 4** HDDの領域が複数ある場合は、次の画面が表示されます。この場合は、必ず **Esc** を押します。
HDD領域が1つ（Cドライブのみ）の場合、この画面は表示されません。
手順5へ進みます。




上の画面では必ず **Esc** を押して、CドライブにWindowsをインストールしてください。**Enter** を押してしまうと、Cドライブ以外のドライブにWindowsがインストールされるため、そのドライブに収録されているデータはすべて消えてしまいます。ご注意ください。

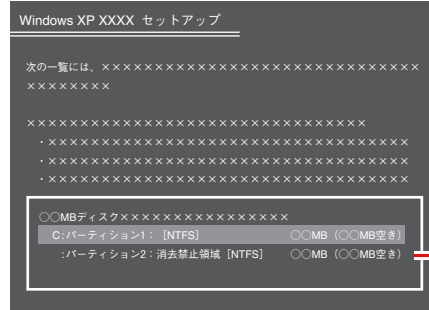
- 5** 「次の一覧にはこのコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。・・・」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。

<領域変更を行う場合>

 p.230 「Cドライブを分割・変更する」の手順に従ってください。




<領域変更を行わない場合（通常）>


Cドライブが選択されていることを確認し、を押します。






「消去禁止領域」を、誤って削除しないでください。





画面下方に、HDD領域の一覧が表示されます。このうち、「消去禁止領域」は、本体ドライブやソフトウェアの再インストールに使用する領域です。絶対に削除しないでください。

- 6** HDDの領域が複数ある場合、「別のオペレーティングシステムのあるパーティションに…」と表示されたら、を押します。
HDDの領域が1つの場合は、上記は表示されませんので次の手順に進みます。
- 7** 「…にWindows XPをインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択し、を押します。
「現在のファイルシステムをそのまま使用（変更なし）」を選択すると、CドライブにWindowsが追加登録されてしまいます（Windowsが複数になります）ので注意してください。
- 8** 「警告：このドライブをフォーマットすると・・・」と表示されたら、を押します。
- 9** フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的にコンピュータが再起動します。
再起動してから「ライセンス契約」が表示されるまでに、少し時間がかかります。
- 10** 「ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するかしないかを設定し、[次へ]をクリックします。
「同意しない」を選択すると、Windows XPのインストールが中止されます。

- 11** 「ソフトウェアの個人用設定」と表示されたら、「名前」と「組織名」を入力し、[次へ] をクリックします。
「名前」は必ず入力してください。
- 12** 「コンピュータ名…」と表示されたら、必要な項目を入力し、[次へ] をクリックします。
 p.44 「セットアップ中に入力する項目」
- 13** 「日付と時刻の設定」と表示されたら、表示内容を確認し、[次へ] をクリックします。
本機設置場所の日付と時刻の設定を行います。
- 14** 「ワークグループまたはドメイン名」と表示されたら、必要な項目を入力し、[次へ] をクリックします。
購入時の構成によっては表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順へ進みます。

<ネットワークに接続する場合>
企業内LANや家庭内LANなどに接続するときは、「ワークグループ」または、「ドメイン名」を入力します。

<ネットワークに接続しない場合>
「このコンピュータはネットワーク上にはないか…」に任意の英数字（例：「WORKGROUP」など）を入力する必要があります。
- 15** 再起動後に「ディスプレイの設定」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。
- 16** 「モニタの設定」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。
- 17** 「Microsoft Windowsへようこそ」と表示されたら、画面右下の  (次へ) をクリックします。
- 18** 「コンピュータを保護してください」と表示されたら、自動更新を有効にするかどうかを選択し、画面右下の  (次へ) をクリックします。
インターネットに接続している環境の場合は、自動更新を有効にすることをおすすめします。
- 19** 「インターネットに接続する方法を指定してください。」と表示されたら、画面右下の  (省略) をクリックします。
購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順に進みます。

- 20** 「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」と表示されたら、「いいえ、今回はユーザー登録しません。」にチェックを付け、画面右下の (次へ) をクリックします。
購入時の構成によっては、表示されない場合があります。表示されない場合は、次の手順に進みます。
- 21** 「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、ユーザー名を入力し、画面右下の (次へ) をクリックします。
ユーザー名を少なくとも1つ入力してください。
- 22** 「設定が完了しました」と表示されたら、画面右下の (完了) をクリックします。
- 23** Windows XPのデスクトップ画面が表示されたら、「Windows XPリカバリCD」を取り出します。
これでWindows XPのインストールは完了です。
- 24** 手順5でHDD領域 (Cドライブ) を変更した場合は、「未使用の領域」に領域 (パーティション) の作成を行います。
領域 (パーティション) の作成は、ドライバやソフトウェアのインストールが完了してから行っても構いません。
 p.233 「HDD領域 (パーティション) の作成手順」

▶リカバリツールのインストール

リカバリツールは、HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアのインストールの際に使用します。
リカバリツールのインストールは、次の手順のとおりです。

- 1** 「リカバリツールCD」を光ディスクドライブにセットします。
正しくセットされると自動的に「リカバリツールセットアップへようこそ」画面が表示されます。
表示されない場合は、[スタート] - 「マイコンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2** 以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。
インストールが完了すると、デスクトップ上に次のアイコンが表示されます。
「リカバリツールCD」を光ディスクドライブから取り出してください。



▶本体ドライバのインストール

本機のメインボード上に搭載されているデバイスのドライバ類を、一括してインストールします。

本体ドライバのインストールでインストールするドライバ類は次のとおりです。

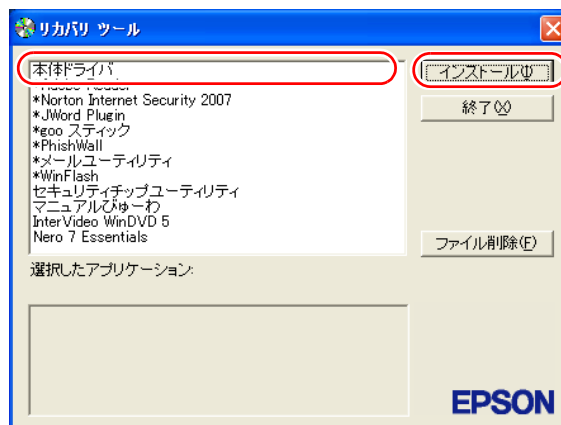
- チップセットドライバ
- ネットワークドライバ
- サウンドドライバ
- Windows Media Player 10
- マルチカードリーダードライバ
(マルチカードリーダー搭載時のみ)
- インフォメーションメニュー
- ビデオドライバ
- セキュリティチップドライバ
- Java2 Runtime Environment
- Microsoft .NET Framework
- システム診断ツール

インストール

インストールの手順は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 3 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「本体ドライバ」を選択して [インストール] をクリックします。

手順4の画面が表示されるまでには、数分かかります。



<イメージ>

- 4 「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、一覧から [インストール] をクリックします。

- 5** 「インストール確認」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり、[OK] をクリックします。

各ドライバが自動的にインストールされます。
インストールには十数分かかります。

- 6** 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。

- 7** 「インストール処理」画面が表示されたら、ドライバのインストール状態を確認し、[PC再起動] をクリックします。

ドライバによっては、Windowsの再起動後にインストールされるものもあります。Windowsが再起動したら、本体ドライバのインストールは完了です。



リカバリツールの [ファイル削除] の表示について

リカバリツールからインストールを行う際、ソフトウェアによっては一時的にHDDにインストール用データをコピーします。「リカバリツール」画面で [ファイル削除] が黒字で表示される場合は、コピーされた不要なインストール用データがHDDに残っています。[ファイル削除] をクリックしてデータを削除すると、HDDの容量を節約することができます。

▶ 拡張ボードのドライバのインストール

<拡張ボード搭載時>

ビデオボードなどの拡張ボードをお使いの場合は、拡張ボードのドライバをインストールします。

インストールは、拡張ボードに添付のディスクを使用して行います。インストール方法は、拡張ボードに添付のマニュアルをご覧ください。

▶ Adobe Readerのインストール

「Adobe Reader」は、PDF形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。

インストール

Adobe Readerのインストール手順は、次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 3** 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Adobe Reader」を選択して [インストール] をクリックします。
- 4** 「インストール先のフォルダ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 5** 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、[インストール] をクリックします。
インストールにはしばらく時間がかかります。
- 6** 「セットアップ完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
続いてAdobe Readerのセットアップを行います。

セットアップ

インストールが完了したら、続いてセットアップを行います。Adobe Readerのセットアップ手順は次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「Adobe Reader」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「使用許諾契約書」が表示されたら、「…言語を選択してください。」が「日本語」になっていることを確認します。
- 3** 「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。
同意する場合は、[同意する] をクリックします。[同意しない] を選択すると、Adobe Readerは使用できません。
- 4** 「Adobe Reader操作ガイド」が表示されます。
内容を確認してください。
これで、Adobe Readerのセットアップは完了です。

▶セキュリティソフトウェアのインストール

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。『セキュリティソフトウェアをご使用前に』（別冊）をご覧ください。

市販のセキュリティソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶Webフィルタリングソフトウェアのインストール

本機に添付の「i-フィルター 30日版」をインストールします。i-フィルター 30日版は、有害サイトをブロックするためのWebフィルタリングソフトウェアです。

市販のWebフィルタリングソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

i-フィルター 30日版のインストール

i-フィルター 30日版のインストール方法は、次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 3 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「i-フィルター 30日版」を選択して [インストール] をクリックします。
- 4 「i-フィルター…セットアップへようこそ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 5 「使用許諾契約」画面が表示されたら、内容をよくお読みになり同意するかしないかを選択します。
同意する場合は [はい] をクリックします。[いいえ] を選択すると、i-フィルター 30日版は使用できません。
- 6 「インストール先の選択」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 7 「インストールを完了するためにはコンピュータの再起動が必要です。…」と表示されたら、[OK] をクリックします。
Windowsが再起動したら、i-フィルター 30日版のインストールは完了です。続いて、i-フィルター 30日版のセットアップを行います。

i-フィルター 30日版のセットアップ

- 1** Windowsが再起動して「i-フィルター…」画面が表示されたら、使用許諾契約書の内容をよくお読みになり、[「i-フィルター」を使ってみる]をクリックします。
- 2** 「管理パスワードの設定」画面が表示されたら、「管理パスワード」と「管理パスワード(確認)」にパスワードを入力して[設定]をクリックします。
このパスワードは、フィルター設定を変更する場合などに必要になります。
- 3** 「有害サイト遮断ソフト…へようこそ!」と表示されたら、画面の注意事項をよくお読みください。
これで、i-フィルター 30日版のセットアップは完了です。

▶マニュアルびゅうわのインストール

「マニュアルびゅうわ」は、本機に添付されているマニュアルやお知らせを見るためのソフトウェアです。

マニュアルびゅうわのインストール手順は次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール]をクリックします。
- 3** 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「マニュアルびゅうわ」を選択して[インストール]をクリックします。
- 4** 「マニュアルびゅうわセットアップへようこそ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 5** 「インストール準備の完了」画面が表示されたら、[インストール]をクリックします。
- 6** 「InstallShield Wizardの完了」画面が表示されたら、[完了]をクリックします。
これで「マニュアルびゅうわ」のインストールは完了です。

▶ Nero 7 Essentialsのインストール

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

「Nero 7 Essentials」は、光ディスクドライブで書き込みを行うためのソフトウェアです。

Nero 7 Essentialsをインストールすると、InCDもインストールされます。

Nero 7 Essentialsのインストール手順は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 3 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「Nero 7 Essentials」を選択して [インストール] をクリックします。
- 4 「Neroマルチインストーラ」画面が表示されたら、[Nero 7 Essentials] をクリックします。
- 5 「・・・インストールウィザードへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶ WinDVDのインストール

<DVD再生機能のある光ディスクドライブ搭載時>

「WinDVD」は、DVD VIDEOを再生するためのソフトウェアです。

WinDVDのインストール手順は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 3 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「InterVideo WinDVD ...」を選択して [インストール] をクリックします。
- 4 「WinDVD セットアップへようこそ」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶JWord Pluginのインストール

「JWord Plugin」は、Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。

JWord Pluginのインストール手順は次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 3** 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「JWord Plugin」を選択して [インストール] をクリックします。
- 4** 「JWordプラグイン…へようこそ」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

▶gooスティックのインストール

「gooスティック」は、Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するソフトウェアです。

gooスティックのインストール手順は次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2** 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 3** 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「gooスティック」を選択して [インストール] をクリックします。
- 4** 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。
これで、gooスティックのインストールは完了です。

▶マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版のインストール

「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」は、Webサイトの安全性を表示し、危険なサイトへのアクセスを防ぐWebセーフティツールです。

インストール

マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版のインストール手順は次のとおりです。

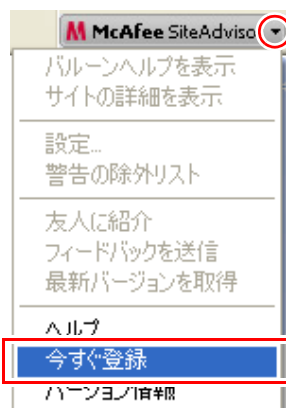
- 1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「リカバリツール」画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。
- 3 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧から「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」を選択して [インストール] をクリックします。
- 4 「McAfee Security Center」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

インストールが完了したら、続いて、ユーザー登録を行います。

ユーザー登録

マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版を使用するには、ユーザー登録が必要です。ユーザー登録の方法は、次のとおりです。

- 1 Internet Explorerを起動します。
- 2 Internet Explorerのツールバーに表示される [McAfee SiteAdvisor] の▼をクリックして、表示された一覧から「今すぐ登録」をクリックします。



- 3 表示された画面に従ってユーザー登録を行います。

ユーザー登録が完了すると、マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版が使用可能になります。

▶そのほかのインストール

必要に応じて次のインストールを行ってください。

セキュリティチップユーティリティのインストール

「セキュリティチップユーティリティ」は、セキュリティチップの設定を行うためのユーティリティです。詳しくは、『セキュリティ機能（TPM）設定ガイド』（別冊）をご覧ください。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、ソフトウェアなどのインストールが必要です。インストールは、オプション機器類に添付されているメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション機器類に添付のマニュアルをご覧ください。



インストールが必要なドライバの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- USB対応機器を使用する場合 : USB機器に添付のドライバ
- プリンタを使用する場合 : プリンタに添付のドライバ

そのほかのソフトウェアのインストール


「Office」など、そのほかに使用するソフトウェアがある場合は、インストールします。インストール方法はソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶再インストール後の作業

再インストールが完了したら、必要に応じて次の作業を行ってください。

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、「未使用の領域」はそのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」で、領域の作成を行います。


 p.233 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

ネットワークやモデムの設定

再インストールを行う前に書き写しておいた設定を元に、ネットワークやモデムの設定を行います。

バックアップしたデータの復元

再インストールを行う前にバックアップしたデータを復元します。

 p.221 「データのバックアップ」

- Internet Explorer、Outlook Expressの設定
- 重要なデータ

バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

Windows Update

Windowsの再インストールを行うと、今までに行った「Windows Update」のプログラムがインストールされていない状態に戻ります。

Windowsの再インストール後にはじめてインターネットに接続する際は、必ず手動でWindows Updateを行ってください。

 p.105 「Windows Update」

第6章 こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

「トラブルが発生したら」	186
「困ったときに」	187
「システム診断ツールを使う」	212
「トラブル時に役立つ機能」	214
「警告メッセージが表示されたら」	216

トラブルが発生したら

本機ご使用時にトラブルが発生した場合は、次の場所から対処方法をご確認ください。

● 困ったときに

トラブルが発生した場合の確認事項と対処方法を記載しています。

 p.187 「困ったときに」

● とらぶる解決ナビ

当社ユーザーサポートページの「サポート情報検索」から、技術的なトラブルの解決方法をピックアップして収録しています。



「インフォメーションメニュー」を開き、「とらぶる解決ナビ」をクリックします。



トラブルが起きた場合の対処の流れを確認します。

起こったトラブルに関する項目をクリックします。
トラブルの詳細が表示されたら、詳細項目をクリックし、対処方法を確認します。

参考

サポート・サービスのご案内

『サポート・サービスのご案内』（別冊）には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや万一の場合に備えてご覧ください。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。対処方法が見つからない場合は、「インフォメーションメニュー」の「とらぶる解決ナビ」や「サポート情報検索」もあわせてご覧ください。



不具合が解消しない場合は

対処を行っても不具合が解消しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください、「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

不具合一覧

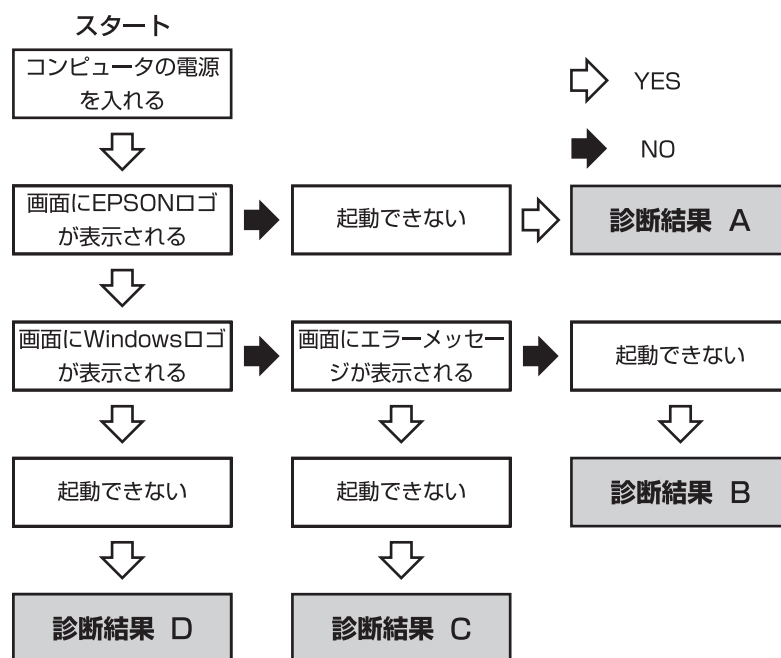
コンピュータ本体（起動時）	p.188
● 起動	p.188
● そのほか	p.195
コンピュータ本体	p.196
● 省電力機能	p.196
● セキュリティチップ（TPM）	p.197
● 装置の増設・交換	p.197
● そのほか	p.198
メモリ	p.199
● メモリ	p.199
記憶装置	p.200
● FDD（オプション）	p.200
● HDD	p.201
● 光ディスクドライブ	p.201
● マルチカードリーダー（オプション）	p.204
入力装置	p.205
● キーボード	p.205
● マウス	p.206
表示装置	p.206
● ディスプレイ	p.206
サウンド	p.208
● スピーカ	p.208
ソフトウェア	p.208
● ソフトウェア	p.208
● インストール	p.211
ネットワーク、インターネット	p.211

▶コンピュータ本体の不具合（起動時）

コンピュータが起動できないときの対処方法を説明します。

起動時の不具合

コンピュータが起動できない場合は、次の診断を行い、各診断結果に応じた対処を行ってみてください。



診断結果 A

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) コンピュータ本体の電源を入れなおす

電源を入れなおす場合は、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

(2) ディスプレイの電源ランプを確認する

ディスプレイの取扱説明書をご覧になり、ディスプレイの電源ランプが通常動作時の状態になっているかどうか確認してください。

(3) ディスプレイケーブルを接続しなおす

コンピュータ本体とディスプレイの接続に問題がある可能性があります。コンピュータ本体とディスプレイの電源を切ってから、ディスプレイケーブルを接続しなおし、ディスプレイ、コンピュータ本体の順に電源を入れ、問題が解決するかどうか確認してください。

(4) ディスプレイの電源コードを接続しなおす

ディスプレイの電源コードの接続に問題がある可能性があります。コンピュータ本体とディスプレイの電源を切ってから、ディスプレイの電源コードを接続しなおし、ディスプレイ、コンピュータ本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(5) コンピュータ本体の電源コードを接続しなおす

コンピュータへの電源供給に問題がある可能性があります。コンピュータ本体とディスプレイの電源を切ってから、コンピュータ本体の電源コードを接続しなおし、ディスプレイ、コンピュータ本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(6) 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンタやスキャナなどの周辺機器、メモリや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(7) CMOS RAMの初期化を行う

CMOS RAMの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAMの初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。



p.239 「CMOS RAMの初期化」

(8) 電源保護回路を解除する

過電流によってコンピュータが不安定になっている可能性があります。周辺機器/増設機器類（キーボード、マウス、ディスプレイを含む）を外して電源コードを抜いたあと、1分程度放置し、問題が解決されるかどうか確認してください。

診断結果 B

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンタやスキャナなどの周辺機器、メモリや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) セーフモードで起動し、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

 p.214 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、「システムの復元」機能を使用して以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。システムの復元を行ってみてください。

 p.214 「システムの復元」

(3) 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

1. コンピュータの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示され、消えた直後に **[F5]** を押し、そのまま離さずしばらく押し続けます。
3. 「Windows 拡張オプションメニュー」と表示されたら、**[↑]** または **[↓]** を押して、「前回正常起動時の構成」を選択し、**[↵]** を押します。
4. 「オペレーティングシステムの選択」と表示されたら、起動するOSを選択して、**[↵]** を押します。

(4) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

 p.144 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」


(5) CMOS RAMの初期化を行う

CMOS RAMの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAMの初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。


 p.239 「CMOS RAMの初期化」

(6) Windowsを再インストールする

HDD内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.164 「ソフトウェアの再インストールを行う」

診断結果 C

まず、 p.216 「警告メッセージが表示されたら」をご覧ください、メッセージに応じた対処を行ってください。あてはまるメッセージがない場合は、下記をご覧ください、対処を行ってください。

- 「S.M.A.R.T Failure Predicted on HDD / WARNING: Immediately back-up your data and replace your HDD」というメッセージが表示された場合

(1) カスタマーサービスセンターへ連絡する

HDDに問題がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください、カスタマーサービスセンターへご連絡ください。

- 「Hardware Monitor found an error, Enter Power setup menu for details」というメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) コンピュータ本体の電源を入れなおす

コンピュータの電源を切ってから、電源コードを抜き、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてみてください。

(2) 壁のコンセントに直接接続する

電源タップなどにコンピュータの電源コードを接続している場合は、電源タップなどを使用せず、壁にあるコンセントに直接コンピュータの電源コードを接続して、電源を入れてみてください。

(3) 消費電力の大きい機器を停止する


大画面テレビやエアコンなど、消費電力の大きい機器を使用している場合、それらの機器の電源を切ってから、コンピュータの電源を入れてみてください。

- 「DISK BOOT FAILURE」、「Invalid system disk」、「Missing Operating System」、「Operating System Not Found」などのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) FD やUSB フラッシュメモリを取り外す

FDDにFDがセットされていたり、USB 接続のフラッシュメモリなどが接続されていたりすると、FDやUSB 機器からOS を読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB 機器を取り外してから、コンピュータを起動して、問題が解決されるかどうか確認してください。また、BIOSの「Boot」メニュー画面でHDD の優先順位をFDDやUSB機器よりも前に設定しておくことで、FDをセットしたりUSB 機器を接続したりした状態でも、コンピュータを起動できるようになります。

 p.148 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」


(2) しばらく放置する

急激な温度変化があった場合は、HDDの表面が結露してしまっている可能性があります。乾くまで、しばらく放置しておいてから、再度電源を入れてみてください。

(3) HDDの認識と接続を確認する

BIOSでHDDを認識できていない可能性があります。次の手順でBIOSを確認してください。

1. 「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。

 p.139 「BIOS Setupユーティリティの起動」

2. 「Main」メニュー画面で「Serial ATA Port0」の表示を確認します。

HDDの型番が表示されている場合、HDDは正常な状態です。続いて、下記（4）（5）の作業を行ってみてください。

「Not Detected」、「None」などと表示される場合は、HDDが正常に認識されていません。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、「カスタマーサービスセンター」へご連絡ください。

(4) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

 p.144 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」

(5) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.168 「Windows XPのインストール」

● そのほかのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) FD やUSB フラッシュメモリを取り外す

FDDにFDがセットされていたり、USB接続のフラッシュメモリなどが接続されていたりすると、FDやUSB機器からOSを読み込もうとして、現象が発生する場合があります。FDやUSB機器を取り外してから、コンピュータを起動して、問題が解決されるかどうか確認してください。また、BIOSの「Boot」メニュー画面でHDDの優先順位をFDDやUSB機器よりも前に設定しておくことで、FDをセットしたりUSB機器を接続したりした状態でも、コンピュータを起動できるようになります。


 p.148 「起動 (Boot) デバイスの順番を変更する」

(2) 周辺機器および増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンタやスキャナなどの周辺機器、メモリや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(3) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

 p.144 「Load Setup Defaults (初期値に戻す)」

(4) CMOS RAMの初期化を行う

CMOS RAMの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAMの初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.239 「CMOS RAMの初期化」

(5) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.168 「Windows XPのインストール」

診断結果 D

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器および増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンタやスキャナなどの周辺機器、メモリや拡張ボードなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。



p.214 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム移動中、常に稼働しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。

常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。

1. [スタート] - 「ファイル名を指定して実行」を選択します。
2. 「ファイル名を指定して実行」画面が表示されたら、「名前」に「msconfig」と入力して、[OK] をクリックします。
3. 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目（常駐ソフト）のチェックを外し、[OK] をクリックします。
4. 「再起動する必要があります」というメッセージが表示されたら、[再起動] をクリックします。
5. Windows 起動時に、「開始方法を変更しました」というメッセージが表示されたら、「このメッセージを表示しない」にチェックを入れて、[OK] をクリックします。

常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。

常駐ソフトが原因ではなかった場合は、「システムの復元」を行ってみてください。以前のコンピュータの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。



p.214 「システムの復元」


(3) 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

1. コンピュータの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示され、消えた直後に **[F5]** を押し、そのまま離さずしばらく押し続けます。
3. 「Windows 拡張オプションメニュー」と表示されたら、**[↑]** または **[↓]** を押して、「前回正常起動時の構成」を選択し、**[↵]** を押します。
4. 「オペレーティングシステムの選択」と表示されたら、起動するOSを選択して、**[↵]** を押します。

(4) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。






 p.168 「Windows XPのインストール」

起動時の不具合（そのほか）**現象**

起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。

Enter CURRENT Password:


確認と対処

- 「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。
 p.145 「パスワードを設定する」
- パスワードを正しく入力しているか確認します。 の状態により数値が正しく入力されていない場合があります。
 p.60 「キーロック表示ランプ」
- パスワードを忘れてしまった場合には、強制的に解除することができます。
 p.239 「CMOS RAMの初期化」
ただし、HDDへのアクセス制限を設定している場合、パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定したHDDは使用できなくなります。
- 強制的に解除した場合、BIOSの設定が初期化されてしまい、BIOSを再度設定する必要があります。「BIOSの設定値」に変更内容を記入している場合は、「BIOSの設定値」をご覧になり、設定してください。
 p.159 「BIOSの設定値」

現象

起動時にWindowsを選択する画面が表示される（Windowsが2つになってしまっている）。

確認と対処

- Windowsの再インストールの際に手順を間違ったと考えられます。再度、手順どおりにWindowsの再インストールを行ってください。ポイントとなる手順は、次のとおりです。
 - p.170 「Windows XPのインストール」の手順4では必ず  を押す。
 - p.170 「Windows XPのインストール」の手順5とp.230 「Cドライブを分割・変更する」の手順1では必ずCドライブを選択する（Cドライブ以外にWindowsが入ってしまっている場合は、そのドライブをフォーマットする）。
 - p.170 「Windows XPのインストール」の手順7とp.230 「Cドライブを分割・変更する」の手順7では必ず「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択する。

▶コンピュータ本体の不具合



コンピュータ本体の不具合に対する対処方法を説明します。

省電力機能に関する不具合


現象

正しく省電力状態に移行できない。または省電力状態から復帰できない。

確認と対処

- 使用しているソフトウェアや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。ソフトウェアの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。
- 相性の良くない周辺機器などを使用している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」の設定値を次のように変更してください。設定を変更した場合の電力消費は、通常より若干抑えられる程度になります。
「Power」メニュー画面
Suspend Mode : S1 (POS) only
購入時は「S3 only」に設定されています。
 -  p.140 「BIOS Setupユーティリティの操作」
 -  p.113 「省電力状態の種類」

- スタンバイを実行しているときや、休止状態のときは、キーボードやマウスの操作では、省電力状態から復帰できない場合があります。この場合は、電源スイッチを押して本機を復帰させてください。

 p.116 「省電力状態から復帰する」

- 省電力状態から復帰できない場合は、**Ctrl**+**Alt**+**Delete**を押して本機を再起動してください。ただし、省電力状態移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。


セキュリティチップのセキュリティ機能（TPM）の不具合


現象

セキュリティチップの情報を初期化して、購入時の状態に戻したい。

確認と対策

- セキュリティチップの情報の初期化は、「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目で行います。

「Boot」メニュー画面－「Security」－「Trusted Computing」－「Clearing the TPM」で  を押し、確認画面が表示されたら [Ok] を選択します。情報が初期化され、コンピュータが再起動します。

 p.140 「BIOS Setupユーティリティの操作」

初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用できなくなります。セキュリティチップの初期化は十分に注意し、お客様の責任において行ってください。

装置の増設・交換に関する不具合

現象

拡張ボード、周辺機器を増設したら、コンピュータの動作がおかしくなった。

確認と対処

- 増設した機器が、対応する拡張スロットおよびコネクタに、正しく装着されているか、確認してください。
- 周辺機器を追加するために拡張ボードを装着した場合、周辺機器と拡張ボードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。
- 拡張ボードによっては、拡張スロットに装着するだけでなく、メインボードやコンピュータのコネクタとの接続が必要な場合があります。拡張ボードのマニュアルを確認してください。


- 拡張ボード、周辺機器のドライバがインストールされているか、確認してください。詳しくは拡張ボード、周辺機器のマニュアルを確認してください。
- 拡張ボード、周辺機器を取り外して問題が解決されるかどうか、確認してください。
- 上記の処置を行っても改善が見られない場合は、拡張ボード、周辺機器の販売元にお問い合わせください。

そのほかの不具合

現象

ハングアップしてしまい何も反応しない。


確認と対処

- 応答のないソフトウェアを強制終了してから本機を再起動してください。
 p.56 「ハングアップしたときは」
- 応答のないソフトウェアを終了させることができない場合には、5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。その後、20秒程待つてから、電源を入れなおします。電源を入れても起動しない場合は、電源コードを抜いて、1分程待つてから差しなおし、再度電源を入れてください。

現象

「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処

- 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してください。
 p.236 「リチウム電池の交換」

▶メモリの不具合

メモリの不具合に対する対処方法を説明します。

メモリの不具合

現象

メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

確認と対処

- 起動時のメモリチェックやWindows上では、メモリ容量が正しく表示されないことがあります。「BIOS Setupユーティリティ」を起動し、「Main」メニュー画面－「System Information」－「System Memory」－「Size」で総メモリ容量を確認してください。



p.140 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。メインメモリ容量の表示は、ビデオメモリ容量（約8MB）を差し引いて表示されます。
- メモリを増設した場合は、メモリのタイプが合っているか、スロットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。



p.126 「メモリの装着」

▶記憶装置の不具合

記憶装置の不具合に対する対処方法を説明します。

FDD（オプション）の不具合

現象

FDに正常にアクセスできない。

確認と対処

- 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FD が正しくセットされていない可能性があります。正しくセットしなおしてください。


A:¥にアクセスできません。
デバイスの準備ができていません。
[再試行] [キャンセル]

ディスクの挿入
A:ドライブにディスクを挿入してください。
[キャンセル]

- 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FD がフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性が
あります。


ドライブAのディスクはフォーマットされていません。
今すぐフォーマットしますか？
[はい] [いいえ]

- 使用しているFDが、本機で使用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。

 p.62 「FDDを使う（オプション）」

- 別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、FDに異常があることが考えられます。

- 「BIOS Setupユーティリティ」－「Mainメニュー画面」－「Legacy Diskette A」の設定値が「1.44M, 3.5in.」になっているか確認してください。


 p.150 「Mainメニュー画面」

現象

FDに書き込みできない。

確認と対処

- ライトプロテクトされていないか確認します。

 p.65 「ライトプロテクト（書き込み禁止）」

HDDの不具合

現象

HDD容量がWindows上で、マニュアルに記載されている容量と異なって表示される。

確認と対処

- 本機に搭載されているHDD容量をWindows上で確認すると、マニュアルに記載されているHDD容量より少なく表示されます。
これは、Windows上では容量を計算や表示する場合に「2進法」(0と1の2つの数字を用いる表記法)を使用しているのに対して、マニュアルではHDDなどの仕様を表記する際に用いられている「10進法」(0～9の数字を用いる表記法)を使用していることによる違いです。
2進法で表記した1KB(キロバイト)は「1024Byte」になるのに対し、10進法で表記した場合には「1000Byte」となります。そのため、WindowsなどのOS上で表示されるHDD容量は、マニュアルに記載されている容量よりも少なく表示されます。

現象

HDDからWindowsが起動しない。

確認と対処

- BIOSの「Boot」メニュー画面で起動時のHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。



p.140 「BIOS Setupユーティリティの操作」

光ディスクドライブの不具合

現象

オーディオCDやDVD VIDEO再生時に、音声が出力されない。

確認と対処

- ボリュームコントロールが「ミュート」または「レベル0」に設定されていないか確認します。

現象

セットしたメディアにアクセスできない。

確認と対処

- メディアが正しくセットされているか、確認してください。
- メディアを挿入した直後、アクセスランプ点灯中は、読み込み準備のためアクセスできません。この場合は、アクセスランプの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。
- メディアの表面にキズなどがいないか、確認してください。
- 別のメディアにアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないメディアに問題がある可能性があります。
- セットしたメディアが書き込み済みのメディアの場合、光ディスクドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。

現象

セットしたメディアが取り出せない。


確認と対処

- コンピュータの電源が入っているか、確認してください。
- ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくは、お使いのソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

現象

メディアをセットすると画面が開いてしまう。








確認と対処

- セットしたCD-ROMなどのメディアに自動再生機能があると、自動的に画面が開きます。メディアに収録されている内容を見たい場合は、[キャンセル]や、をクリックして、画面を閉じます。その後、[スタート] - 「マイコンピュータ」のCD-ROMアイコンを右クリックして、「開く」を選択します。

現象

メディアへの書き込みができない。




確認と対処

- CD-ROMドライブ、DVD-ROMドライブの場合、メディアへの書き込みはできません。
- 書き込みソフト「Nero 7 Essentials」がインストールされていない場合は、インストールをしてください。
 p.179 「Nero 7 Essentialsのインストール」
- メディアのフォーマットに関する不具合や、書き込みに関する不具合については、『Neroユーザーズガイド』を参照してください。
 「マニュアルびゅーわ」－『Neroユーザーズガイド』
- お使いの光ディスクドライブ対応のメディアを使用しているかどうか確認してください。
 「マニュアルびゅーわ」－『光ディスクドライブPDFマニュアル』
- データの書き込みをドラッグアンドドロップで行うには、「InCD」でメディアをフォーマットする必要があります。
 p.75 「Nero 7 Essentialsの使い方」
- InCDで使用できるメディアは、CD-RW、DVD±RW、DVD-RAMのみです。
 p.75 「Nero 7 Essentialsの使い方」
- InCDでフォーマットしたメディアは、「Nero 7 Essentials」での書き込みができません。Nero 7 Essentialsで「ディスクの消去」を行ってください。
 p.75 「Nero 7 Essentialsの使い方」
- Windowsが省電力状態に切り替わると、書き込み可能なメディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを始める前に省電力状態に移行しないように設定してください。
 p.115 「時間経過で移行させない」
- メディアが正しくセットされているかどうか、確認してください。
- メディアの表面に汚れやキズなどがないか、確認してください。
- メディアの残量があるか、確認してください。
- ヘッドレンズの汚れによって、書き込みができない場合があります。
- 光ディスクドライブとの相性によって、セットしたメディアに書き込めない場合があります。

現象

DVDの再生ができない。

確認と対処



- CD-ROMドライブをお使いの場合、DVDの再生はできません。
- DVD VIDEOを再生する場合は、専用の再生ソフトウェアが必要です。本機には、「WinDVD」が購入時にインストールされています。
DVD VIDEO再生に関する不具合については、『WinDVDユーザーズマニュアル』を参照してください。
 「マニュアルびゅーわ」－『WinDVDユーザーズマニュアル』
- 解像度や色数、リフレッシュレートを変更してみてください。
 p.86 「解像度や表示色を変更するには」
 p.88 「リフレッシュレートの設定」

マルチカードリーダー（オプション）の不具合

現象

メモ리카ードが使用できない。

確認と対処

- メモ리카ードが正しくセットされているか確認してください。
- メモ리카ードがメモリスロットの仕様に対応しているか確認してください。本機のメモリスロットでは、5Vのスマートメディアを使用することができません。
 p.77 「使用可能なメモ리카ード」
- 通知領域の「取り外し」アイコンから終了処理を行うと、メモ리카ードスロットが認識されなくなります。Windowsを再起動してから、再度メモ리카ードをセットしてください。
 p.80 「メモ리카ードのセットと取り出し」

▶入力装置の不具合



入力装置の不具合に対する対処方法を説明します。


キーボードの不具合

現象

数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処

- 数値キーは  の状態により機能が変わります。 を押して、オンの状態にします。


 p.60 「キーロック表示ランプ」

現象

どのキーを押しても応答がない。

確認と対処

- キーボードが正しく接続されているか確認します。PS/2 キーボードの場合、接続は本機の電源を入れる前に行ってください。

 p.37 「キーボードを接続する」

- マウスを操作してみてください。マウスで操作できる場合もあります。
- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。しばらく待ってみてください。
- ソフトウェアがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、再起動してください。


 p.56 「再起動」

現象

キートップにある文字や記号が入力できない。

確認と対処

- 直接入力モードで日本語を入力することはできません。日本語入力モードに切り替えてください。




 p.58 「キーボードを使う」

マウスの不具合

現象

マウスを動かしても、マウスポインタが動かない。


確認と対処

- マウスが正しく接続されているか確認します。PS/2 マウスの場合、接続は、本機の電源を入れる前に行ってください。
 p.38 「マウスを接続する」
- キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合もあります。
- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。しばらく待ってみてください。
- ソフトウェアがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、再起動してください。
 p.56 「再起動」
 p.56 「ハングアップしたときは」

現象

マウスポインタの動きが悪い。

確認と対処

- マウスのクリーニングを行ってください。
 p.219 「マウスのお手入れ」

▶表示装置の不具合

表示装置の不具合に対する対処方法を説明します。

ディスプレイの不具合

現象

起動時にディスプレイに何も表示されない。

確認と対処

- ディスプレイの電源ランプが点灯しているか確認してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

- ディスプレイの仕様を確認して、該当するコネクタにディスプレイのケーブルが正しく接続されているか確認してください。本機で使用できるディスプレイの接続ケーブルは次をご覧ください。



p.35 「ディスプレイを接続する」

- コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。
- 警告音（ビープ音）が鳴った場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見された可能性があります。音の種類、音の長さなどを確認した上で、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

使用中に何も表示されなくなった。

確認と対処

- 省電力状態になっている可能性があります。キーボードやマウスを操作してみてください。それでも表示されない場合は、電源スイッチを押してみてください。



p.112 「省電力機能を使う」

- ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。調整方法については、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- ディスプレイの仕様を確認して、該当するコネクタにディスプレイのケーブルが正しく接続されているか確認してください。本機で使用できるディスプレイの接続ケーブルは次をご覧ください。



p.35 「ディスプレイを接続する」

- ディスプレイの故障の場合には、ディスプレイの販売元にご確認ください。

現象

画面がちらつく、文字がにじむ。

確認と対処

- リフレッシュレートを変更してみてください。




p.88 「リフレッシュレートの設定」

現象

画面の解像度などを変更した後、画面が乱れたり何も表示されなくなった。

確認と対処

- ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。
- 使用中のディスプレイでは表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで起動して、解像度を変更してみてください。

 p.214 「セーフモードでの起動」

▶サウンドの不具合


サウンドの不具合に対する対処方法を説明します。

スピーカの不具合

現象

音が鳴らない。

確認と対処

- ボリュームコントロールが「ミュート」または「レベル0」に設定されていないか確認してください。
 p.92 「サウンド機能を使う」
- 外部スピーカを接続していて、外部スピーカから音が出ない場合は、本機背面のライン出力コネクタに正しく接続しているか確認してください。外部スピーカのスイッチが入っているか、ボリュームの調節は適切かも確認してください。

▶ソフトウェアの不具合

ソフトウェアの不具合に対する対処方法を説明します。


ソフトウェアの不具合

現象

ソフトウェアの使用中に突然停止（ハングアップ）した。

確認と対処

- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、Windowsの再起動、停止（ハングアップ）などが含まれます。ソフトウェアを再度実行してみてください。

- ケーブルの接続不良や、キーボード内のゴミやホコリ、電源の出力不安定、または、そのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。
- HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、Windowsがハングアップする場合があります。
- 応答のないソフトウェアを強制終了してから本機を再起動してください。 p.56 「ハングアップしたときは」

現象

ソフトウェアやプログラムが停止し、「データ実行防止」画面が表示される。

確認と対処

- セキュリティソフトウェアで、ウイルスの検索・駆除を行ってください。それでも問題が解決しない場合は、テクニカルセンターまでお問い合わせください。

現象

ソフトウェアが起動しない。

確認と対処

- ソフトウェアの起動に必要とされるシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、ソフトウェアのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度ソフトウェアを起動してみてください。
- ソフトウェアを正しい方法でインストールしたか、ソフトウェアの起動手順を正しく実行しているか確認してください。
- 実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。
- ソフトウェアの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、ソフトウェアが動作しないことがあります。ソフトウェアの正式版を使用してください。
- ソフトウェアの使用方法をもう一度確認してください。それでもソフトウェアの不具合が解決できないときは、ソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

Internet Explorerの使用時に「警告」(情報バー)画面が表示される。

確認と対処

- Internet Explorerは、購入時、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう、設定されています。Internet Explorer使用時に「警告」(情報バー)画面が表示されたら、[OK]をクリックして画面を閉じ、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処を選択してください。

現象

Outlook ExpressでHTMLメールの画像が表示されない、または添付ファイルが開けない。

確認と対処

- メール添付のファイルや送信元の不明なメールによるウイルスの侵入から、コンピュータを保護するための設定が購入時にされています。HTMLメールの画像を見る場合は、送信元を確認して、件名の下にある情報バーをクリックします。添付ファイルについての設定は、Outlook Expressの [ツール] - 「オプション」 - 「セキュリティ」タブ - 「ウイルスの可能性のある添付ファイルを保存したり開いたりしない」で確認できます。

現象

インストールしたネットワークアプリケーションが動作しない。

確認と対処

- ファイアウォールが有効に設定されていると、ネットワークアプリケーションが正常に動作しない場合があります。詳細についてはソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

「インフォメーションメニュー」の「マニュアルびゅーわ」がグレーになって使用できない。

確認と対処

- 「マニュアルびゅーわ」のインストールを行ってください。



p.178 「マニュアルびゅーわのインストール」

- 「マニュアルびゅーわ」を使用できない場合、当社のユーザーサポートページから当社作成の電子マニュアルをダウンロードすることができます。ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。



p.225 「電子マニュアルのダウンロード」

インストール時の不具合

現象

Windowsの再インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処

- 本書の手順は、p.17 「本製品の仕様とカスタマイズ」で記載している製品仕様でインストールすることを前提に説明しています。周辺機器を増設している場合は、手順が異なることがあります。各機器に添付のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 本書の手順は、HDDのフォーマット後にインストールを行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点は『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。
- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

現象

Windows XPリカバリCDを光ディスクドライブにセットして再起動し、どれかキーを押してもWindowsの再インストールが開始されない。

確認と対処

- 光ディスクドライブの起動順位を HDD よりも下に設定している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行して、起動順位を変更してください。



p.148 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」

▶ネットワーク、インターネットの不具合

ネットワーク、インターネットの不具合に対する対処方法は、「インフォメーションメニュー」－「とらぶる解決ナビ」をご覧ください。

システム診断ツールを使う

システム診断ツールは、本機の調子が悪いときに、どのハードウェアが不具合の原因かを診断するためのツールです。

▶システム診断ツールの種類

システム診断ツールには、次の2つの種類があります。

●Windows上で起動するシステム診断ツール

Windows上でシステム診断を行うことができます。Windowsを起動できる場合に使用します。

購入時は、本機にあらかじめインストールされています。

●CDから起動するシステム診断ツール

Windowsが起動できない場合に、リカバリツールCDから起動してシステム診断を行います。

本機廃棄時にHDD内のデータを消去することもできます。

▶システム診断を実行する

Windowsを起動できる場合とできない場合で、システム診断の実行方法は異なります。

Windowsを起動できる場合

Windows上で起動するシステム診断ツールを使用します。実行方法は、次のとおりです。

1 デスクトップ上の「システム診断ツール」アイコンをダブルクリックします。



<システム診断ツールアイコン>

2 「システム診断ツール」画面が表示されたら、診断したい項目名をクリックします。

該当項目の診断が開始します。

[診断項目を選択する]を選択した場合は、診断項目を選ぶことができます。実行方法の詳細は、システム診断ツールのヘルプをご覧ください。

3 診断が終了したら、診断結果を確認します。

「異常が検出されました」の画面が表示された場合は、該当項目に不具合がある可能性があります。画面で対処方法を確認してください。

問題が解決されない場合は、ヘルプまたは『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください、テクニカルセンターまでご連絡ください。

Windowsを起動できない場合

「リカバリツールCD」からシステム診断ツールを起動します。
実行方法は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、リカバリツールCDを光ディスクドライブにセットします。
- 2** **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押します。
コンピュータが再起動します。
- 3** 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えた後、「Kernel Loading.....
Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断を開始します。
- 4** 診断が終了したら、診断結果を確認します。
「F」が表示された場合は、表示された項目に不具合がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。
- 5** 光ディスクドライブからリカバリツールCDを取り出し、電源を切ります。
これでシステム診断は完了です。

トラブル時に役立つ機能

ここではトラブルが発生した場合に役立つWindowsが持つ機能について説明します。

▶セーフモードでの起動

本機が起動できない場合や、ディスプレイで表示できない解像度を選択して表示ができなくなってしまった場合などには、セーフモードで起動してみてください。

セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1 本機の電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。
- 2 EPSONと表示され、消えた直後に **F5** を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
- 3 「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、**↵** を押します。

セーフモードで起動できた場合は、不具合に対する対処を行ってください。

▶システムの復元

本機の動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行ってWindowsを以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。

復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に、自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

システムを復元する

システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。システムの復元を行う前に、HDDのデータをほかのメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

- 1 [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「システムツール」 - 「システムの復元」を選択します。
- 2 「システムの復元」が表示されたら、「コンピュータを以前の状態に復元する」を選択し、[次へ] をクリックします。

- 3** 「復元ポイントの選択」と表示されたら、復元ポイントを選択します。
復元ポイントのある日が、カレンダーに太字で表示されます。まず日付を選択し、次に画面右側の復元ポイントの一覧より、復元ポイントを選択し、[次へ] をクリックします。
- 4** 「復元ポイントの選択の確認」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
Windowsが再起動します。
- 5** 再起動後、「復元は完了しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。
これでシステムの復元は完了です。

復元ポイントを手動で作成する

復元ポイントを手動で作成する方法は次のとおりです。

- 1** [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「システムツール」 - 「システムの復元」 を選択します。
- 2** 「システムの復元」画面が表示されたら、「復元ポイントの作成」を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3** 「復元ポイントの作成」と表示されたら、「復元ポイントの説明」に説明を入力し、[作成] をクリックします。
- 4** 「新しい復元ポイント」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。
これで復元ポイントの作成は完了です。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。

処置を行ってもなおらない場合には、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください、テクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明および対処法
Reboot and Select proper Boot Device or Insert Boot Media in Selected Boot device and press a key	HDDが検出できません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから電源を入れてください。
CPU Over Temperature Error!	CPUが高温になっています。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。
CPU Fan Error!	CPUファンが正常に動作していません。コンピュータの電源を切り、20秒以上待ってから電源を入れてください。
CPU Over Voltage Error!	CPUの電源電圧が異常です。コンピュータの電源を切り、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてください。

付録

本機をご使用になる際に役に立つ情報や、本機の仕様などについて説明します。

「お手入れ」	218
「データのバックアップ」	221
「バックアップCDの作成」	223
「電子マニュアルのダウンロード」	225
「セキュリティチップ（TPM）によるデータの暗号化」	226
「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」	227
「リチウム電池の交換」	236
「CMOS RAMの初期化」	239
「コンピュータを廃棄するときは」	242
「機能仕様一覧」	244

お手入れ

本機は精密な機械です。取り扱いに注意して、定期的にお手入れを行ってください。



お手入れは、本機の電源を切った状態で行ってください。

▶本機のお手入れ

本機のお手入れ方法について説明します。

外装の汚れ

コンピュータ本体の外装の汚れは、中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で、軽く拭き取ってください。

キーボードやマウスの外装の汚れも同様です。



ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

通風孔メッシュ

コンピュータ本体左側面の通風孔（吸気用）にあるメッシュにホコリなどがたまると、空気の通りが悪くなります。

通風孔メッシュのホコリは、定期的に乾いた柔らかい布で取り除いてください。

コンピュータ本体内部

本体内部にホコリなどがたまっている場合は、エアスプレーで吹き飛ばしてください。



- 作業するときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火災の原因となります。
- 電源ユニットは絶対に分解しないでください。けがや感電・火災の原因となります。



p.123 「本体カバーの取り外し・取り付け」



p.132 「拡張ボードの取り付け・取り外し」—手順4・手順8

お手入れの際、必要に応じてリンクバーを取り外してください。



- 作業時は、誤って本体内部の部品を傷つけたり、マザーボード上にある小さな部品を吸い込んだりしないよう注意してください。
- 水分を含ませたティッシュや科学ぞうきんなどは、使わないでください。水分や化学物質により故障の原因となります。

▶マウスのお手入れ

ホイール付PS/2マウスの内部のお手入れについて説明します。マウスの外装のお手入れについては、[p.218](#) 「外装の汚れ」をご覧ください。
マウスを長い間使っていると、マウスボールにホコリやゴミが付着します。マウスボールの汚れをそのままにして使い続けると、誤操作や故障の原因となります。マウスボールが汚れてきたら、クリーニングを行ってください。

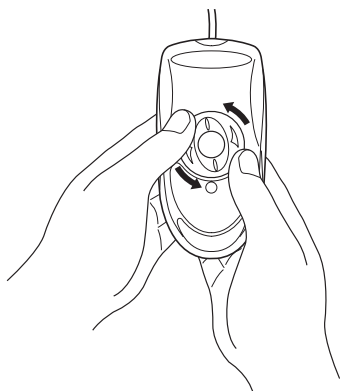


- 小さなお子様の手の届くところに、マウスボールやボールフレームを取り外したまま放置しないでください。口に入れたりすると窒息する危険があります。
- マウスボールは、絶対に投げないでください。マウスボールの芯には鋼球が入っていますので、人に当たるとけがをする危険があります。

クリーニングは、本機の電源を切った後、マウスケーブルを本機背面から取り外した状態で行います。
クリーニングの手順は、次のとおりです。

1 マウス底面のボールフレームを外します。

ボールフレームの滑り止め部分に親指を置いて、左回りに回します。



2 マウスボールを取り出します。

マウス底面を静かに下に向けると、ボールフレームとマウスボールが外れます。

3 マウスボールの汚れを乾いた布で拭き取ります。

マウスボールの汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた溶液で洗い、水でよくすすぎます。水洗い後は、マウスボールを乾いた布で拭き、十分乾燥させてから装着します。

クリーニング中は、マウス本体内部にゴミが入らないように注意してください。

4 マウスボールをマウス底面の穴に入れます。

5 ボールフレームをもとどおりに取り付けます。

右回りに回してマウス本体に装着します。



マウスボールの着脱を必要以上に繰り返さないでください。故障の原因となります。

データのバックアップ

Windowsを再インストールすると、Windowsがインストールされるドライブ（通常Cドライブ）に保存しているデータはすべて消去されます。Windowsを再インストールする前に、必要なデータのバックアップを取っておいてください。

▶バックアップ方法

Cドライブ内の「マイ ドキュメント」やInternet Explorerの「お気に入り」など、HDD内のデータをバックアップする方法やバックアップしたデータを復元する方法は、本機の「インフォメーションメニュー」にある「PCお役立ち情報」と「とらぶる解決ナビ」で詳しく紹介しています。

「PCお役立ち情報」の見方

バックアップ方法や復元方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」－「安全に安心して使おう！」項目の「バックアップ」



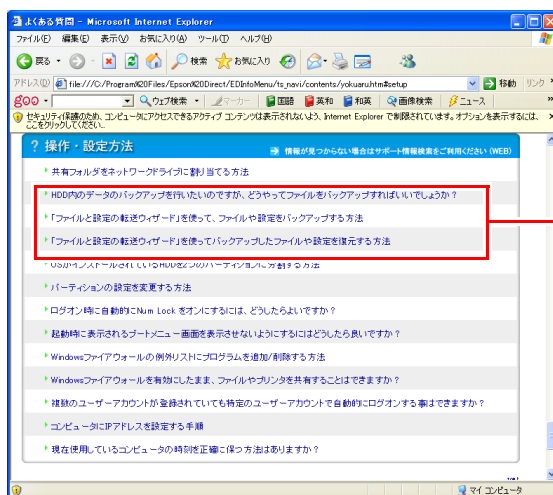
見たい情報を
クリック

<画面の内容は予告なく変更される場合があります>

「とらぶる解決ナビ」の見方

バックアップ方法や復元方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「とらぶる解決ナビ」－「よくある質問」
項目の「よくある質問を見る」－「操作・設定方法」



見たい情報を
クリック

<画面の内容は予告なく変更される場合があります>

バックアップCDの作成

<書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時>

HDDの消去禁止領域に収録されている本体ドライバやソフトウェアのインストール用データは、CDメディアにバックアップすることができます。

HDDが故障したり、誤って消去禁止領域を削除したりすると、インストール用データは消えてしまいます。万一に備え、インストール用データをCDメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

▶バックアップCDの作成方法

バックアップCDはリカバリツールを使用して作成します。

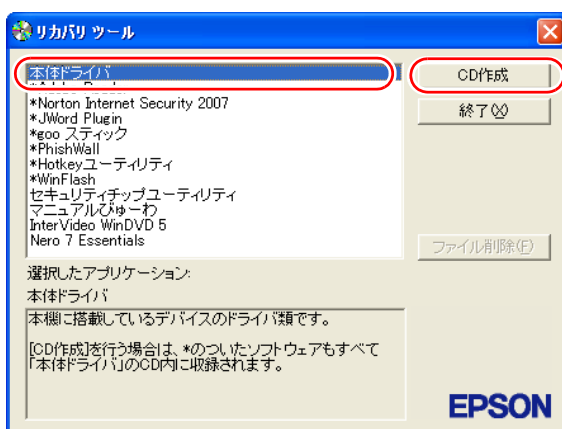
バックアップCDの作成方法は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「リカバリツール」アイコンをダブルクリックします。



リカバリツール

- 2 「リカバリツール」画面が表示されたら、[CD作成] をクリックします。
- 3 本体ドライバやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧からCDにバックアップしたい項目を選択して [CD作成] をクリックします。
バックアップするデータが一時的にHDDにコピーされます。選択した項目によっては、手順4の画面が表示されるまでに数分時間がかかります。



<イメージ>


項目名の前に「*」のついたソフトウェアは、すべて本体ドライバのCD内に収録されます。個々にCDを作成する必要はありません。それ以外の項目は、1項目につきCDメディアが1枚必要です。

- 4 画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってCDに書き込みを行ってください。

▶バックアップCDからインストールを行うには

作成したバックアップCDを光ディスクドライブにセットすると、自動的に「ドライバ・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。

インストールを開始するには、画面に表示された一覧から、本体ドライバは[インストール]を、そのほかのソフトウェアはソフトウェア名をクリックします。

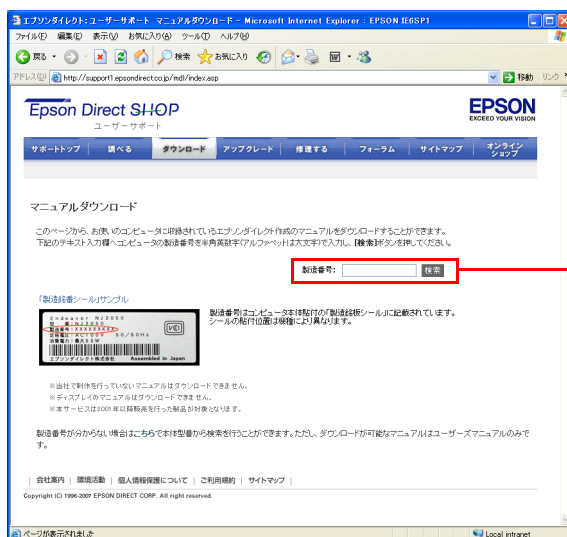
以降の手順は、 p.164「ソフトウェアの再インストールを行う」のそれぞれの項目をご覧ください。

電子マニュアルのダウンロード

当社のユーザーサポートページからは、お使いのコンピュータや周辺機器の電子マニュアル（PDF・HTMLなど）をダウンロードすることができます。紙マニュアルをなくしてしまった場合や、「マニュアルびゅーわ」のデータを消してしまった場合などにご利用ください。

電子マニュアルのダウンロードは、次の場所から行います。

「インフォメーションメニュー」－「ユーザーサポートページ（web）」－「ダウンロード」－「マニュアル」



本機の製造番号を入力して [検索] をクリック

< 画面の内容は予告なく変更される場合があります >



制限

ユーザーサポートページからダウンロードした電子マニュアルは、「マニュアルびゅーわ」で見えることはできません。マニュアルごとにファイルを開いてご覧ください。

▶ダウンロードできるそのほかのデータ

「ユーザーサポートページ（web）」－「ダウンロード」からは、次のデータもダウンロードすることができます。必要に応じてご利用ください。ダウンロードできるデータはお使いの機種により異なります。

- 最新のBIOS
- ドライバ
- ユーティリティ
- お問い合わせ情報
- 壁紙

セキュリティチップ (TPM) によるデータの暗号化

本機に搭載されているセキュリティチップ (TPM) を使用すると、本機に保存されているデータを高度に暗号化することができます。TPMのセキュリティ機能の使用方法は、『セキュリティ機能 (TPM) 設定ガイド』(別冊) をご覧ください。



TPM のセキュリティ機能で設定したパスワードは絶対に忘れないでください。忘れた場合、それまでに暗号化したデータの復元ができなくなります。

使用上の注意

これは管理者向けの機能です。TPMのセキュリティ機能を使用する場合は、内容を十分に理解し、お客様の責任において暗号化を行ってください。

TPMのセキュリティ機能使用前の準備


TPMのセキュリティ機能を使用するには、BIOSの設定と「セキュリティチップユーティリティ」のインストールが必要です。

● BIOSの設定

BIOSの設定値を次のように変更します。

「Boot」メニュー画面－「Security」－「Trusted Computing」
Execute TPM Command : Enabled (有効)

購入時は、「Disabled」(無効)に設定されています。

 p.139 「BIOS Setupユーティリティの操作」

● セキュリティチップユーティリティのインストール

購入時、本機に「セキュリティチップユーティリティ」はインストールされていません。TPMのセキュリティ機能を使用するには、セキュリティチップユーティリティのインストールを行う必要があります。

インストール方法は、『セキュリティ機能 (TPM) 設定ガイド』をご覧ください。

HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成

ここでは、HDD領域（ドライブ）を分割・変更して使用方法について説明します。

▶HDD領域を分割して使用する（概要）

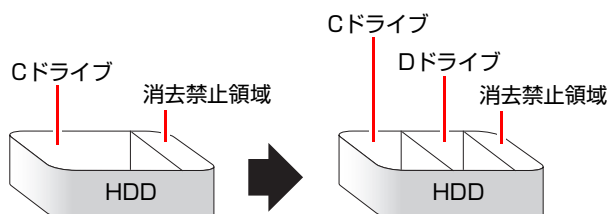
HDD領域（ドライブ）の分割

HDD領域は、いくつかに分けて、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。

HDDを分割した1つ1つを「HDD領域」または「パーティション」とも言います。また、Windowsで使えるHDD領域が、「ドライブ」になります。

＜1台のHDDを分割する＞

例：1つのHDD領域（Cドライブ）を、2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割します。



参考

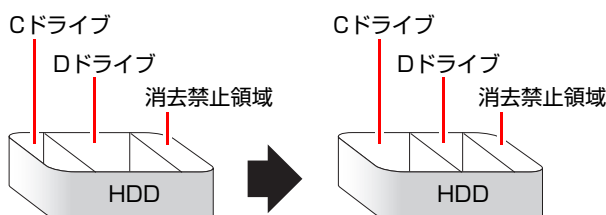
消去禁止領域
「消去禁止領域」には、本体ドライバやソフトウェアなどの再インストールのためのデータが収録されています。この領域を削除すると再インストールができなくなります。絶対に削除しないでください。

HDD領域（ドライブ）のサイズの変更

すでに分割されているHDD領域のサイズ（容量）を変更することもできます。

＜ドライブのサイズを変更する＞

例：Cドライブのサイズを大きくします。



この場合は、CドライブとDドライブを削除して、分割しなおす必要があります。

▶Cドライブを分割・変更する

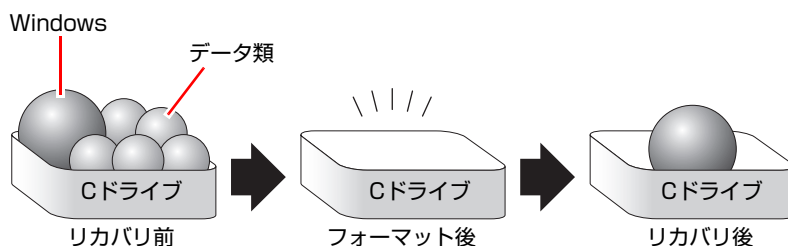
Cドライブ分割のメリットとデメリット

Cドライブを分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
Cドライブを分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

- メリット

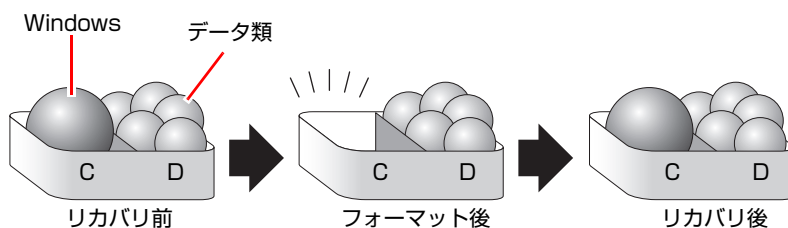
HDD領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、リカバリ時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

<HDD領域が1つの場合>



リカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、Cドライブのデータはすべて消去されます。

<HDD領域を分割した場合>



たとえば、WindowsやソフトウェアはCドライブに、作成したデータなどはDドライブに保存しておきます。

この状態でリカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、消去されるのはCドライブのみとなるため、Dドライブのデータは、リカバリ後、すぐにそのまま使用することができます。



制限


HDDが分割されている状態でリカバリを行うときは、万一に備えてCドライブ以外のドライブの重要なデータをバックアップしてください。

● デメリット

- Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割を行うには、リカバリ（Windowsの再インストール）が必要です。
- HDD 領域を変更すると、変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。

Cドライブの分割・変更の流れ


Cドライブの分割・変更は、リカバリ（Windowsの再インストール）中に行います。サイズ（容量）を変更するには、まず変更するドライブを削除してからサイズを指定して再作成します。

Cドライブ以外のドライブの変更方法は、 p.231 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。




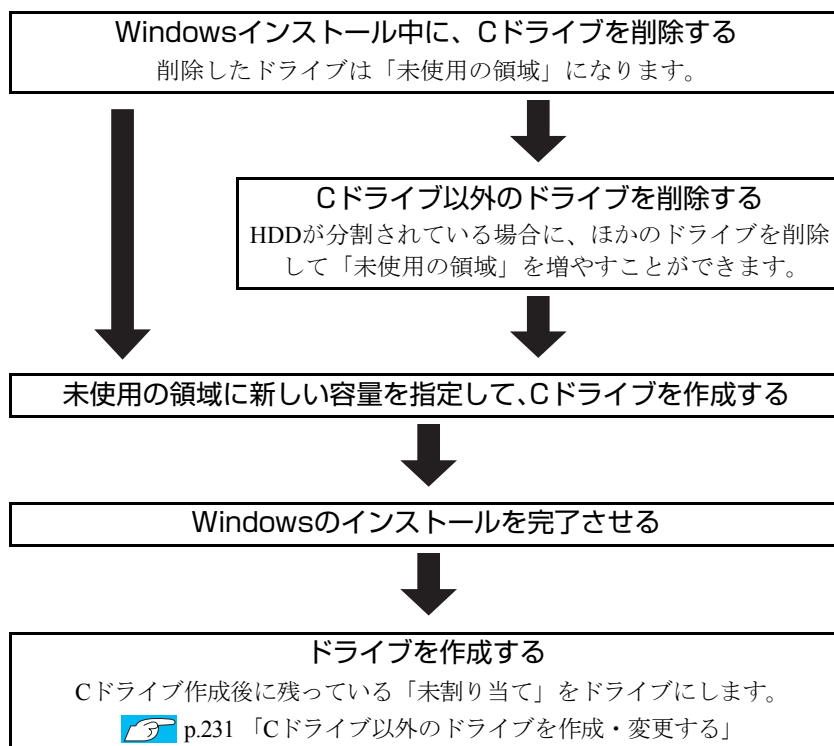
制限

ドライブを分割・変更すると、分割・変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。必要に応じてバックアップを取っておいてください。

 p.221 「データのバックアップ」


Cドライブの分割・変更の流れは次のとおりです。

作業は  p.230 「Cドライブを分割・変更する」に従ってください。



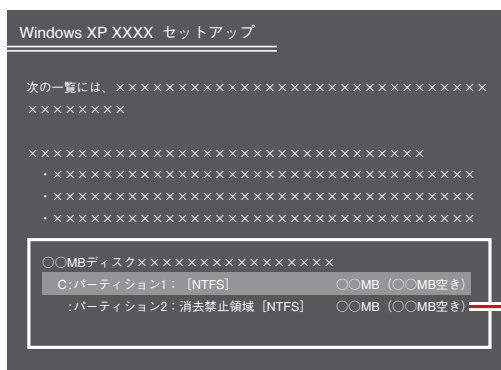
Cドライブを分割・変更する

Cドライブの分割・変更をする場合はWindowsのインストールが必要です。

 p.170 「Windows XPのインストール」の手順5～8を、次の手順に読み替えてWindowsのインストールを行ってください。

<p.170 「Windows XPのインストール」の手順5～8の読み替え>

- 1 「次の一覧には、このコンピュータ上の・・・」と表示されたらCドライブを選択し、（削除）を押します。



「消去禁止領域」を、誤って削除しないでください。

一覧に表示されている「消去禁止領域」は本体ドライバやソフトウェアの再インストールに使用する領域です。絶対に削除しないでください。

- 2 「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、を押します。
- 3 「○○MBディスク××から次のパーティションを削除します。…」と表示されたら を押します。
ドライブが未使用の領域になります。

- 4 「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。

<Cドライブを分割する場合>

- (1) 「未使用の領域」を選択して を押します。
手順5に進みます。

<Cドライブの容量を増やす場合>

すでにHDDが分割されている場合は、Cドライブ以外のドライブを削除して未使用の領域を増やします。ただし、削除したドライブのデータは消えてしまいます。

- (1) Cドライブ以外のパーティション（ドライブ）を選択して （削除）を押します。
消去領域は削除しないでください。

(2) 手順2、3を実行します。

選択したパーティションが「未使用の領域」になります。

(3) 「未使用の領域」を選択して を押します。

手順5に進みます。


5 Cドライブの容量を決めます。「○○MBディスク××に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ(MB)」に表示されている数字を で削除し、任意の数値を入力して を押します。

Cドライブには、20GB (20000MB) 程度を割り当てることをおすすめします。

6 「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、「C: パーティション1 (未フォーマット)」を選択して を押します。

未使用の領域は、ここではフォーマットできません。インストール後「ディスクの管理」で行います。

7 「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して を押します。

 p.170 「Windows XPのインストール」の手順9に進みます。


▶Cドライブ以外のドライブを作成・変更する

ここでは、Cドライブ以外のドライブを作成・変更する方法について説明します。

次のような場合をご覧ください。

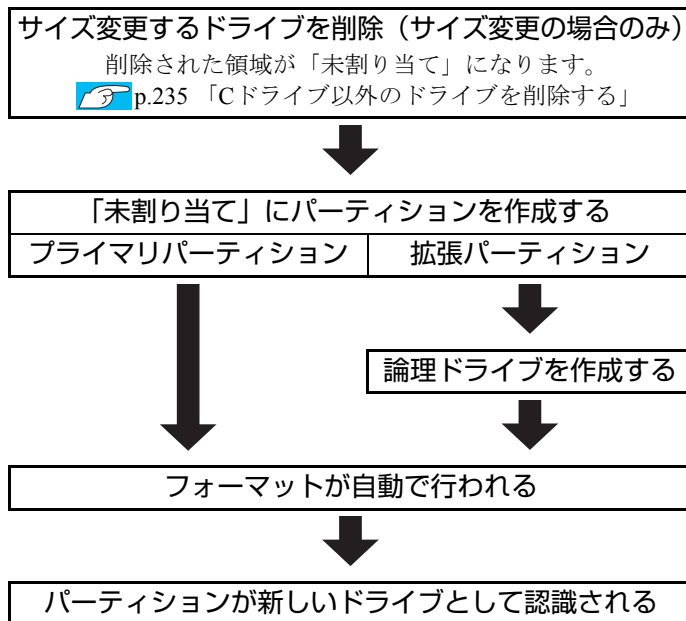
- Cドライブ以外のドライブのサイズを変更する場合
- Windowsの再インストール中にCドライブを分割して作成・変更された「未割り当て」をドライブにして使用する場合

Cドライブ (Windowsの入っているドライブ) の分割・変更を行う場合は、

 p.228 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

ドライブ作成・変更の流れ

ドライブの作成の流れは次のとおりです。



※ HDD 内の「未割り当て」にパーティションを作成すると、パーティションは、Windows上でドライブ（DやEなど）として利用できるようになります。

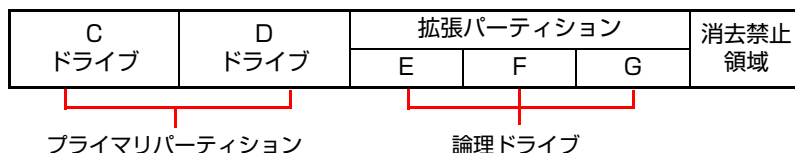


パーティションとは

- ドライブの作成・変更を行う画面（ディスクの管理）では、HDD領域のことを「パーティション」と言います。パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。
- 1つのHDDに作成できるパーティションは最大で4つです。
そのうち作成できる拡張パーティションは、1つです。
- 消去禁止領域はプライマリパーティションの1つです。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

プライマリパーティション、拡張パーティションを組み合わせると、次のように1つのHDDに新しいドライブを5つ以上作成することもできます。

<パーティションの組み合わせの例>

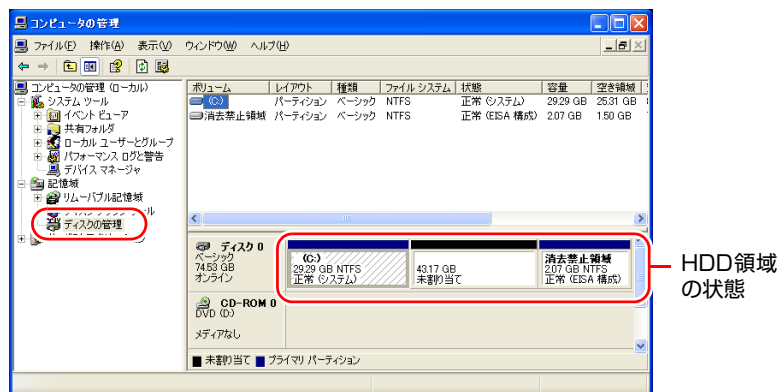


HDD領域（パーティション）の作成手順

HDD領域を作成する手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理」をダブルクリックします。
- 2 「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」をクリックします。

画面右下のウィンドウにHDD領域の状態が表示されます。



<イメージ>

- 3 パーティションを設定したい「未割り当て」の領域を右クリックして、表示されたメニューから「新しいパーティション」をクリックします。
- 4 「新しいパーティションウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 5 「パーティションの種類を選択」と表示されたら、「プライマリパーティション」または「拡張パーティション」を選択して [次へ] をクリックします。通常はプライマリパーティションを選択します。
- 6 「パーティションサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して [次へ] をクリックします。
手順5でプライマリパーティションを選択した場合は、手順12へ進みます。
- 7 「新しいパーティションウィザードの完了」と表示されます。[完了] をクリックします。
拡張パーティションを作成した領域は、「空き領域」として表示されます。続いて「空き領域」に論理ドライブを作成します。
- 8 「空き領域」を右クリックして、表示されたメニューから「新しい論理ドライブ」をクリックします。

- 9** 「新しいパーティションウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 10** 「パーティションの種類を選択」と表示されたら、「論理ドライブ」が選択された状態で、[次へ] をクリックします。
- 11** 「パーティションサイズの指定」と表示されたら、「パーティションサイズ」に任意の値を入力して [次へ] をクリックします。
複数の論理ドライブを作成する場合は、画面に表示されている「最大ディスク領域」以下の値を入力します。
- 12** 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、「次のドライブ文字を割り当てる」で任意のドライブレターを選択して、[次へ] をクリックします。
「ドライブレター」は、ドライブの識別記号になります。
- 13** 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、「このパーティションを以下の設定でフォーマットする」が選択された状態で [次へ] をクリックします。
表示されている設定値を変更する必要はありません。
- 14** 「新しいパーティションウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
自動的にフォーマットが行われます。
フォーマットが終了したら、HDD領域の作成は完了です。
複数の論理ドライブを作成する場合は、手順8～14の作業を繰り返します。

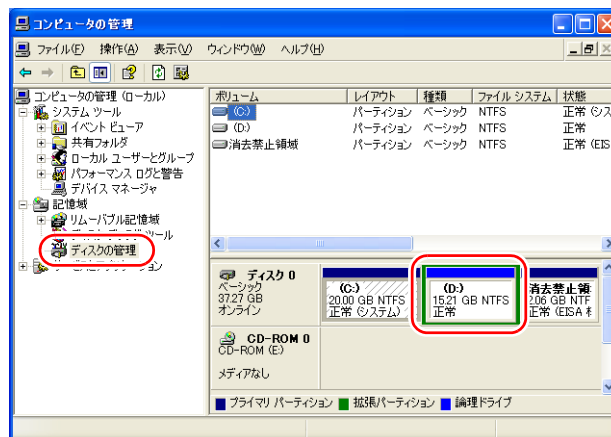
▶Cドライブ以外のドライブを削除する

Cドライブ以外のドライブ（Dドライブなど）のサイズを変更するには、変更するドライブを削除して、新しいサイズでドライブを作成しなおします。

ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。ドライブ内の重要なデータは、CドライブやCD-Rメディアなどにあらかじめバックアップを行ってください。

ドライブを削除する手順は、次のとおりです。


- 1 「スタート」 - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理」をダブルクリックします。
- 2 「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」をクリックします。



<イメージ>

- 3 削除したいドライブ（パーティション）の領域を右クリックして、表示されたメニューから「論理ドライブの削除」または「パーティションの削除」をクリックします。
- 4 「・・・続行しますか？」と表示されたら【はい】をクリックします。

プライマリパーティションを削除すると、「未割り当て」、論理ドライブを削除すると、「空き領域」になります。「未割り当て」や「空き領域」をパーティションとして使用したい場合は、パーティションの作成を行います。

 p.233 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、メインボード上のリチウム電池により保持されます。

本機で使用するリチウム電池は、次のとおりです。

- CR2032（または同等品）

リチウム電池は消耗品です。コンピュータの使用状況により異なりますが、寿命は約3年です。

日時や時間がおかしくなったり、BIOSで設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。



- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。




- 内蔵リチウム電池の交換は、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。




リチウム電池の交換を行うと、現在の BIOS の設定情報は初期値に戻ります。リチウム電池の交換を行う前に、BIOS の設定値を記録しておくことをおすすめします。

 p.159 「BIOS の設定値」

リチウム電池を交換する手順は、次のとおりです。

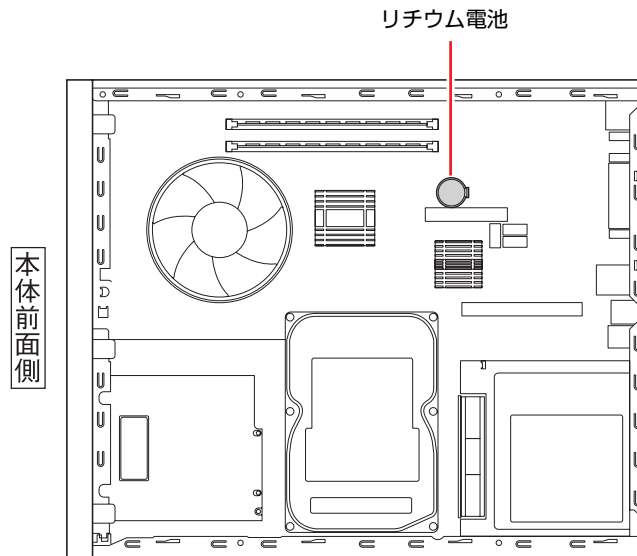
- 1** コンピュータ本体および接続している周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** コンピュータ本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.123 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り外し」
- 4** 本体を横置きにします。

5 拡張ボードを装着している場合は、リンクバーを取り外します。

 p.132 「拡張ボードの取り付け・取り外し」－「取り付け」手順4

6 リチウム電池の位置を確認します。

リチウム電池は、メインボード上の次の位置にあります。

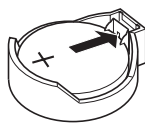


7 リチウム電池を抜きます。

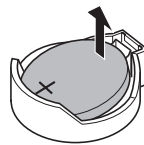
(1) 電池ホルダの留め金を押します。

(2) リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。

(1)

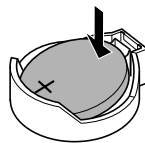







(2)



8 新しいリチウム電池を取り付けます。

刻印面(+側)が表側になるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。取り付けると、「カチッ」と音が鳴ります。



- 9** 手順5でリンクバーを取り外した場合は、もとおりに取り付けます。
 p.132 「拡張ボードの取り付け・取り外し」－「取り付け」手順8
- 10** 本体カバーを取り付けます。
 p.123 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り付け」
- 11** コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。
- 12** コンピュータの電源を入れます。
- 13** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「CMOS Setting Wrong」と表示されたら、 を押して、BIOS Setupユーティリティを実行します。
 p.140 「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 14** 「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」を実行します。
 p.144 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」
- 15** 日付、時刻やそのほか変更する必要がある項目の再設定を行います。
- 16** 「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」で「Ok」を選択してBIOS Setupユーティリティを終了します。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMには、「BIOS Setupユーティリティ」で設定した各種情報などが保存されています。通常は、CMOS RAMを初期化する必要はありません。BIOS Setupユーティリティで設定したパスワードを忘れたり、BIOSの設定を誤ったりして本機が起動しなくなった場合には、CMOS RAMを初期化することで動作が可能になります。





- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。




- CMOS RAMの初期化は、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。





- CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報は初期値に戻ります。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。
 p.159 「BIOSの設定値」
- BIOS で管理者パスワードを設定し、HDD のアクセスを制限していた場合、CMOS RAMの初期化を行っても、HDDへのアクセス制限を解除することはできません。HDDへのアクセス制限を設定したHDDは、管理者パスワードを忘れると使用できなくなります。
 p.145 「パスワードを設定する」 - 「アクセス制限の設定」 - 「HDDへのアクセス制限」

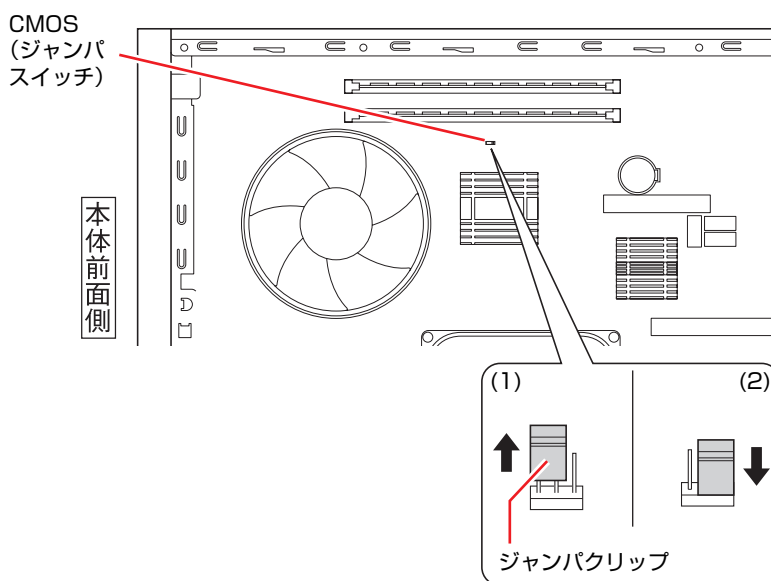
CMOS RAMの初期化の手順は、次のとおりです。


- 1 コンピュータ本体および接続している周辺機器の電源を切ります。**
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 コンピュータ本体に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。**
- 3 本体カバーを取り外します。**






 p.123 「本体カバーの取り外し・取り付け」 - 「取り外し」

- 4** 本体を横置きにします。
- 5** 拡張ボードを装着している場合は、リンクバーを取り外します。
 p.132 「拡張ボードの取り付け・取り外し」－「取り付け」手順4
- 6** リチウム電池を取り外します。
 p.236 「リチウム電池の交換」手順7
- 7** メインボード上のジャンプスイッチ（CMOS）で、ジャンパクリップの位置を変更します。
 ジャンパクリップを抜き差しする際は、メインボードにキズを付けないように注意してください。

- (1) 下の図のように本体を置いたときに、左寄りの2本のピンにジャンパクリップが差し込まれています。このジャンパクリップを抜き取ります。
- (2) ジャンパクリップを下図の右寄りの2本のピンに差し込みます。



- 8** そのまま5秒以上、放置します。
- 9** ジャンパクリップの位置を元に戻します。
 ジャンパクリップを上図の左寄りの2本のピンに差し込みなおします。
- 10** リチウム電池を取り付けます。
 p.236 「リチウム電池の交換」手順8

- 11** 手順5でリンクバーを取り外した場合は、もとどおりに取り付けます。
 p.132 「拡張ボードの取り付け・取り外し」－「取り付け」手順8
- 12** 本体カバーを取り付けます。
 p.123 「本体カバーの取り外し・取り付け」－「取り付け」
- 13** コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。
- 14** コンピュータの電源を入れます。
- 15** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「CMOS Setting Wrong」と表示されたら、 を押して、BIOS Setupユーティリティを実行します。
 p.140 「BIOS Setupユーティリティの操作」
- 16** 「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」を実行します。
 p.144 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」
- 17** 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。
- 18** 「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」で「Ok」を選択してBIOS Setupユーティリティを終了します。

コンピュータを廃棄するときは

本機を廃棄するときは『サポート・サービスのご案内』(別冊)の「コンピュータの廃棄・譲渡について」をご覧ください。

▶HDDのデータを消去する

本機を廃棄する前にHDDのデータを消去してください。

リカバリツールCDに収録されている「システム診断ツール」では、HDD内のデータをすべて消去することができます。

消去を開始すると、HDDのデータはもとには戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。










データ消去の結果について、当社および開発元の Ultra-X 社は責任を負いません。HDD のデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。



<2台のHDDを接続している場合>

1台目のHDDのデータのみが消去されます。2台目のHDDのデータを消去することはできません。

データの消去

HDD内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、リカバリツールCDを光ディスクドライブにセットします。
インストール画面が表示されたら、をクリックして画面を閉じてください。
- 2** [スタート] - [終了オプション] - [再起動] をクリックして、本機を再起動します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面の左下に「Kernel Loading・・・ Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 4**  +  を押して診断を中止した後、どれかキーを押します。
- 5** 選択項目画面が表示されたら、 で「HD Erase」を選択して  を押します。
- 6** 選択項目画面が表示されたら、 で「Full Erase」を選択して  を押します。

- 7** 選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して  を押します。
「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去が開始されると、途中で止めることはできません。消去を中止する場合は、 を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。
- 8** キーボードで「Yes」と入力します。
消去が始まります。
消去には、しばらく時間がかかります。時間はHDDの容量によって異なります（40GBのHDDの場合で約30分）。
- 9** 「Erase of HDO :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、リカバリツールCDを光ディスクドライブから取り出して、本機の電源を切ります。
これでデータの消去は完了です。

機能仕様一覧

CPU	プロセッサ	インテルPentium Dual-Coreプロセッサ、インテルCore 2 Duoプロセッサ、インテルCeleronプロセッサ（購入時の選択による）
	ソケット	LGA775 Socket
チップセット		インテルG31 Express チップセット（G31+ICH7）
BIOS		AMI BIOS
セキュリティチップ（TPM）	対応規格	TPM 1.2
	コントローラ	Infineon SLB9635TT1.2
メインメモリ		PC2-5300（DDR2-667 SDRAM）を使用して最大2GBまで搭載可能
ビデオ	メモリ	メインメモリより最大256MBを使用
	コントローラ	チップセット内蔵
サウンドコントローラ		ハイデフィニションオーディオ対応 Realtek製 ALC262
記憶装置	HDD	1台内蔵（S-ATA II対応）（容量、台数は購入時の選択による）
		オプション選択された場合、2nd HDDを1台内蔵（S-ATA II対応）
	光ディスクドライブ	1台内蔵（S-ATA対応）（種類は購入時の選択による）
FDDまたはマルチカードリーダー（オプション）		オプション選択された場合、1台内蔵 3.5型FDD またはマルチカードリーダー（メモリースティック、スマートメディア、コンパクトフラッシュ、SDメモリーカード、マルチメディアカード対応）
インタフェース	USB	6：USB2.0（前面側×2、背面側×4）
	LAN	1：RJ-45 1000Base-T/100Base-TX/10Base-T対応 自動認識
	サウンド	前面側：ヘッドフォン出力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1 背面側：ライン出力コネクタ×1、ライン入力コネクタ×1
	ディスプレイ	1：VGAコネクタ（アナログRGB ミニD-SUB 15ピン） 1：DVI-Dコネクタ（デジタルDVI-D24ピン）
	キーボード	1：IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン
	マウス	1：IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン
	パラレル	1：セントロニクス社準拠D-SUB 25ピン マルチモード双方向ECP/EPPサポート
	シリアル	1：RS-232C準拠D-SUB 9ピン
ドライブベイ	5.25型ドライブベイ	1：光ディスクドライブ1台を装着済み（種類は購入時の選択による）
	HDDベイ	2：S-ATA II HDDを1ベイ装着済み、オプションのFDD、マルチカードリーダーまたは増設HDDを1ベイ装着可能
外部拡張スロット		2：PCI ボード長178mm×ボード幅108mmまで装着可能
キーボード		日本語対応109PS/2キーボード（6点入力対応）（種類は購入時の選択による）
マウス		ホイール付PS/2マウス（種類は購入時の選択による）
カレンダー時計		内蔵（リチウム電池によりバックアップ）
電源容量		250W
入力電圧		AC100V±10% 50/60 Hz
温湿度条件		温度：10～35℃ 湿度：20～80%（ただし、結露しないこと）
外形寸法（縦置き時）		本体：約99（幅）×383（奥行）×310（高さ）mm （突起部、縦置きスタンド除く）
質量		本体：約7.2kg（本体のみ）
消費電力		357W（最大）/3.7W（スタンバイ時）/3.0W（電源OFF時）

索引

数字

109PS/2キーボード	58
3.5型2DD	62
3.5型2HD	62
3.5型FDD	29

A

Administrator	44
Adobe Reader	23
インストール	176
セットアップ	176
ADSL	101
Advancedメニュー画面	152

B

BIOS	137
BIOS Setupユーティリティ	139
起動	139
起動(Boot)デバイスの順番を変更する	148
終了	143
設定項目	150
設定値	159
設定値を元に戻す	144
操作	140
パスワードの設定	145
Bootメニュー画面	156

C

Caps Lock	60
CATV	101
CDメディア	
読み込み・再生	73
CMOS RAMの初期化	239
COAラベル	21
Compact Flash	77
COMポート	117

Cドライブ	66
分割・変更する	228
Cドライブ以外のドライブ	
削除する	235
作成・変更する	231

D

DDR	126
DVDメディア	
読み込み・再生	73
DVI-Dケーブル	35
DVI-Dコネクタ	27, 35

E

Exit & Discard Changes	143
Exit & Save Changes	143
Exitメニュー画面	158

F

FDD	
アクセスランプ	29
イジェクトボタン	29
FDD(フロッピーディスクドライブ)	29
使う	62
不具合	200
FD(フロッピーディスク)	62
使う	62
フォーマット	64
製品保護上の注意	8

G

gooスティック	23, 104
インストール	180

H

HDDアクセス制限	147
-----------------	-----

HDDアクセスランプ	26	Memory Stick.....	78
HDD設定変更サービス	67	Microsoft .NET Framework	22
HDDのデータ消去	242	MS-IME.....	59
HDD領域	66	MultiMedia Card.....	78
作成手順	233		
分割・変更・作成	227	N	
HDD(ハードディスクドライブ)		Nero 7 Essentials	74
使う	66	インストール	179
不具合	201	使い方	75
領域の分割・変更・作成	227	Norton Internet Security 90日版	23, 107
I		インストール	177
InCD.....	75	ファイアウォール機能	108
Internet Explorer.....	102	NTFSファイルシステム	66, 167
情報バー	104	Num Lock	60
追加機能	104	O	
ISDN回線	101	OS	15
i-フィルター 30日版	23, 109	Outlook Express.....	102
インストール	177	初期設定	103
管理パスワード	110, 178	P	
セットアップ	178	PCIスロット	131
J		PCお役立ち情報	52, 221
Java2 Runtime Environment	22	Power メニュー画面	154
JWord.....	104	S	
JWord Plugin	23	S-ATA (Serial ATA)	66
インストール	180	Scroll Lock.....	60
L		SD Memory Card.....	78
LAN機能	97	SDRAM	126
LANケーブル	39, 97	SDカードスロット	80
接続	39	SDメモリーカード	78
LANコネクタ	28, 39, 97	SmartMedia.....	77
M		SpeedStep.....	117
Mainメニュー画面	150	Supervisor Password(管理者パスワード)	145

- T**
TPM(セキュリティチップ) 226
- U**
USB..... 83
USB機器 83
 接続と取り外し 83
 使う 83
USBコネクタ 26, 27
User Password(ユーザーパスワード) 145
- V**
VGAケーブル 35
VGAコネクタ 27, 35
- W**
Wakeup On LAN 98
Webフィルタリング 109
Webフィルタリングソフトウェア 109
 インストール 177
Windows
 終了 55
Windows CD-ROM 53
Windows Media Player 22, 94
Windows Update 48, 105
Windows XP
 インストール 168, 170
 強制終了 56
 再起動 56
 セットアップ 42, 45
Windows XPリカバリCD 22, 164
WinDVD 73
 インストール 179
- あ**
アース線 40
アース端子 40
アイコン 16
アクティベーション 46
アップグレードサービス 121
アップデート
 BIOS 138
アドミニストレーター 44
アナログディスプレイ 85, 87
アナログ電話回線 101
- い**
インストール
 Adobe Reader 176
 gooスティック 180
 i-フィルター 30日版 177
 JWord Plugin 180
 Nero 7 Essentials 179
 Norton Internet Security 90日版 177
 Webフィルタリングソフトウェア 177
 Windows XP 168, 170
 WinDVD 179
 拡張ボードのドライバ 175
 セキュリティソフトウェア 177
 セキュリティチップユーティリティ 182, 226
 不具合 211
 本体ドライバ 174
 マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版 181
 マニュアルびゅうわ 178
 リカバリツール 173
インターネット 100
 不具合 211
インフォメーションメニュー 22, 51
- お**
お手入れ 218
お問い合わせ情報シール 21

オペレーティングシステム	15	強制終了	56
音量の調節	94	記録メディア	8
か			
解像度	86	く	
外部スピーカ	92	クラシック表示	54
書き込み		クリック	42, 61
光ディスクメディア	74	け	
拡張スロット	28, 120, 131	警告メッセージ	216
拡張パーティション	232	こ	
拡張ボード		コピーコントロールCD.....	68
増設に関する不具合	197	困ったときに	187
取り付け・取り外し	132	コントロールパネルの表示	54
取り付け・取り外し後の作業	135	コンパクトフラッシュ	77
拡張ボードのドライバ		コンパクトフラッシュスロット	80
インストール	175	コンピュータウイルス	102, 107
各部の名称と働き	26	コンピュータの管理者	45, 166
カスタマイズ	17	コンピュータの廃棄	242
カテゴリの表示	54	コンピュータ本体の不具合	188, 196
かな入力	59	コンピュータ名	44
管理者	44	さ	
管理者パスワード	145	再インストール	162
管理パスワード		必要なメディア	164
i-フィルター 30日版	110, 178	再起動	56
き			
キーボード	58	再生	
キーボードコネクタ	27	CDメディア	73
キーロック表示ランプ	58	DVDメディア	73
記憶装置		音声	94
不具合	200	サウンド機能	92
起動順位の変更	148, 156	サウンドドライバ	22
機能キー	58	サウンドユーティリティ	95
機能仕様一覧	244	サウンドレコーダー	94
休止状態	113	サポート情報検索	52
有効にする	114	サポート・サービスのご案内	21, 186

し

システム診断ツール	22, 24, 212
HDDのデータ消去	242
システムの拡張	119
システムの復元	53, 214
自動更新	105
周辺機器	
増設・交換に関する不具合	197
使用可能なメモリカード	77
消去禁止領域	22, 67, 171, 227, 230
省電力機能	53, 112
移行方法	115
時間経過で移行させない	115
不具合	196
復帰方法	116
情報バー	104
使用・保管時の注意	7
終了	55
初期設定ツール	47
初期値に戻す	144
シリアルコネクタ	28, 117
シングルチャネル	127

す

数値キー	58
スクロール	61
スタンバイ	113
スピーカ	
不具合	208
スピードステップ機能	117
スマートメディア	77
スマートメディアスロット	80
スロットカバー	133

せ

制御キー	58
製品保護上の注意	7
セーフモード	214
セキュリティ機能	226
セキュリティソフトウェア	107
インストール	177
セキュリティ対策	53
セキュリティチップドライバ	22
セキュリティチップユーティリティ	23
インストール	182, 226
設定	169
セキュリティチップ(TPM)	226
不具合	197
セキュリティロックスロット	28, 118
接続と取り外し	
USB機器	83
設定値を元に戻す	144
セットアップ	
Adobe Reader	176
i-フィルター 30日版	178
Windows	42, 44, 45
セットアップ完了後の作業	48
セットと取り出し	
FD	62
光ディスクメディア	69
メモリカード	80
前面	26

そ

増設	
拡張ボード	132
メモリ	126
ソフトウェアの強制終了	56
ソフトウェアの不具合	208

た

ダウンロード	225
壁紙	225
最新のBIOS.....	225
電子マニュアル	225
ドライバ	225
ユーティリティ	225
タスクバー	16
縦置きスタンド	32
縦置きにする場合	32
タブ	16
ダブルクリック	61

ち

直接入力モード	59
---------------	----

つ

通知領域	16
通風孔	27, 28

て

ディスクの管理	182, 232
ディスプレイ	
接続	35
DVI-Dコネクタ	27, 85
VGAコネクタ	27, 85
設定	88
データの暗号化	226
デジタルディスプレイ	85
デスクトップ	16
デュアルチャネル	127
電源コード	
接続	40
電源コネクタ	27
電源スイッチ	26
電源の入れ方	43

電源の切り方	55
電源ランプ	26
表示	114
電子マニュアル	
ダウンロード	225
電池ホルダ	237
添付されているソフトウェア	22

と

ドライバ	
マルチカードリーダー	22
ドラッグアンドドロップ	61
とらぶる解決ナビ	52, 186, 222
トラブルが解決しなかったら	53
トラブルが発生したら	186
取り付け・取り外し	
拡張ボード	132
本体カバー	123
メモリ	127
取り付け・取り外し後の作業	
拡張ボード	135
メモリ	130

な

内蔵モノラルスピーカ	92
ナローバンド	100

に

日本語入力システム	59
日本語入力モード	59
入力キー	58
入力装置	
不具合	205

ね

ネットワーク	97
--------------	----

接続	39	表示装置	88
不具合	211	不具合	206
ネットワーク機能	97	ふ	
使う	97	ファイアウォール	108
ネットワークドライバ	22	ファイル削除	
は		リカバリツール	175
パーティション	232	ファイルシステム	
ハードディスクドライブ(HDD)	67	NTFS.....	171
使う	66	フィッシング詐欺検出機能	107
領域の分割・変更・作成	227	不具合	
廃棄(コンピュータ)	242	FDD(オプション)	200
パスワード	44, 145	HDD.....	201
パスワードの設定	145, 157	インストール	211
バックアップ	169, 221	キーボード	205
バックアップCD		起動	188, 195
インストール	224	省電力機能	196
作成	223	スピーカ	208
パラレルコネクタ	28, 117	セキュリティチップ(TPM)	197
ハングアップ	56	装置の増設・交換	197
		そのほか	198
		ソフトウェア	208
ひ		ディスプレイ	206
光ディスクドライブ	26	ネットワーク、インターネット	211
使う	68	光ディスクドライブ	201
不具合	201	マウス	206
光ディスクドライブアクセスランプ	26	マルチカードリーダー	204
光ディスクドライブイジェクトホール	26	メモリ	199
光ディスクドライブイジェクトボタン	26	復元ポイントの作成	53, 215
光ディスクメディア		復帰する	
書き込み	74	省電力状態	116
製品保護上の注意	8	プライマリパーティション	232
読み込み・再生	73	ブロードバンド	100
光ファイバー(FTTH)	101	フロッピーディスクドライブ(FDD)	62
ビデオドライバ	22	プロバイダ	100
ビデオメモリ	130		
表示機能	85		

へ

ヘッドフォン出力コネクタ 26, 92

ほ

ボタン 16

ボリューム 94

本機でできること 25

本体カバー

取り外し・取り付け 123

本体ドライバのインストール 174

ま

マイク入力コネクタ 26, 92

マウス 61

お手入れ 219

製品保護上の注意 9

接続 38

操作 61

使い方 42

不具合 206

マウスコネクタ 27

マウスポインタ 42

マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版 23

インストール 181

マニュアルびゅうわ 52

インストール 178

マルチカードリーダー 77

アクセスランプ 30

ドライバ 22

不具合 204

マルチメディアカード 78

み

右クリック 61

め

メモリ

仕様 126

増設 126

増設・交換後の作業 130

取り付け・取り外し 127

不具合 199

メモリースティック 78

メモリースティックスロット 80

メモリカード

セットと取り出し 80

メモリカードアイコン 82

も

文字キー 58

文字を入力するには 59

ゆ

ユーザーサポートページ 52

ユーザー登録 46

ユーザーパスワード 145

ユーザー名 44

よ

横置きにする場合 33

読み込み・再生

CDメディア 73

DVDメディア 73

ら

ライザーボード 133

ライセンス認証 46

ライティングソフト 74

ライトプロテクト 65

ライン出力コネクタ 27, 93

ライン入力コネクタ 27, 93

り

リカバリ	162
リカバリツール	22
インストール	173
バックアップCDの作成	223
ファイル削除	175
リカバリツールCD.....	22, 164
リチウム電池の交換	236
リフレッシュレートの設定	88
リムーバブルディスク	82

リモートブート	99
領域の作成	182
リンクバー	132

ろ

ローマ字入力	59
録音	
音声	94
論理ドライブ	232

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼動システムなど極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用は意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人 電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

有寿命部品について

当社のコンピュータには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。

有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日約8時間、1ヶ月で25日間のご使用で約5年です。

上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。

なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。

JIS C 61000-3-2適合品

本製品は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

パソコン回収について



当社では、不要となったパソコンの回収・再資源化を行っています。

PCリサイクルマーク付きの当社製パソコンおよびディスプレイは、ご家庭から廃棄する場合、無償で回収・再資源化いたします。

パソコン回収の詳細は下記ホームページをご覧ください。

<http://shop.epson.jp/pcrecycle/>

著作権保護法について

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販のCD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改編して掲載する場合も含む）するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者（放送事業者や実演家などの隣接権者を含む）の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。

また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしました。万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

- Microsoft、Windows、Windows Media、Internet Explorerは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core、Core Inside、Intel SpeedStep、Pentium、Celeronはアメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporation商標です。
- PS/2はInternational Business Machinesの登録商標です。
- Symantec、Symantec ロゴ、Norton Internet Security、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。
- McAfee およびマカフィーは、米国法人McAfee, Inc. またはその関連会社の米国またはその他の国における登録商標です。
- Adobe、Adobe ロゴ、Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- Memory Stick、マジックゲート、Memory Stickのロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- MultiMedia CardTMは、ドイツInfineon Technologies AG社の商標です。
- SDロゴは商標です。
- SmartMediaTM、及びそのロゴは、株式会社 東芝の商標です。
- そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。



shop.epson.jp